
男女共同参画社会に向けての意識調査
結果報告書

平成 22 年 7 月

京丹後市

～ 目 次 ～

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	2
2.	調査設計等	2
3.	回収結果	2
4.	報告書の見方	3
II	調査結果	5
1.	あなたご自身（ご回答者）のことについて	6
2.	男女平等に関する意識について	11
3.	職業生活について	29
4.	家庭生活について	46
5.	人権について	62
6.	男女共同参画社会について	66
7.	その他回答・自由記述	71
III	調査結果からみた課題	79
1.	男女平等をめぐる意識改革	80
2.	女性の就労について	80
3.	人権の確立	81
4.	男女共同参画の実現	82
IV	資料	83

I 調査の概要

1. 調査の目的

京丹後市では、男女が共に社会参画できるまちづくりを目指し、その行動指針として平成17年度に「京丹後市男女共同参画計画～デュエットプラン21～」(平成18年度～平成27年度)を策定し、さまざまな取組を進めています。今回の調査は、「京丹後市男女共同参画計画～デュエットプラン21～」の中間年にあたり、重点施策の見直しを図るための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査設計等

■ 調査対象者等

- 調査地域 : 京丹後市
調査対象者 : 京丹後市内にお住まいの20歳以上の男女
抽出方法 : 無作為抽出
(平成22年2月末人口を基準に、住民基本台帳及び外国人登録台帳から抽出)
調査期間 : 平成22年4月15日～平成22年4月30日まで
調査方法 : 郵送による配布・回収

3. 回収結果

■ 回収結果

調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
2,000	783	39.2%

4. 報告書の見方

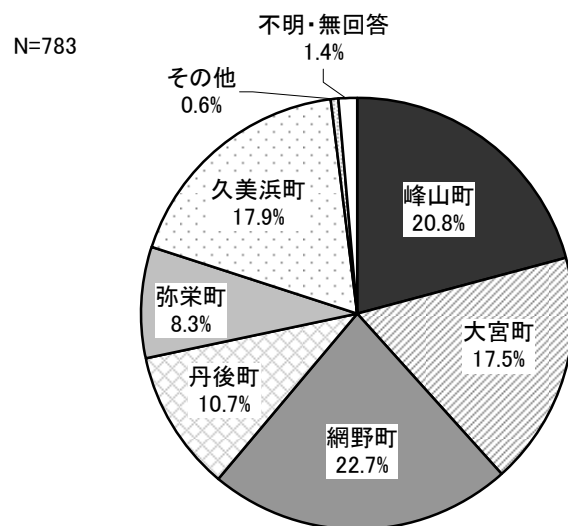
- 回答結果は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答の占める割合を、小数点以下第2位を四捨五入して示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合は、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表のN数（number of case）、「サンプル数」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 本文中（SA）は単数回答の設問、（MA）は複数回答の設問、（NA）は数量による設問を表しています。

II 調査結果

1. あなたご自身（ご回答者）のことについて

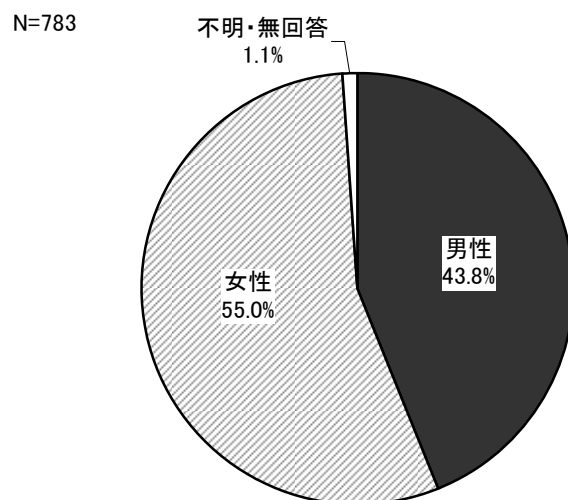
(1) 居住地区 (SA)

回答者の居住地区は、「網野町」が 22.7%でもっとも多く、次いで「峰山町」が 20.8%となっています。



(2) 性別 (SA)

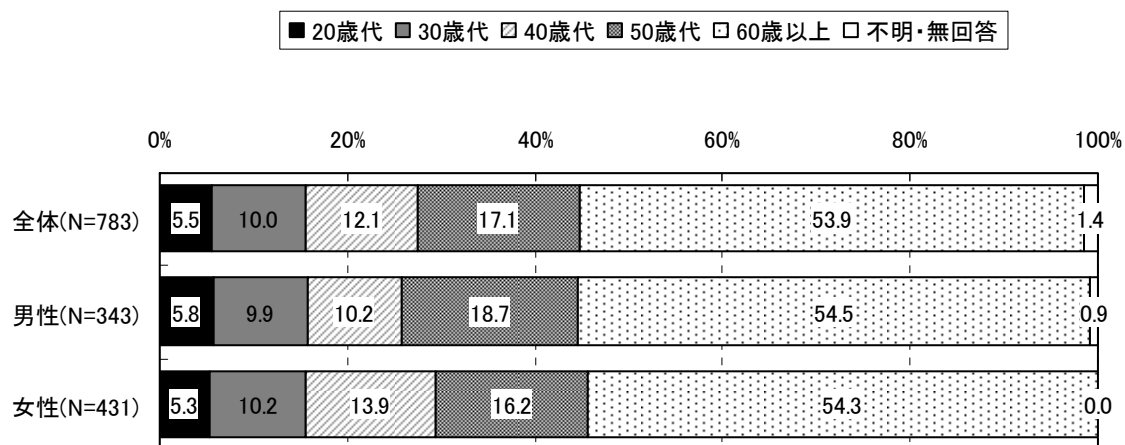
回答者の性別は、「男性」が 43.8% (343 件)、「女性」が 55.0% (431 件) となっています。



(3) 年齢 (SA)

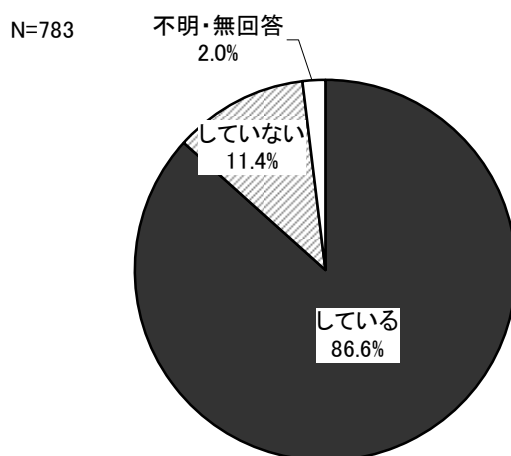
回答者の年齢は、「60歳以上」が53.9%でもっとも多く、次いで「50歳代」が17.1%となっています。

男女別にみても、同様の年齢比率となっていますが、「50歳代」については男性が18.7%、女性が16.2%で男性の方が多く、「40歳代」については男性が10.2%、女性が13.9%で女性の方が多くなっています。



(4) 婚姻状況 (SA)

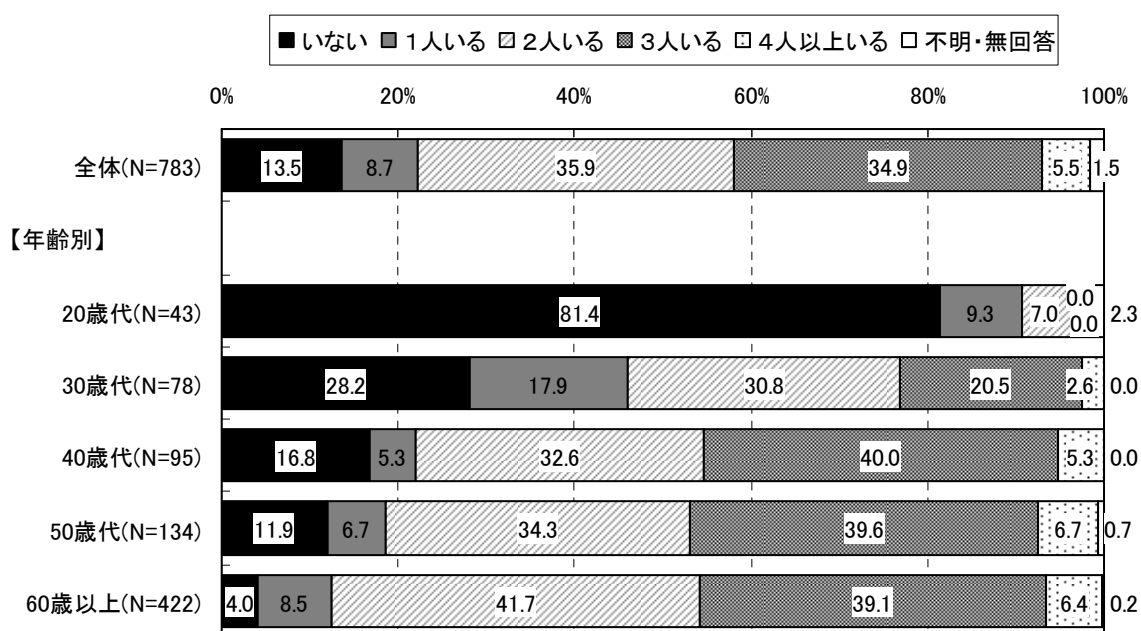
回答者の婚姻状況は、「している」が86.6%、「していない」が11.4%となっています。



(5) 子どもの人数 (SA)

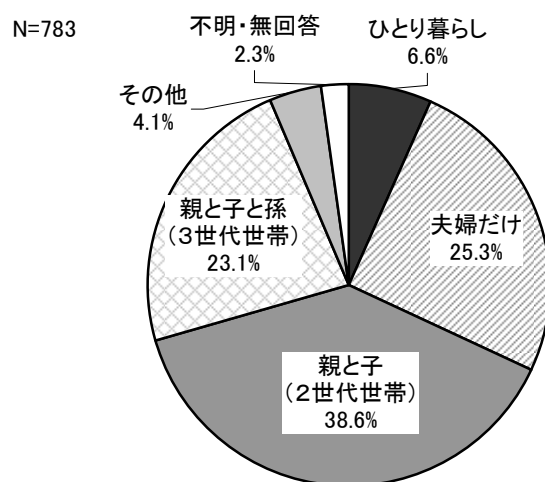
回答者の子どもの人数は、「2人いる」が35.9%でもっとも多く、次いで「3人いる」が34.9%となっています。

年齢別でみると、30歳代、60歳以上では「2人いる」がもっとも多くなっていますが、40歳代、50歳代では「3人いる」がもっとも多くなっています。



(6) 家族構成 (SA)

回答者の家族構成は、「親と子 (2世代世帯)」が38.6%でもっとも多く、次いで「夫婦だけ」が25.3%となっています。

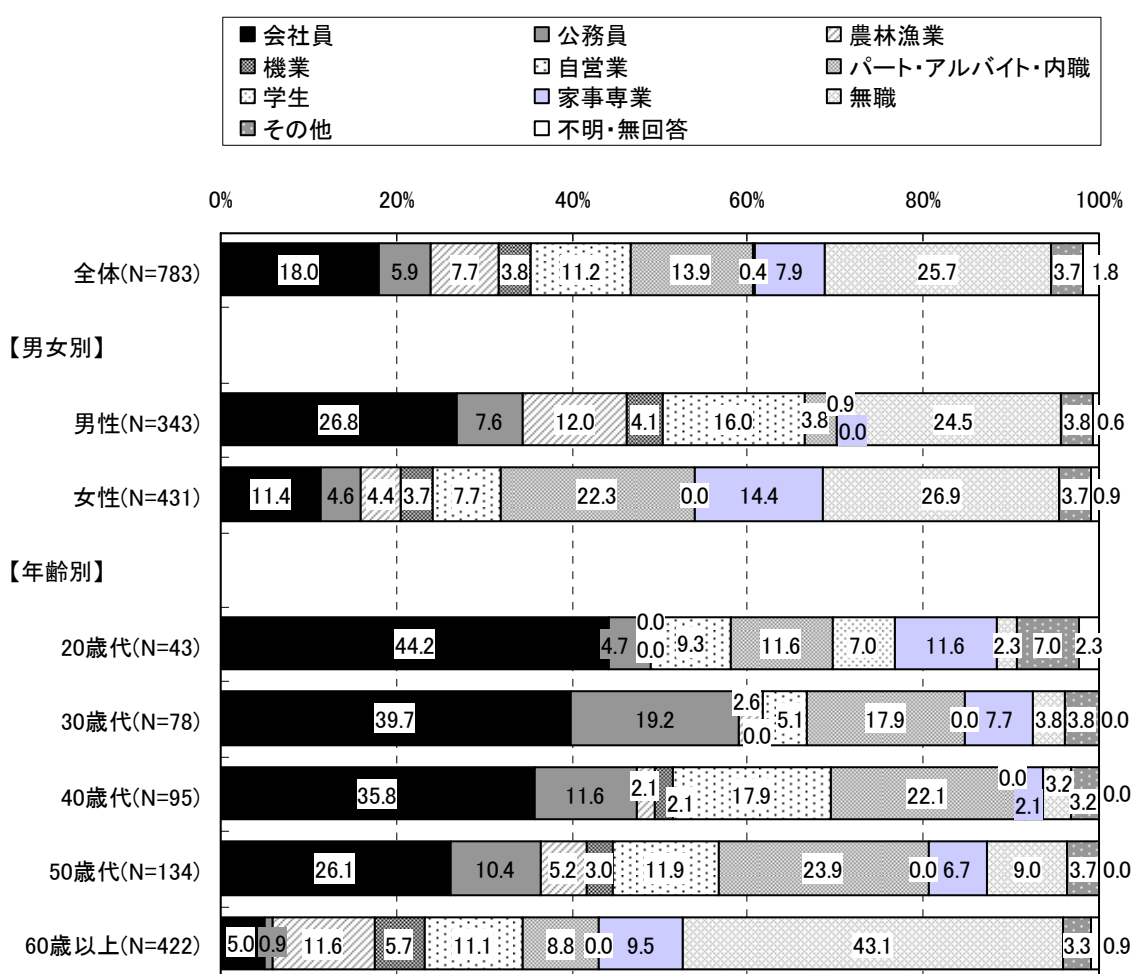


(7) 職業 (SA)

回答者の職業は、「無職」が 25.7%でもっとも多く、次いで「会社員」が 18.0%となっています。

男女別でみると、男性では「会社員」が 26.8%でもっとも多く、女性では「無職」が 26.9%でもっとも多くとなっています。また、「パート・アルバイト・内職」については男性より女性の方が 18.5ポイント多くとなっています。

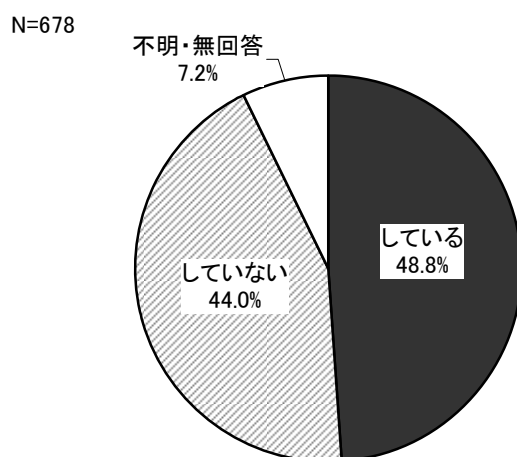
年齢別でみると、30歳代から50歳代では80%以上の人が何らかの職業をもち、いずれも「会社員」がもっとも多くとなっています。一方で60歳以上では「無職」が 43.1%でもっとも多くとなっています。



(8) 共働き (SA)

(結婚されている方におたずねします。)

回答者の共働きの状況は、「している」が48.8%、「していない」が44.0%となっています。



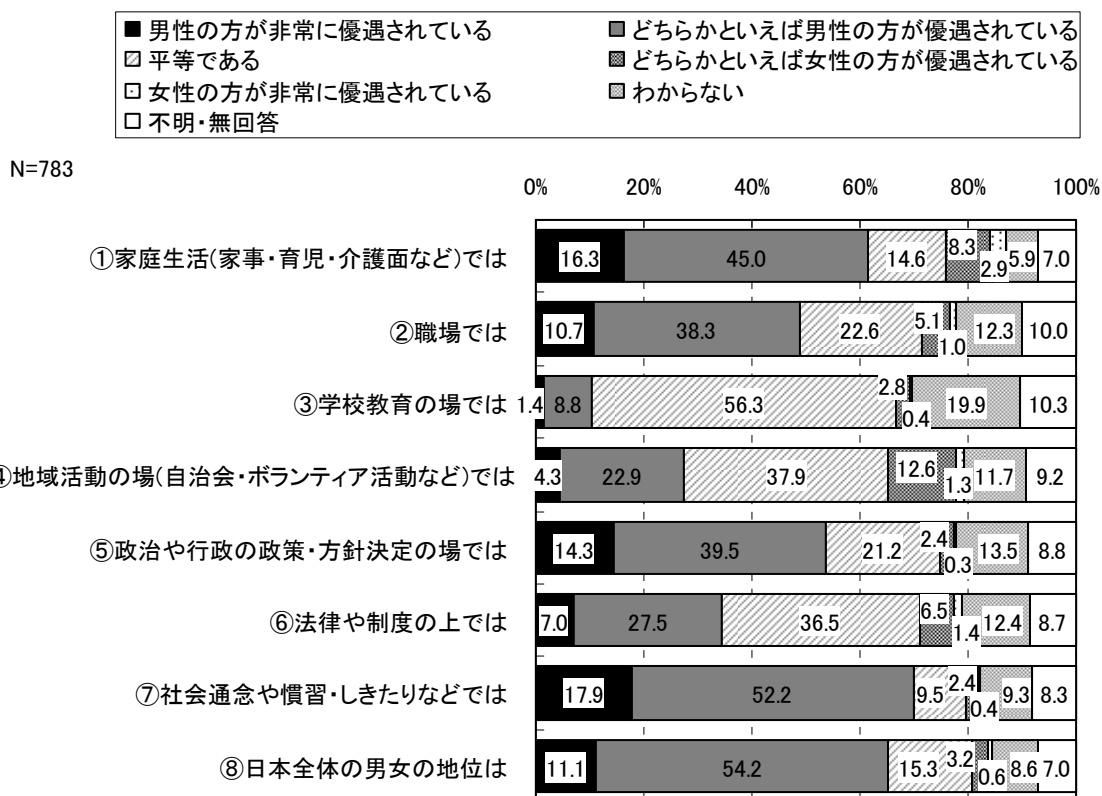
2. 男女平等に関する意識について

(1) 男女平等の現状 (SA)

問) 男女平等は憲法で保障されていますが、現在、日本の社会において男女の地位は、どれにあてはまると思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものに○印をつけてください。

全体的にみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が多く、「男性の方が非常に優遇されている」とあわせると、8項目中4項目が過半数を占めています。中でも＜社会通念や慣習・しきたりなど＞については70.1%と、他の項目と比べてもっとも多く、次いで＜日本全体の男女の地位＞については65.3%となっています。

また「平等である」が過半数となっているのは、＜学校教育の場＞についての1項目だけで、56.3%となっています。



【項目別】

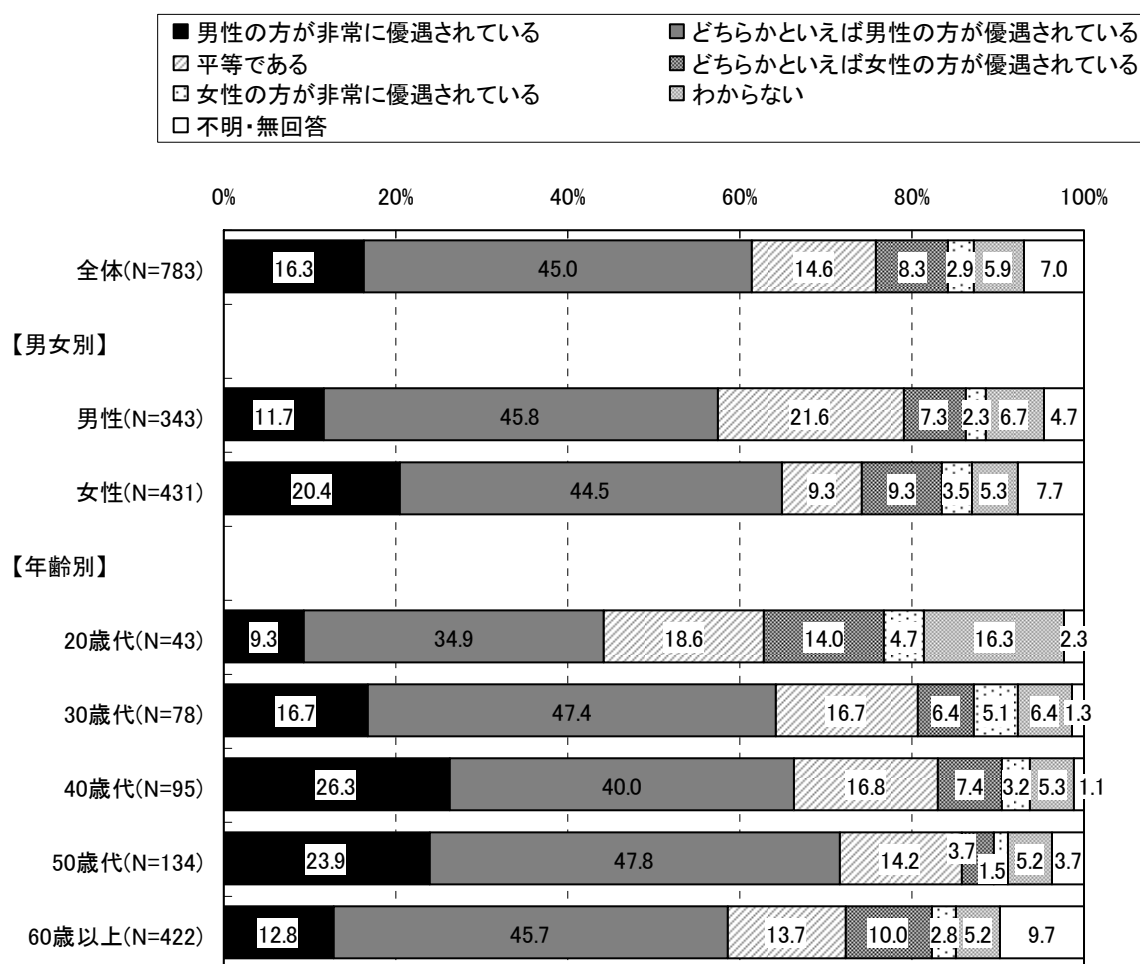
① 家庭生活(家事・育児・介護面など)では

全体でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.0%でもっとも多く、「男性の方が非常に優遇されている」とあわせると61.3%となっています。

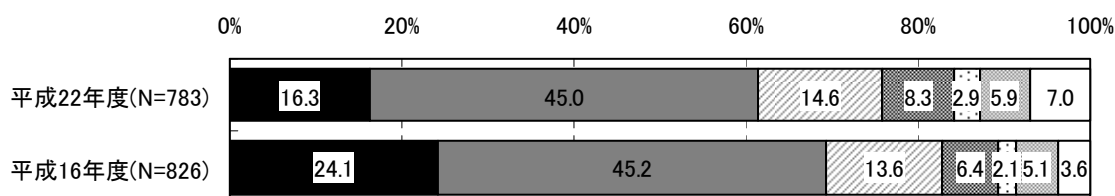
男女別でみると、『男性の方が優遇されている（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）』は、男性では57.5%、女性では64.9%で、男性より女性の方が7.4ポイント多くなっています。

年齢別でみると、『男性の方が優遇されている』は、50歳代で71.7%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』について8.0ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>



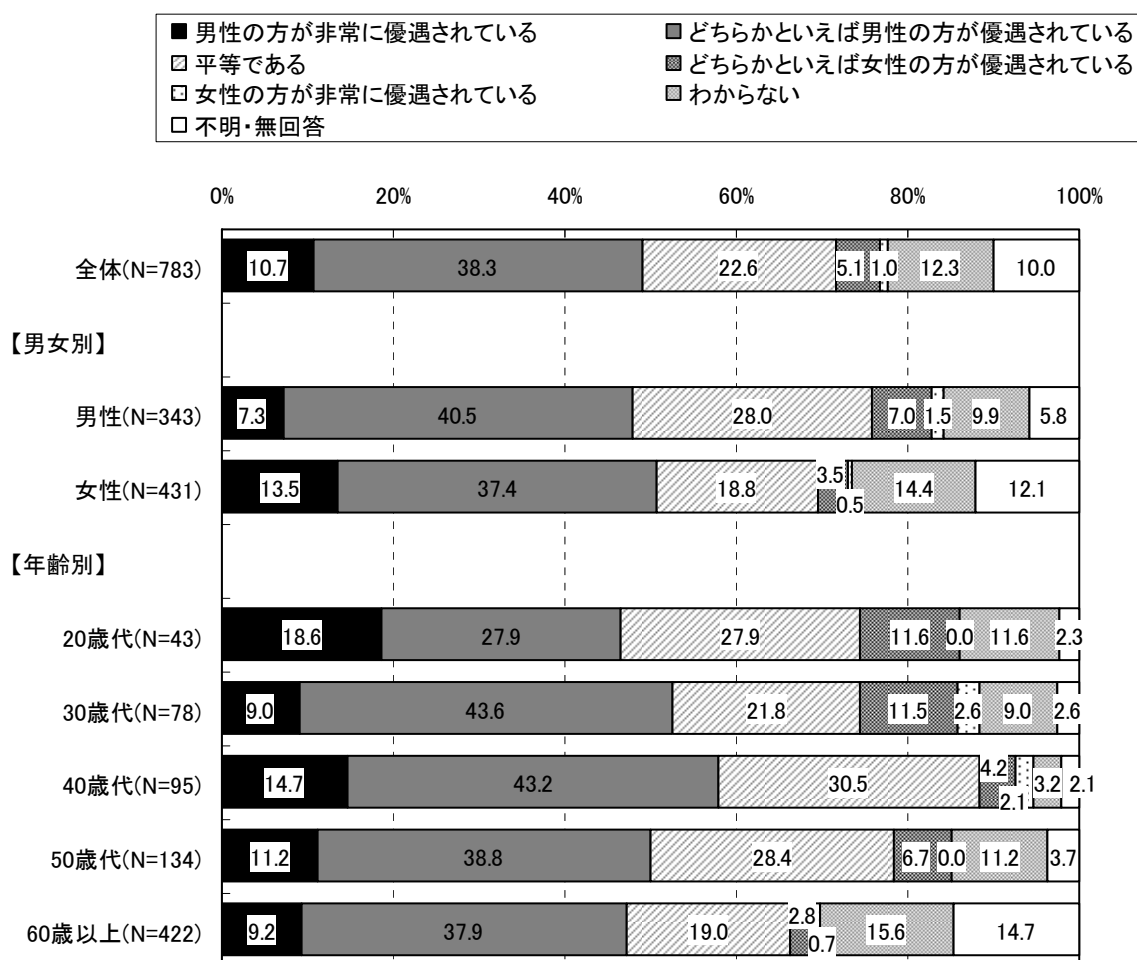
② 職場では

全体でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が38.3%でもっとも多く、「男性の方が非常に優遇されている」とあわせると49.0%となっています。

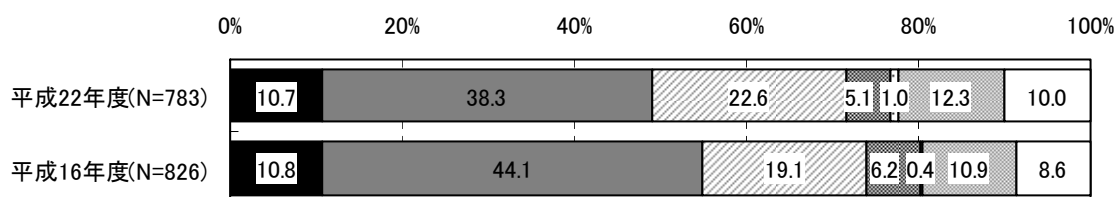
男女別でみると、『男性の方が優遇されている』は、男性では47.8%、女性では50.9%で、男性より女性の方が3.1ポイント多くなっています。

年齢別でみると、『男性の方が優遇されている』は、40歳代で57.9%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』について5.9ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>



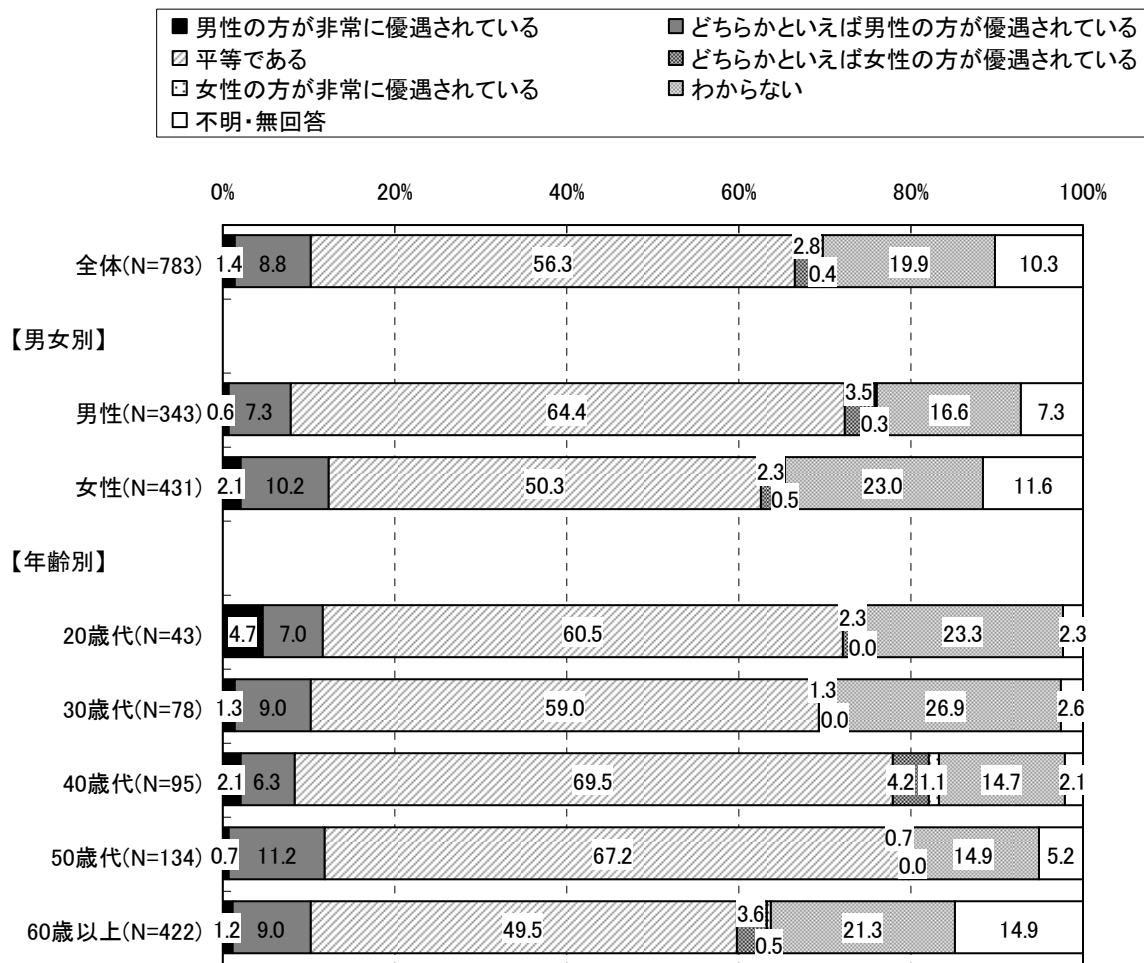
③ 学校教育の場では

全体で見ると、「平等である」が56.3%でもっとも多くなっています。

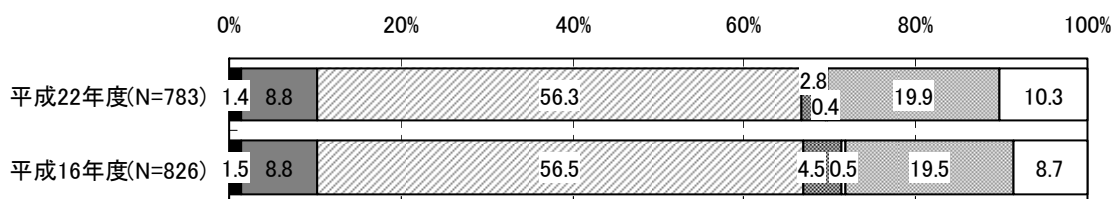
男女別で見ると、男性、女性ともに「平等である」がもっとも多くなっていますが、女性より男性の方が14.1ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、全ての年齢で「平等である」がもっとも多くなっていますが、40歳代では69.5%、60歳以上では49.5%で、40歳代より60歳以上の方が20.0ポイント少なくなっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



<前回調査との比較>



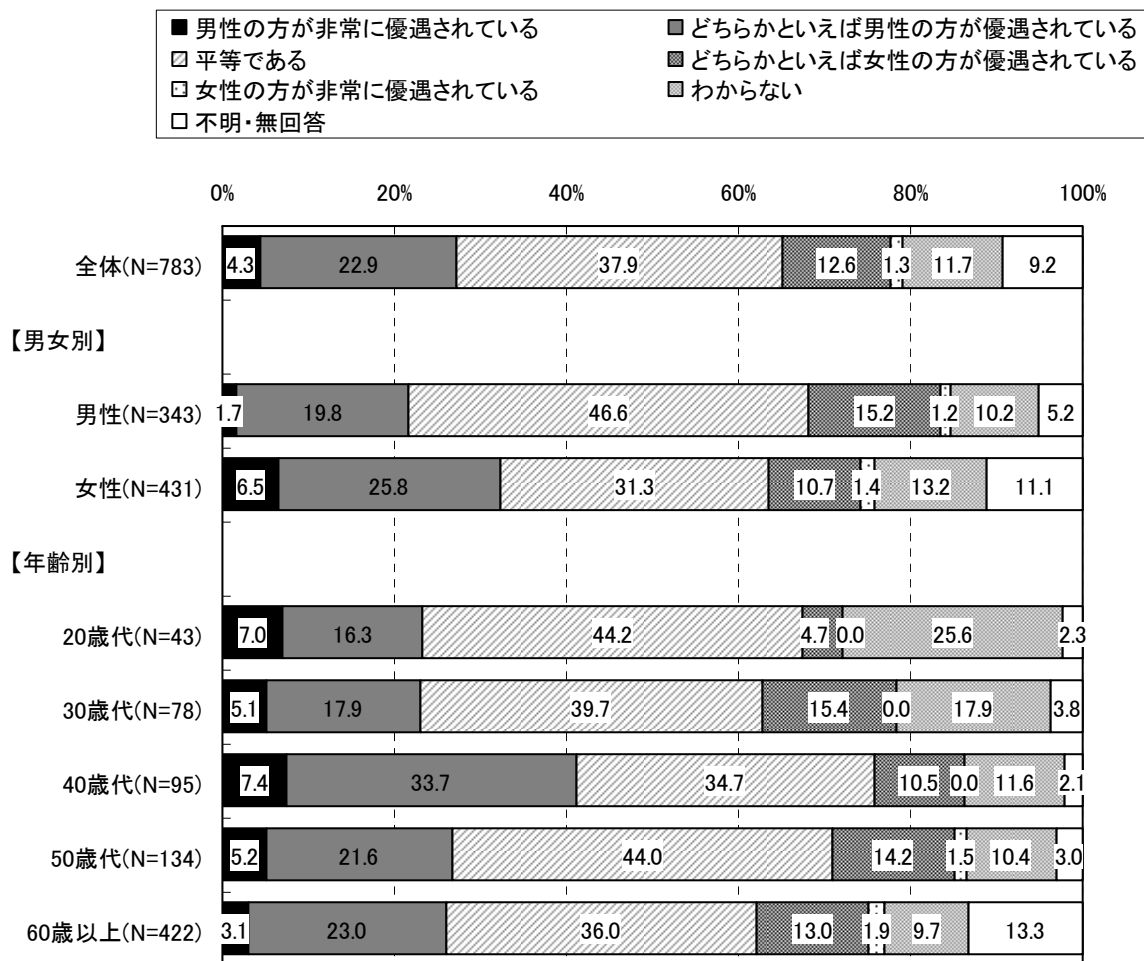
④ 地域活動の場(自治会・ボランティア活動など)では

全体でみると、「平等である」が37.9%でもっとも多くなっています。

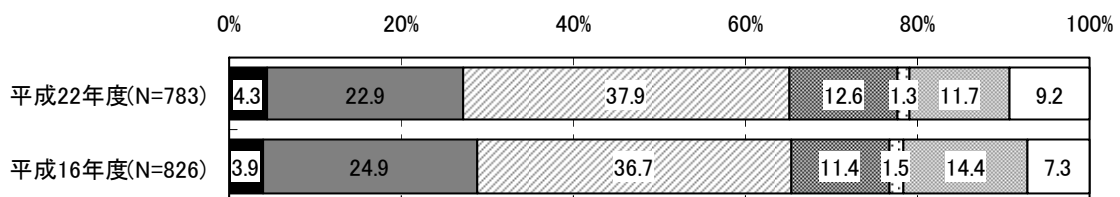
男女別でみると、「平等である」は、男性では46.6%、女性では31.3%で、女性より男性の方が15.3ポイント多くなっています。

年齢別でみると、『男性の方が優遇されている』について、20歳代、30歳代、50歳代、60歳以上では20%台となっているのに対し、40歳代では41.1%と、他の年齢に比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



<前回調査との比較>



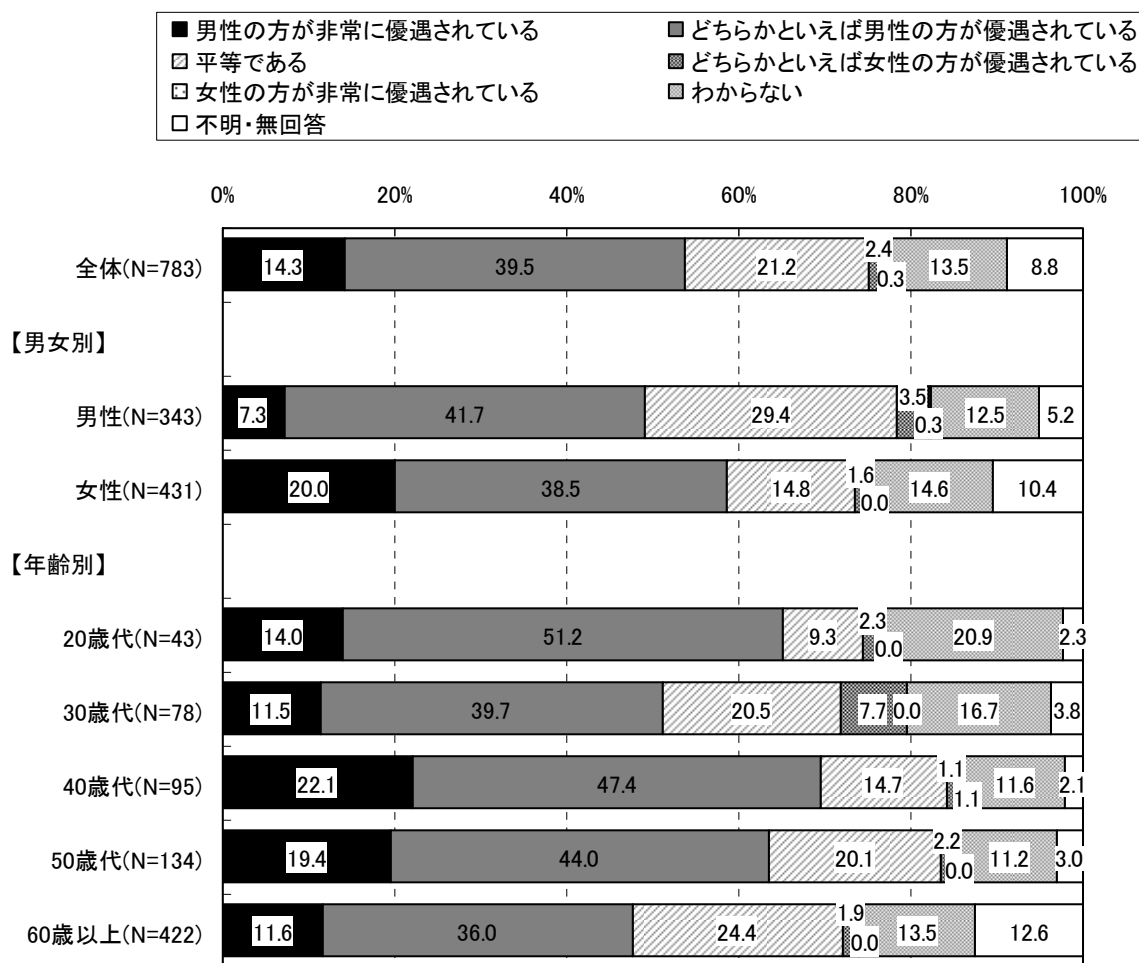
⑤ 政治や行政の政策・方針決定の場では

全体でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が39.5%でもっとも多く、「男性の方が非常に優遇されている」とあわせると53.8%となっています。

男女別でみると、『男性の方が優遇されている』は、男性では49.0%、女性では58.5%で、男性より女性の方が9.5ポイント多くなっています。

年齢別でみると、『男性の方が優遇されている』は、40歳代で69.5%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』については9.4ポイント少なく、「平等である」については5.0ポイント多くなっています。



<前回調査との比較>



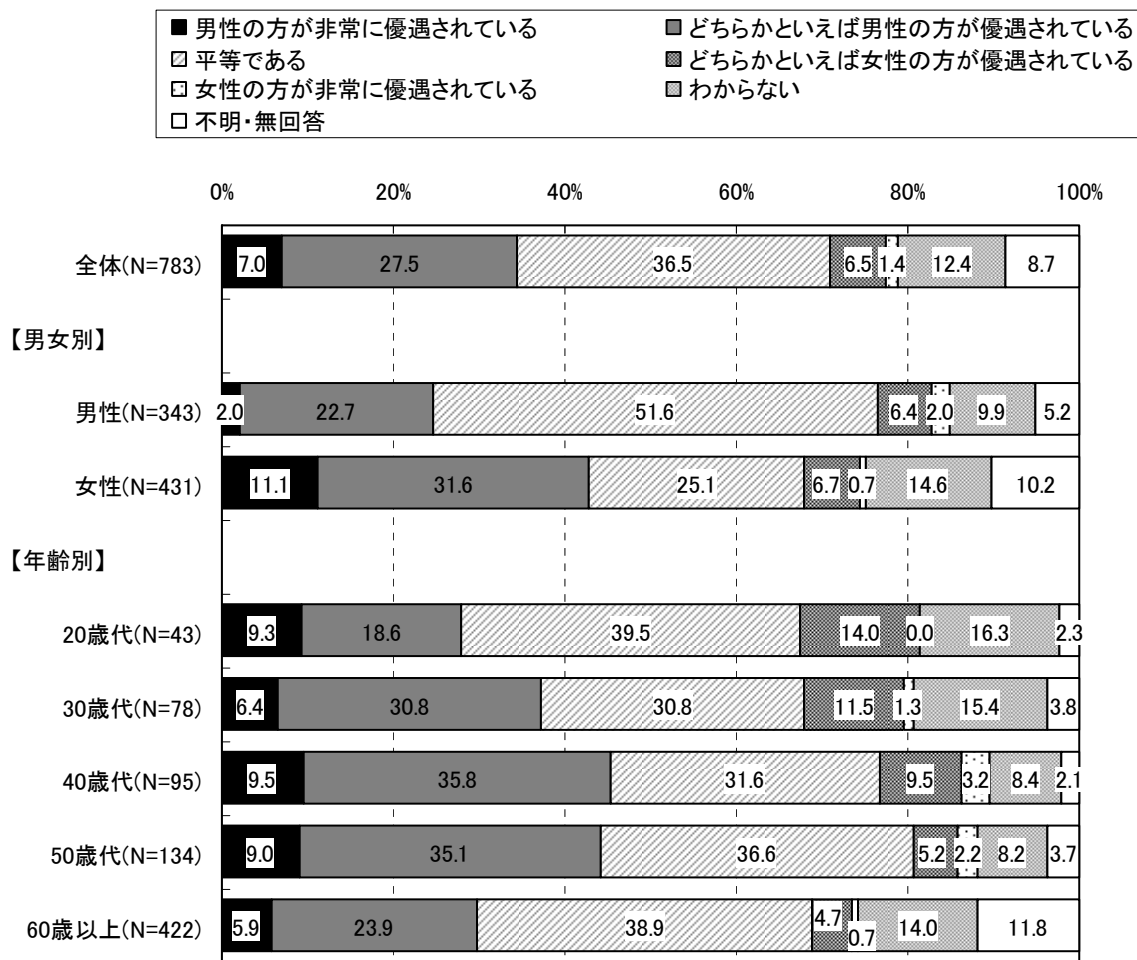
⑥ 法律や制度の上では

全体で見ると、「平等である」が36.5%でもっとも多くなっています。

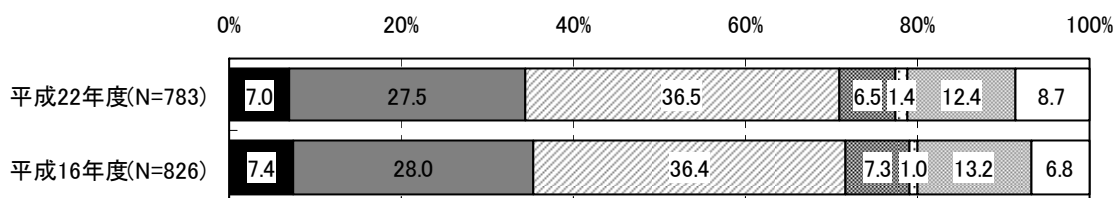
男女別で見ると、「平等である」は、男性では51.6%、女性では25.1%で、女性より男性の方が26.5ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、『男性の方が優遇されている』は、40歳代で45.3%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



<前回調査との比較>



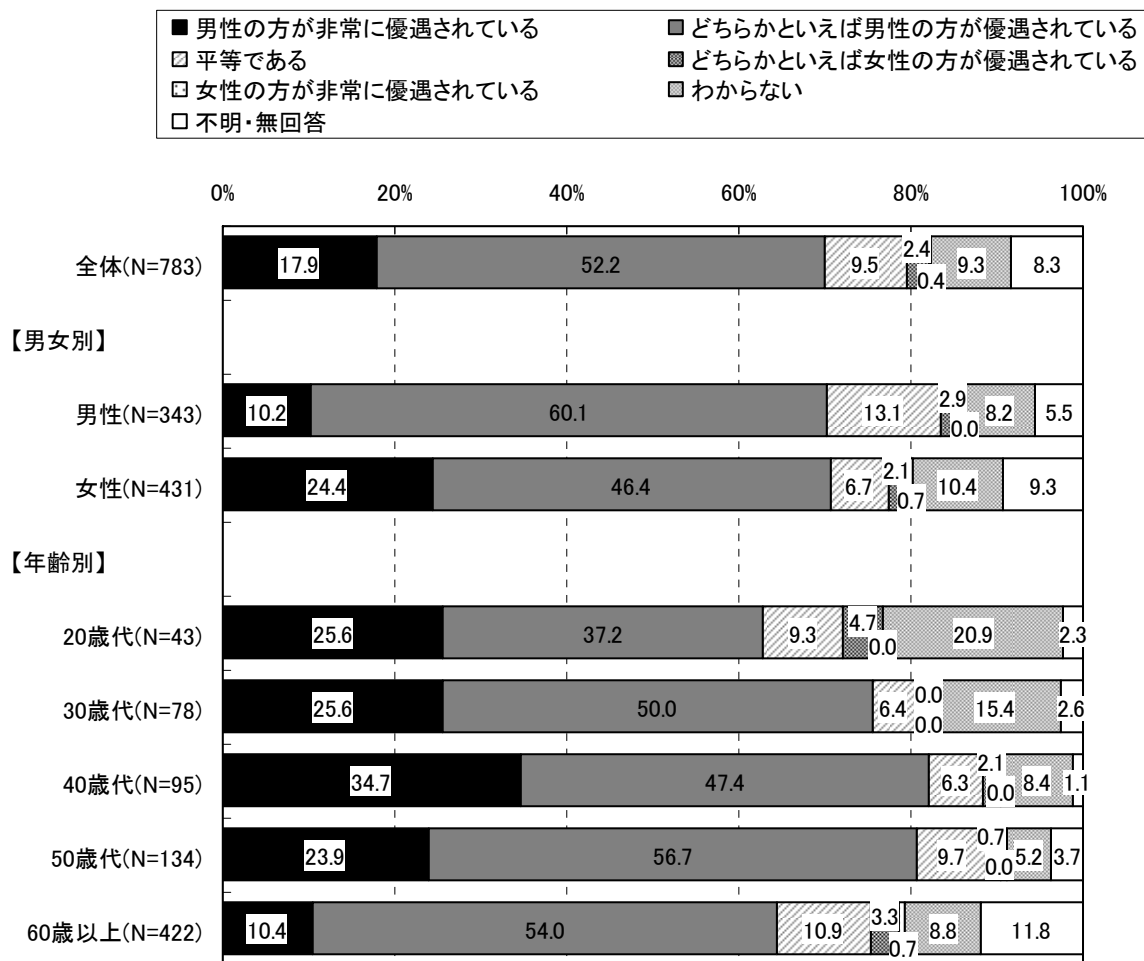
⑦ 社会通念や慣習・しきたりなどでは

全体でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が52.2%でもっとも多く、「男性の方が非常に優遇されている」とあわせると70.1%となっています。

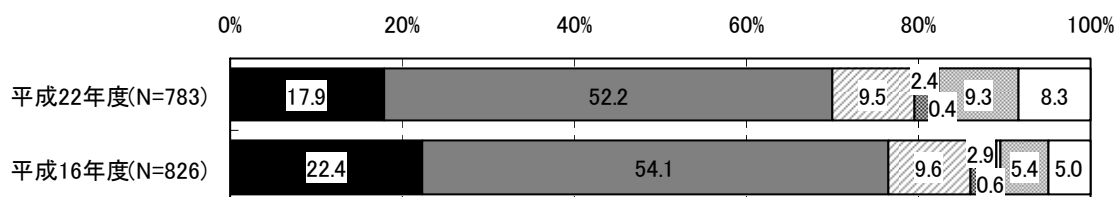
男女別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」は、男性では10.2%、女性では24.4%で、男性より女性の方が14.2ポイント多くなっています。

年齢別でみると、『男性の方が優遇されている』は、40歳代で82.1%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』について6.4ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>



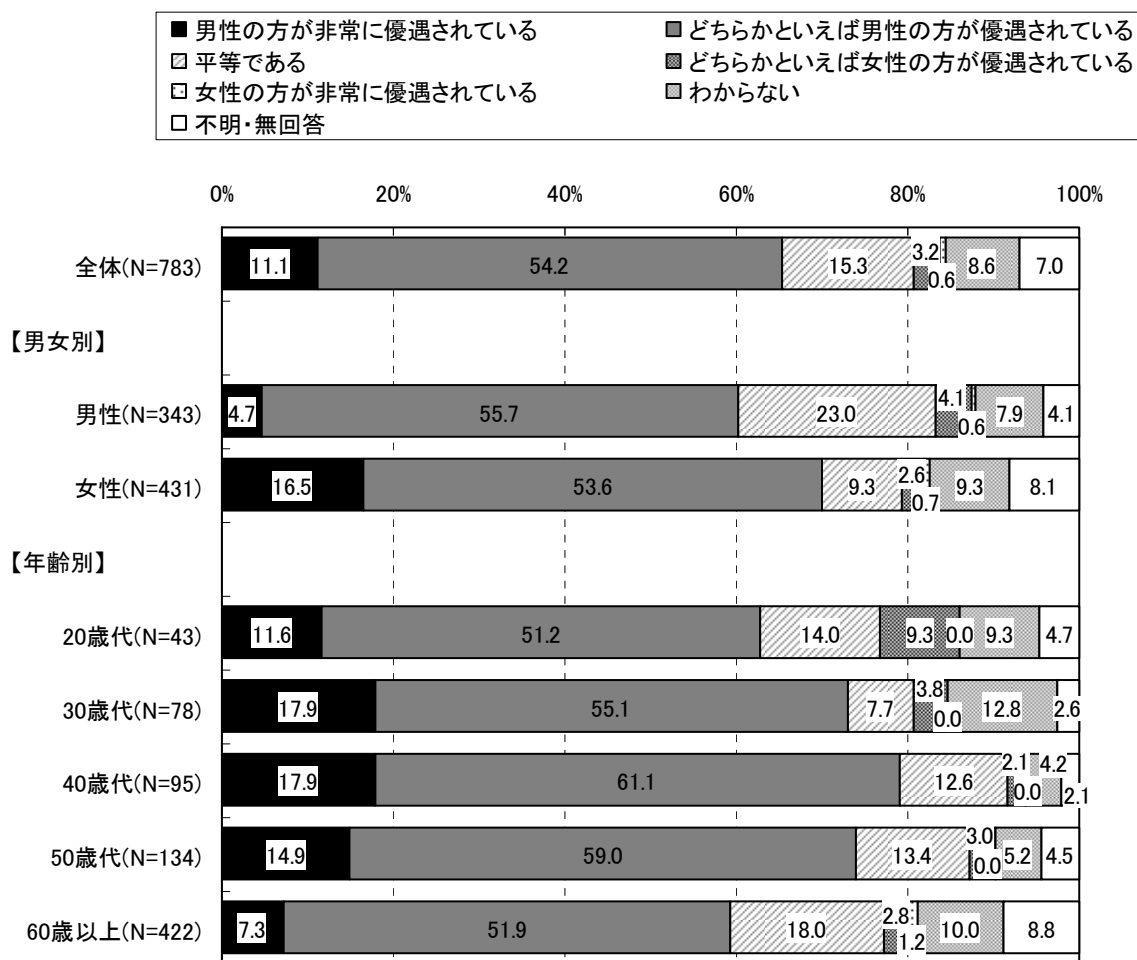
⑧ 日本全体の男女の地位は

全体でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が54.2%でもっとも多く、「男性の方が非常に優遇されている」とあわせると65.3%となっています。

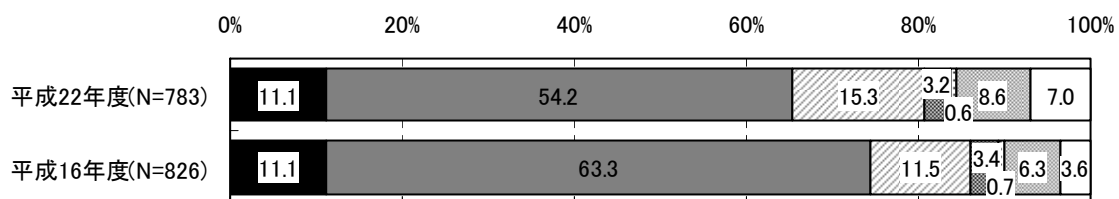
男女別でみると、『男性の方が優遇されている』は、男性では60.4%、女性では70.1%で、男性より女性の方が9.7ポイント多くなっています。

年齢別でみると、『男性の方が優遇されている』は、40歳代で79.0%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、『男性の方が優遇されている』について9.1ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>

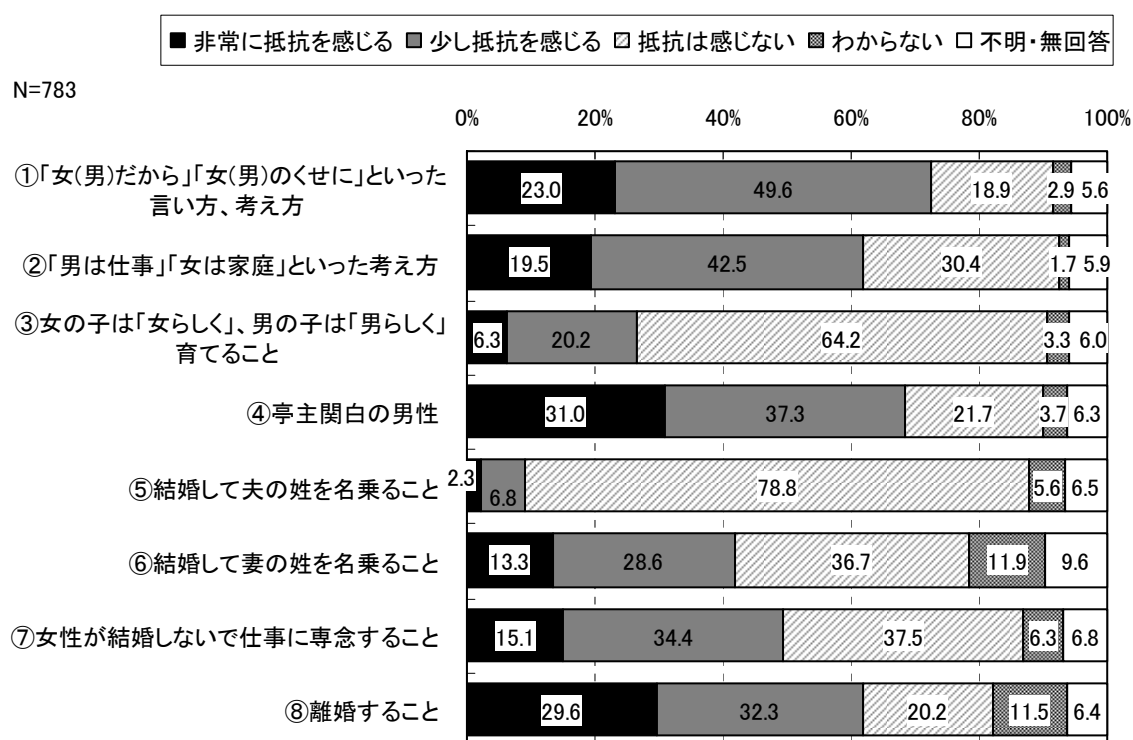


(2) 男女平等の意識 (SA)

問) あなたは次の事柄についてどのように感じられますか。それぞれの項目について、あてはまるものに○印をつけてください。

全体的にみると、8項目中4項目で、『抵抗を感じる（「非常に抵抗を感じる」「少し抵抗を感じる」の合計）』が過半数を占めており、中でも＜「女(男)だから」「女(男)のくせに」といった言い方、考え方＞については72.6%と7割を超えて多くなっています。

逆に、「抵抗は感じない」が過半数を占めているのは2項目で、＜結婚して夫の姓を名乗ること＞については78.8%、＜女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てること＞については64.2%となっています。



【項目別】

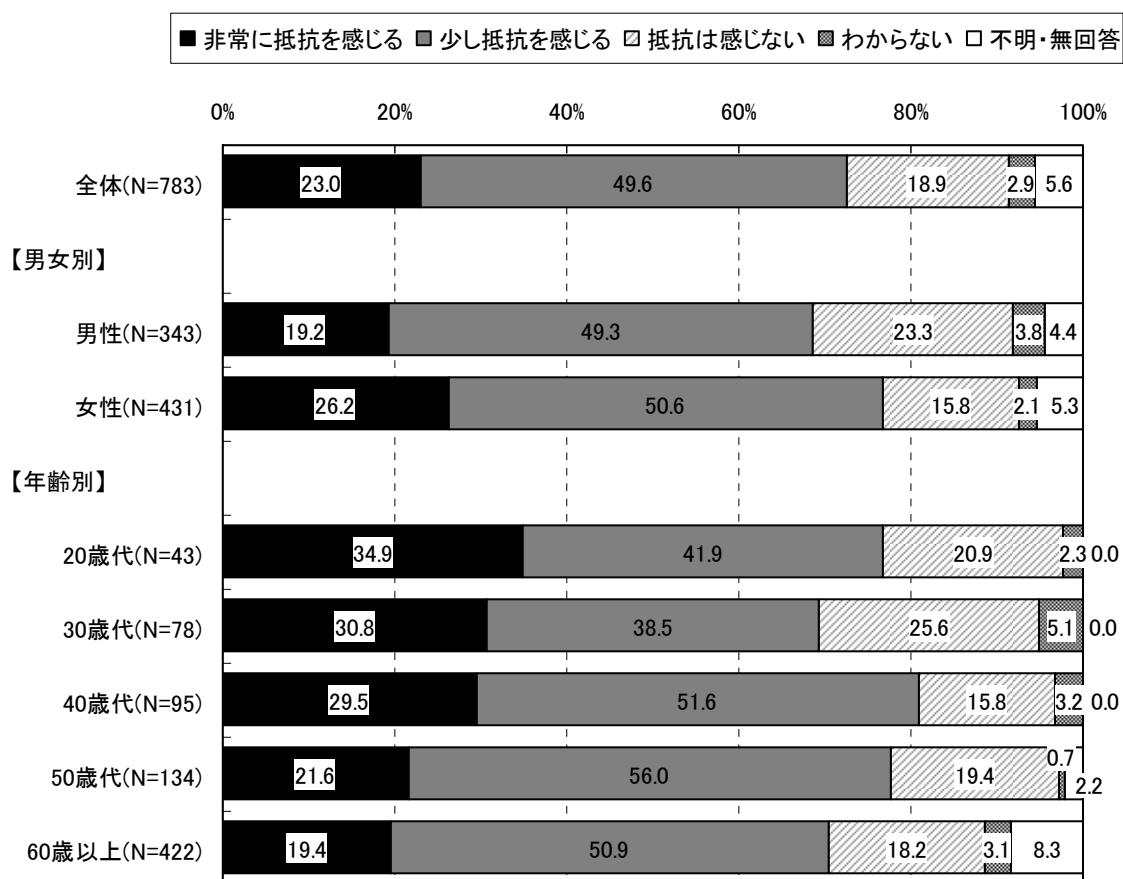
① 「女(男)だから」「女(男)のくせに」といった言い方、考え方

全体で見ると、「少し抵抗を感じる」が49.6%でもっとも多く、「非常に抵抗を感じる」とあわせると72.6%となっています。

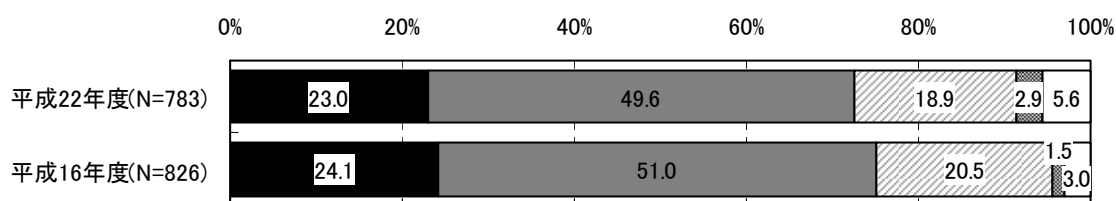
男女別で見ると、『抵抗を感じる』は、男性では68.5%、女性では76.8%で、男性より女性の方が8.3ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、『抵抗を感じる』は、40歳代で81.1%と他の年齢と比べてもっとも多くなっていますが、「非常に抵抗を感じる」は、年齢が上がるにつれて少なくなり、60歳以上では19.4%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



<前回調査との比較>



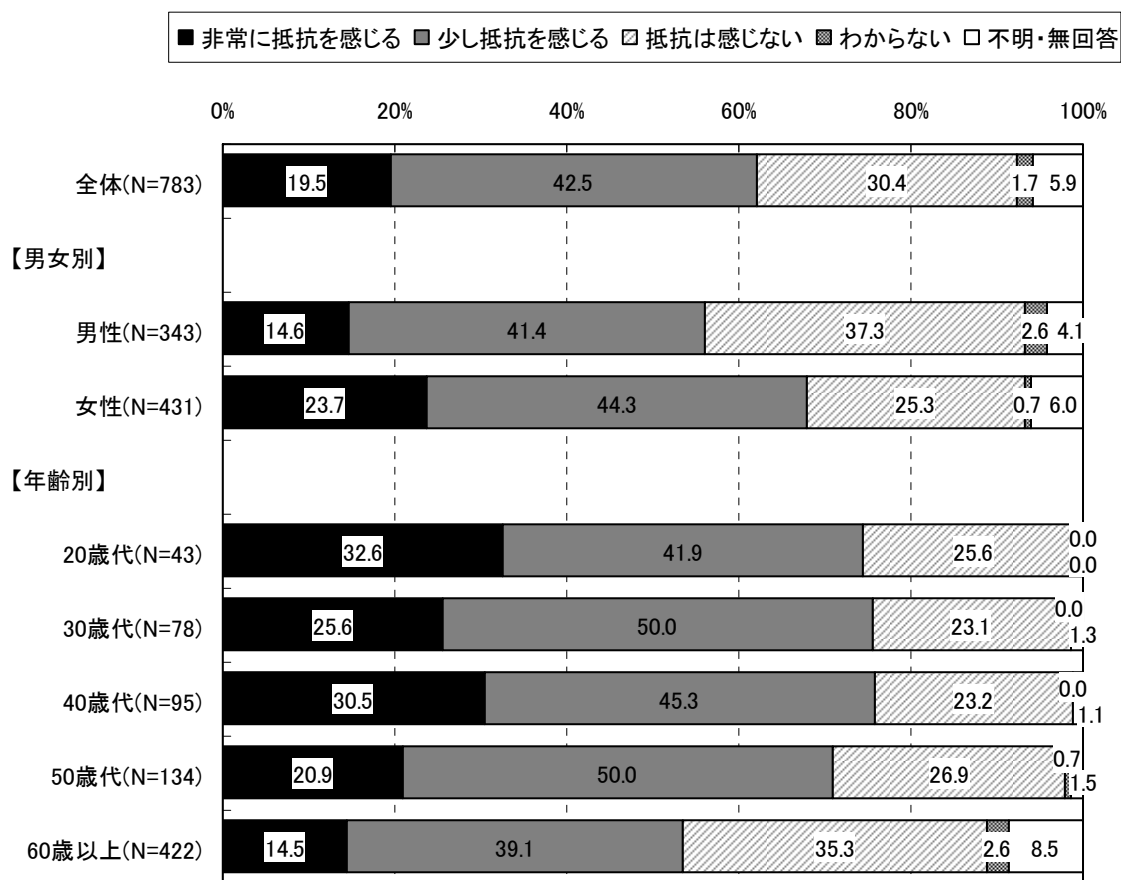
② 「男は仕事」「女は家庭」といった考え方

全体で見ると、「少し抵抗を感じる」が42.5%でもっとも多く、「非常に抵抗を感じる」とあわせると62.0%となっています。

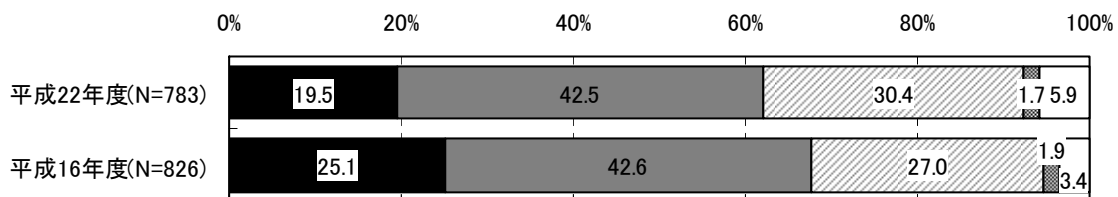
男女別で見ると、『抵抗を感じる』は、男性では56.0%、女性では68.0%で、男性より女性の方が12.0ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、『抵抗を感じる』は、40歳代で75.8%と他の年齢と比べてもっとも多くなっていますが、60歳以上では53.6%で、40歳代より60歳以上の方が22.2ポイント少なくなっています。

前回調査と比較すると、『抵抗を感じる』について5.7ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>



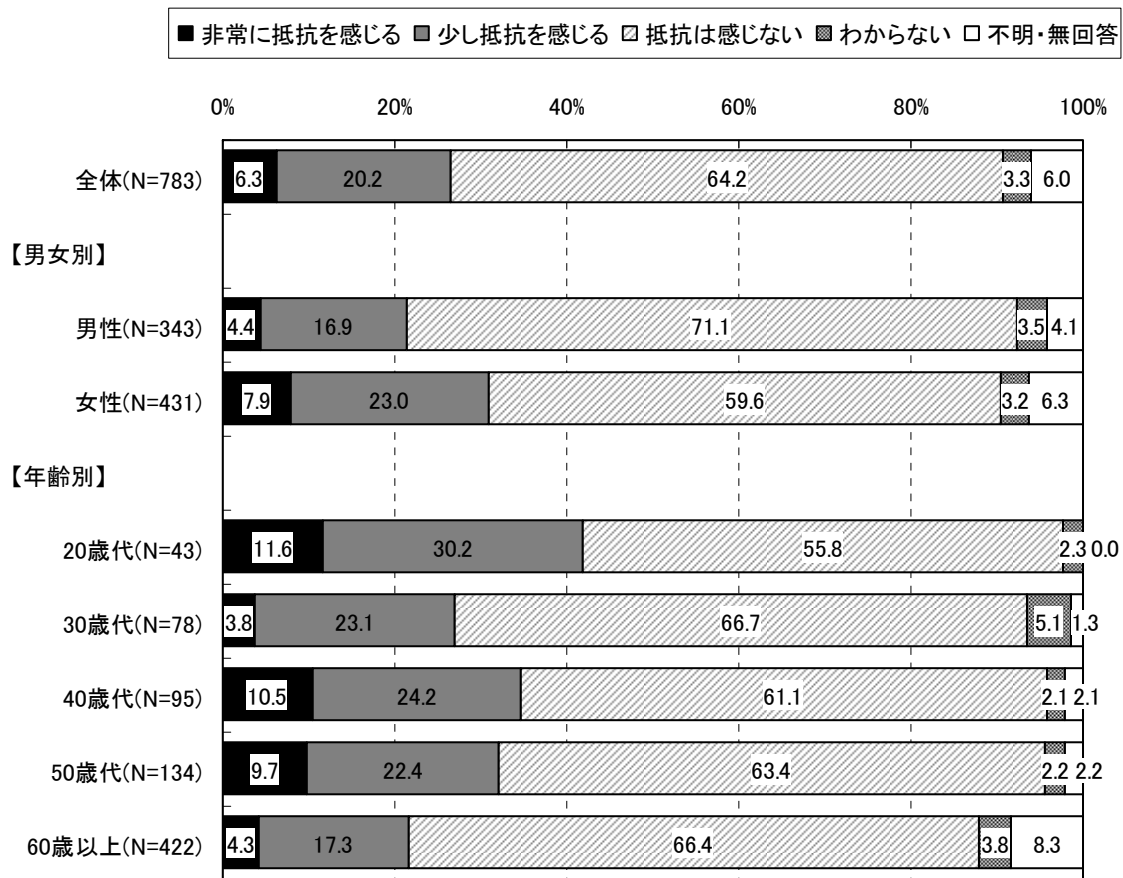
③ 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てること

全体でみると、「抵抗は感じない」が64.2%でもっとも多くなっています。

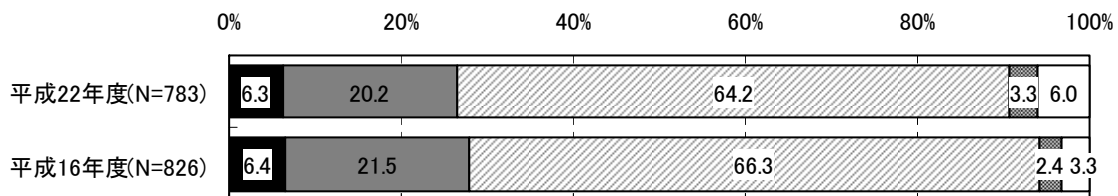
男女別でみると、「抵抗は感じない」は、男性では71.1%、女性では59.6%で、女性より男性の方が11.5ポイント多くなっています。

年齢別でみると、「抵抗は感じない」は、30歳代で66.7%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



<前回調査との比較>



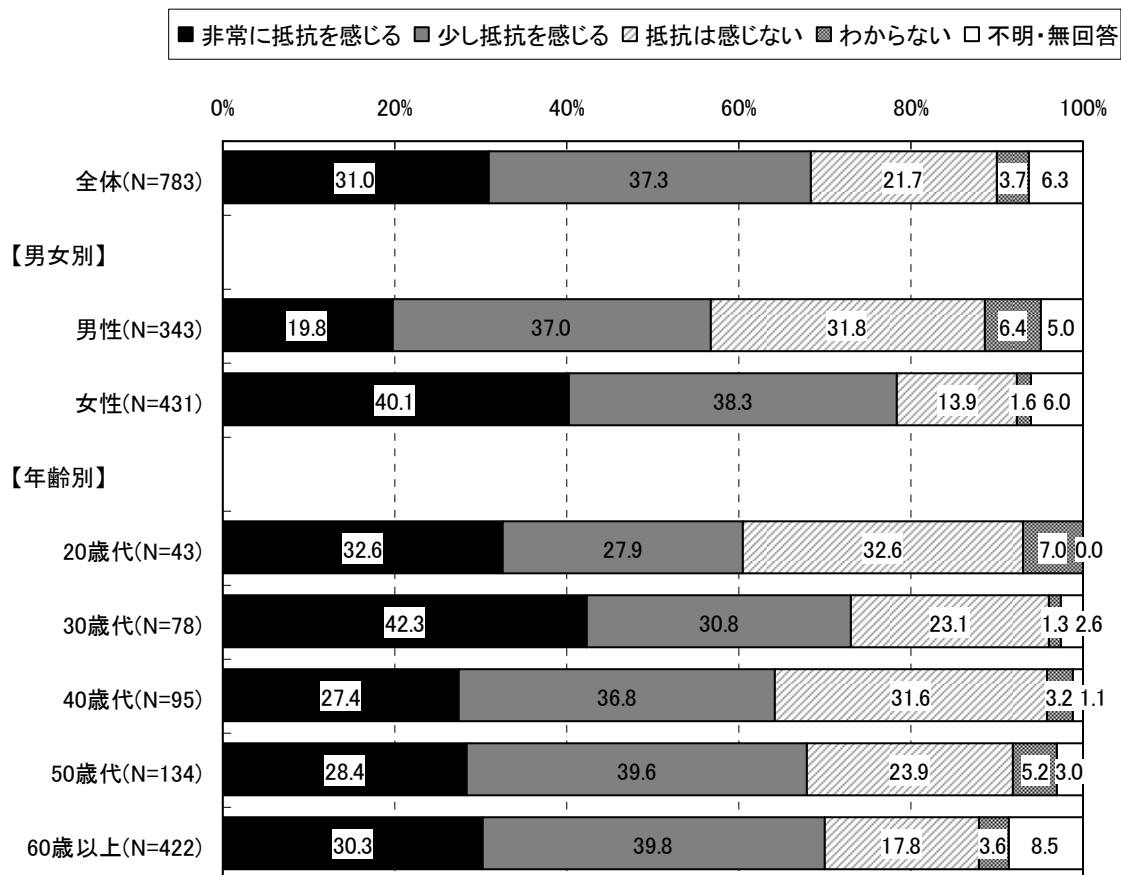
④ 亭主関白の男性

全体で見ると、「少し抵抗を感じる」が37.3%でもっとも多く、「非常に抵抗を感じる」とあわせると68.3%となっています。

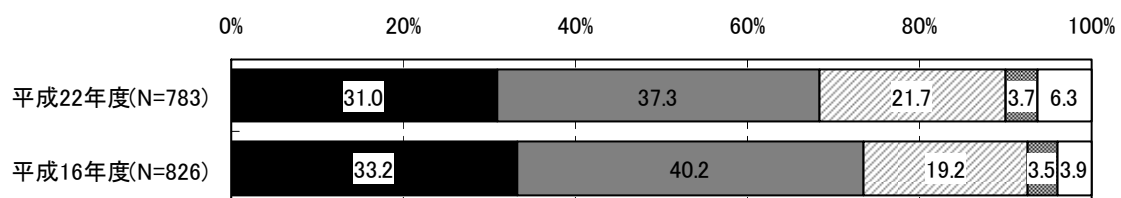
男女別で見ると、『抵抗を感じる』は、男性では56.8%、女性では78.4%で、男性より女性の方が21.6ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、『抵抗を感じる』は、30歳代で73.1%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、『抵抗を感じる』について5.1ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>



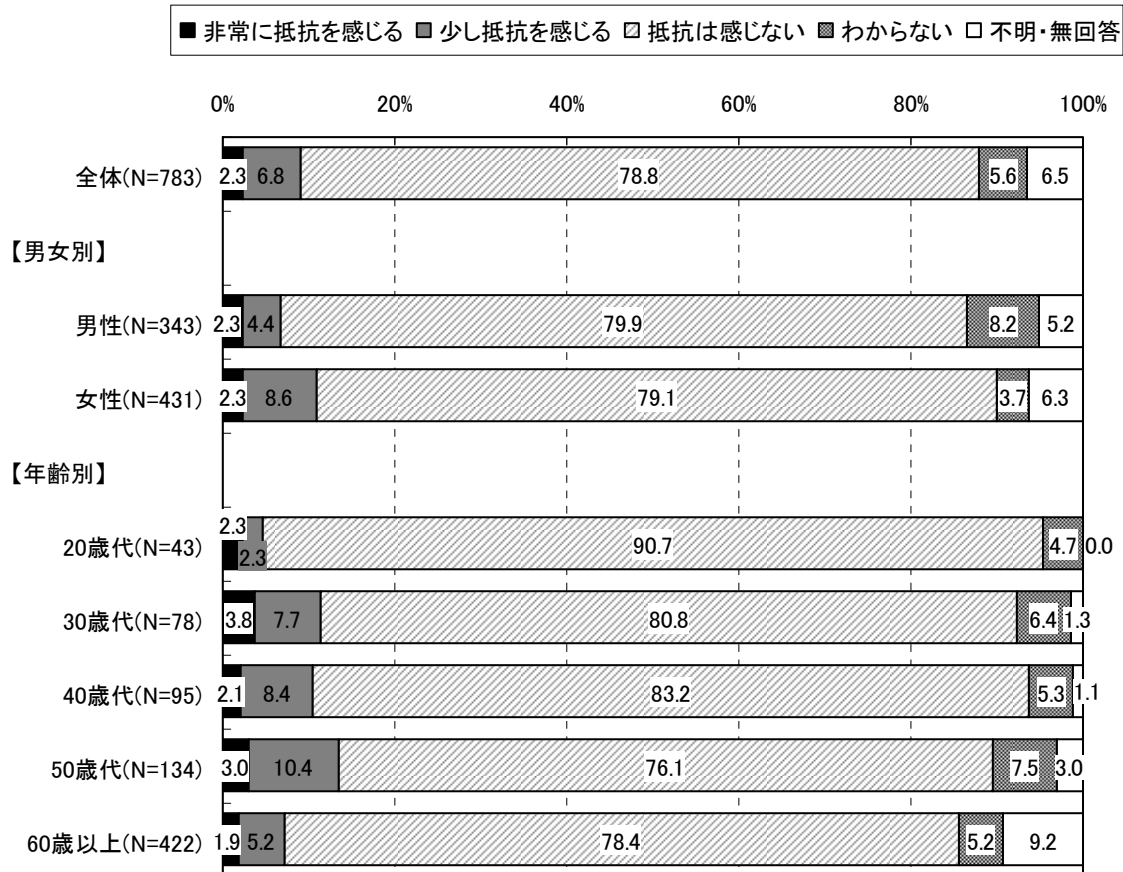
⑤ 結婚して夫の姓を名乗ること

全体で見ると、「抵抗は感じない」が78.8%でもっとも多くなっています。

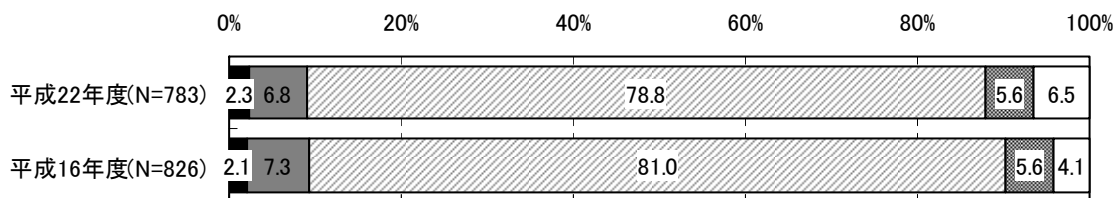
男女別で見ると、ほぼ同様の結果となっています。

年齢別で見ると、「抵抗は感じない」は、全ての年齢でもっとも多くなっており、特に20歳代で90.7%と、9割を超えてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



<前回調査との比較>



⑥ 結婚して妻の姓を名乗ること

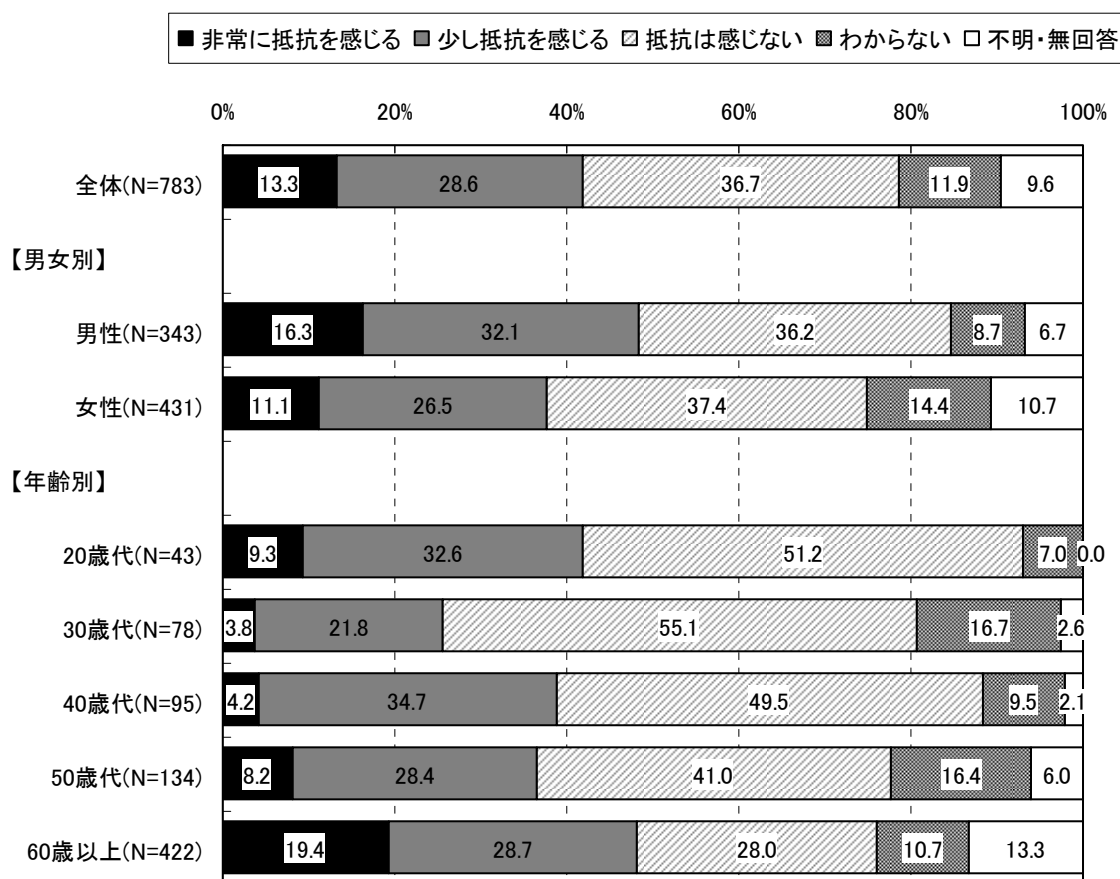
全体でみると、「抵抗は感じない」が36.7%でもっとも多くなっているものの、『抵抗を感じる』については41.9%となっています。

男女別でみると、『抵抗を感じる』は、男性では48.4%、女性では37.6%で、女性より男性の方が10.8ポイント多くなっています。

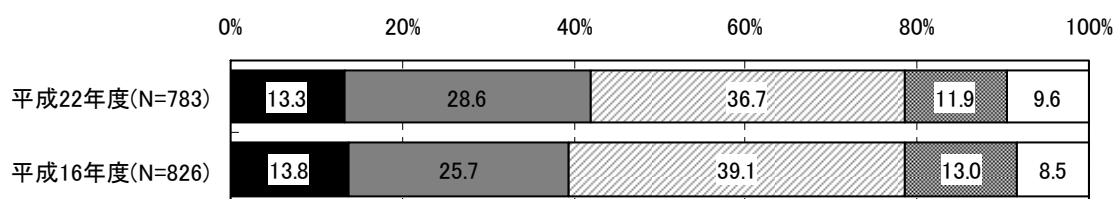
年齢別でみると、『抵抗を感じる』は、60歳以上で48.1%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

また、前問の【結婚して夫の姓を名乗ること】の場合と比較すると、「抵抗は感じない」について、【結婚して夫の姓を名乗ること】では78.8%であるのに対して、【結婚して妻の姓を名乗ること】では36.7%となっており、夫の姓を名乗ることの方が、抵抗感は弱くなっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



<前回調査との比較>



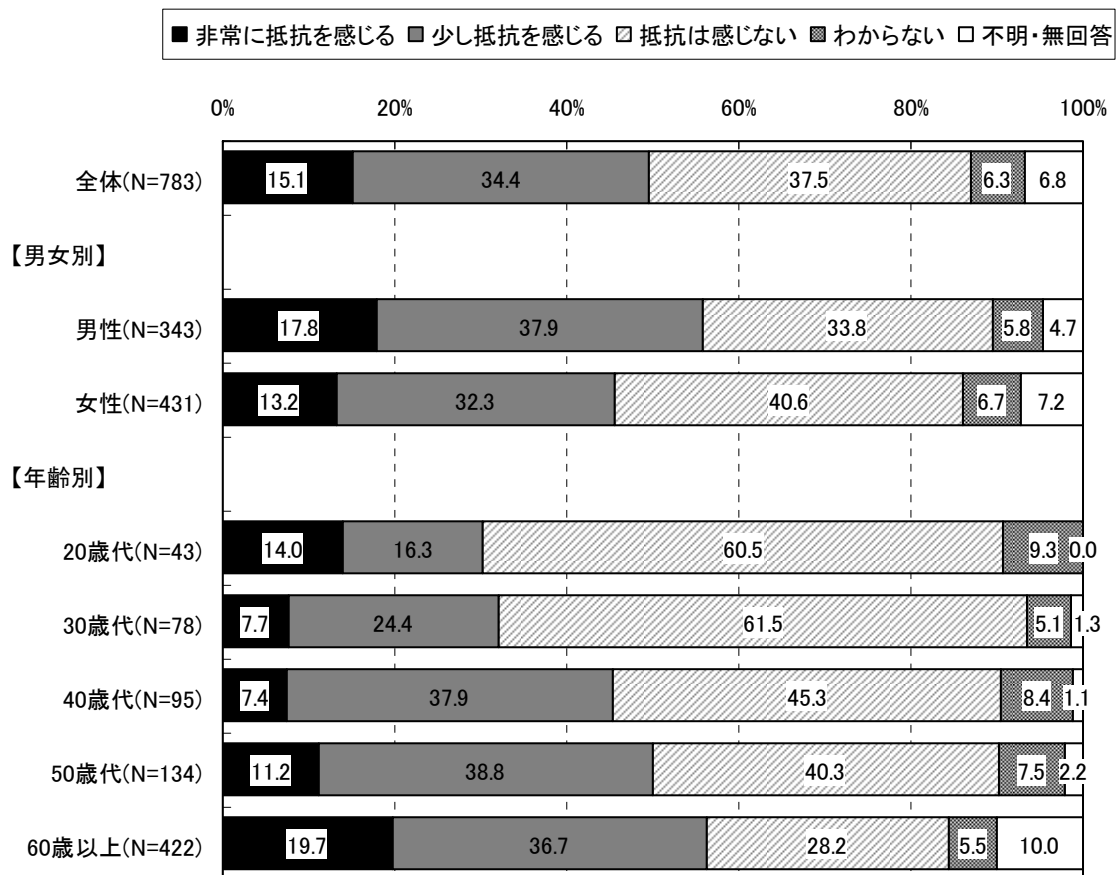
⑦ 女性が結婚しないで仕事に専念すること

全体で見ると、「抵抗は感じない」が37.5%でもっとも多くなっているものの、『抵抗を感じる』については49.5%となっています。

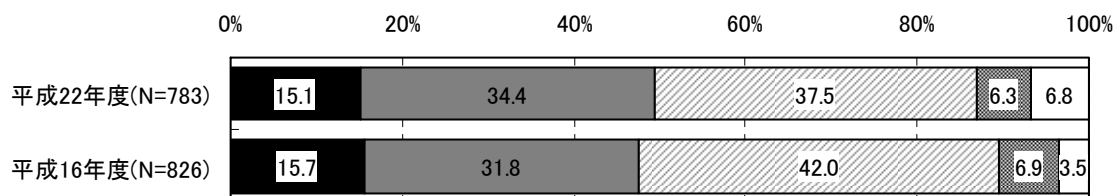
男女別で見ると、『抵抗を感じる』は、男性では55.7%、女性では45.5%で、女性より男性の方が10.2ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、『抵抗を感じる』は年齢が上がるにつれて多くなり、60歳以上で56.4%ともっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、「抵抗は感じない」について4.5ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>



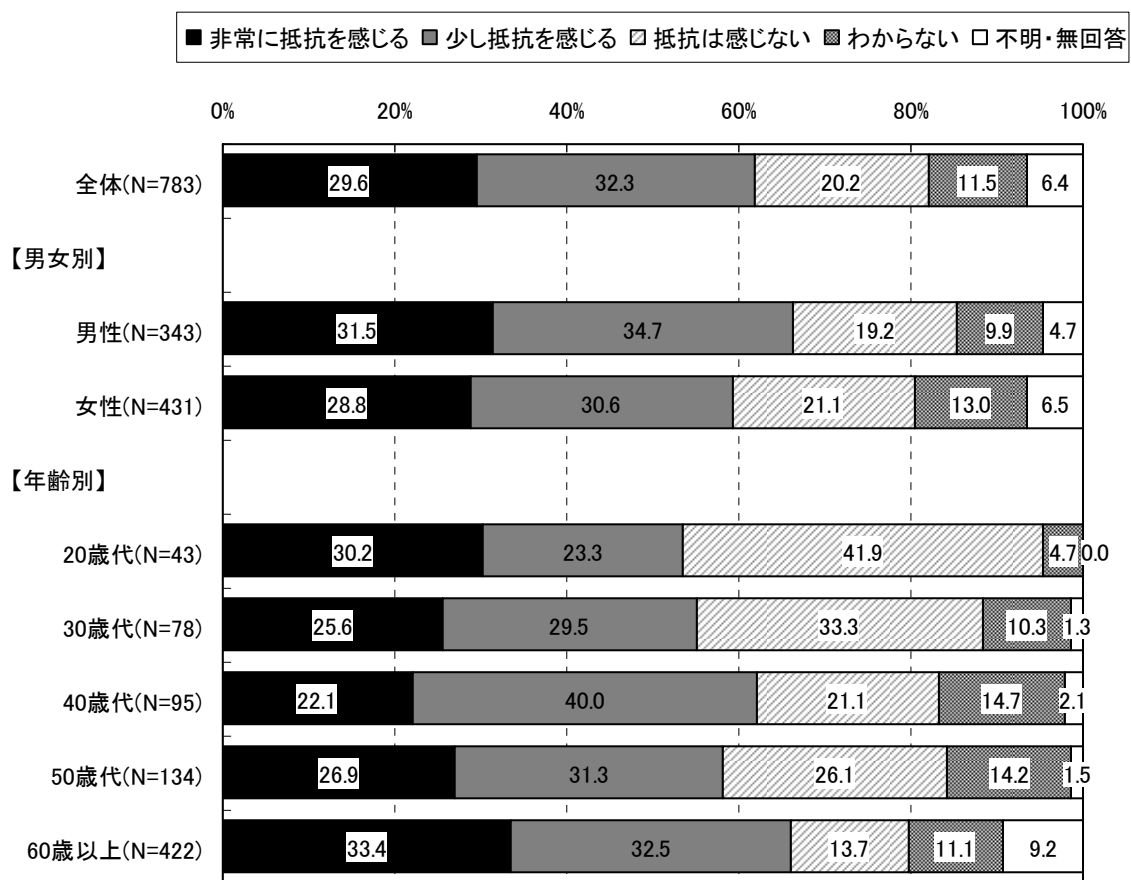
⑧ 離婚すること

全体で見ると、「少し抵抗を感じる」が32.3%でもっとも多く、「非常に抵抗を感じる」とあわせると、61.9%となっています。

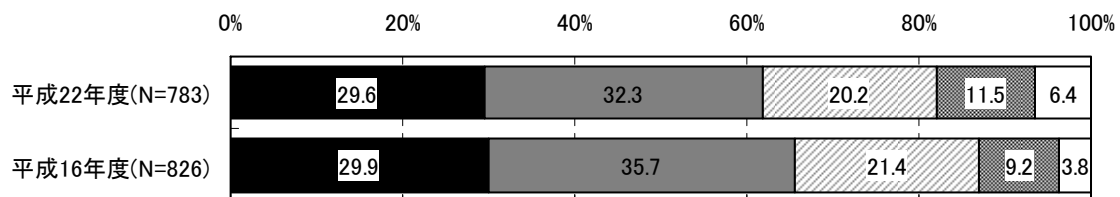
男女別で見ると、『抵抗を感じる』は、男性では66.2%、女性では59.4%で、女性より男性の方が6.8ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、『抵抗を感じる』は、60歳以上で65.9%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。「非常に抵抗を感じる」については、20歳代から40歳代にかけて少なくなり、その後60歳以上にかけて多くなっています。

前回調査と比較すると、『抵抗を感じる』について3.7ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>



3. 職業生活について

(1) 残業の状況(SA)

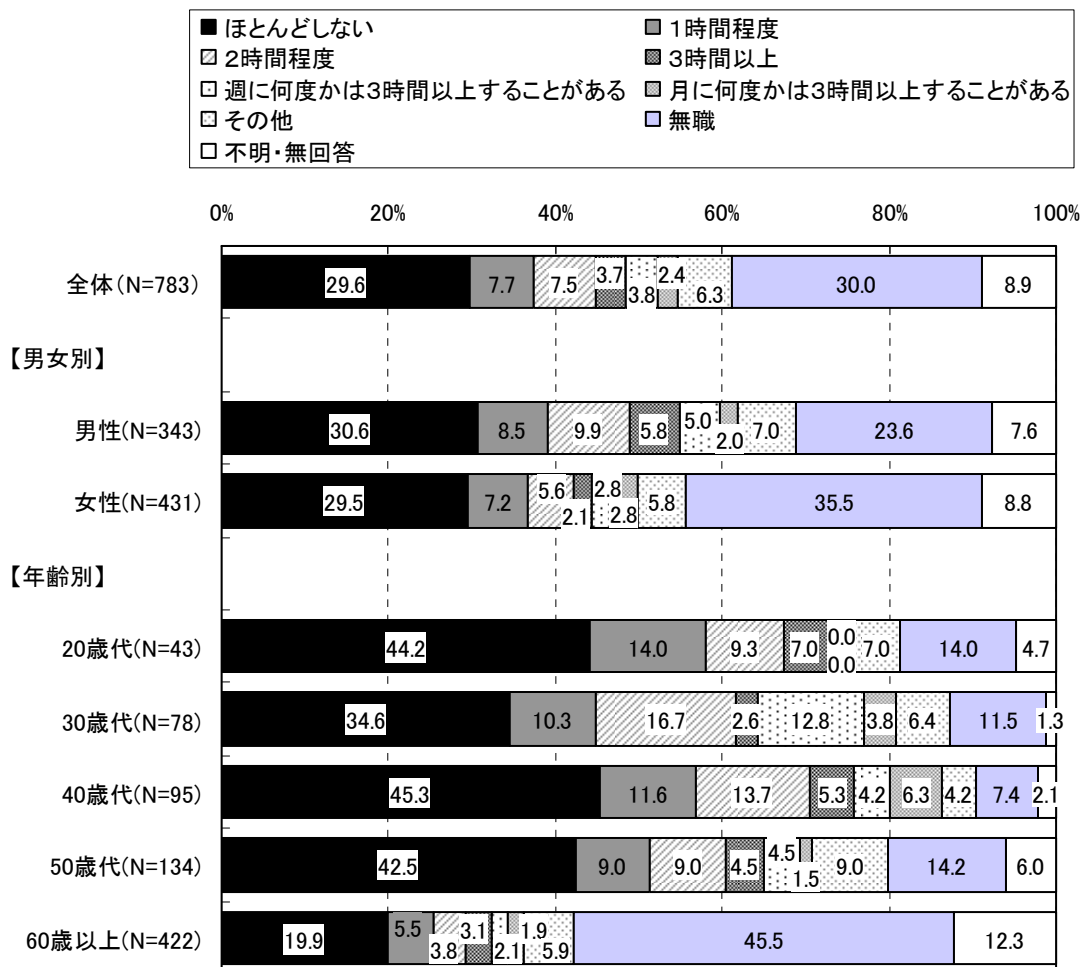
問) あなたは、1日あたり平均するとどのくらい残業されていますか。

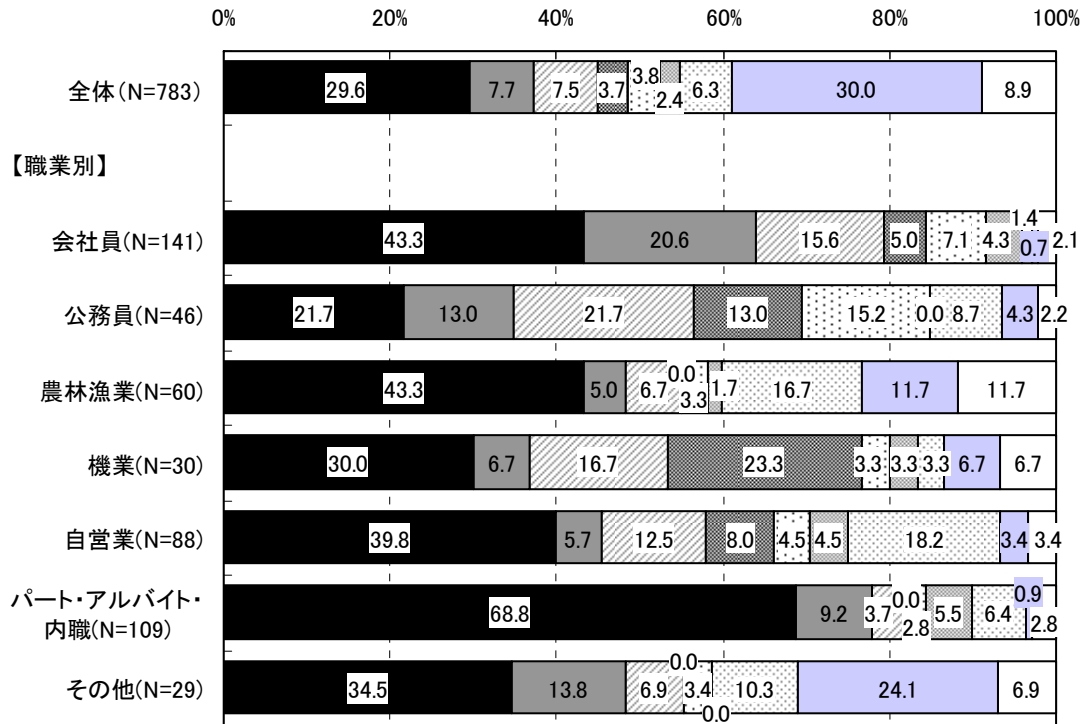
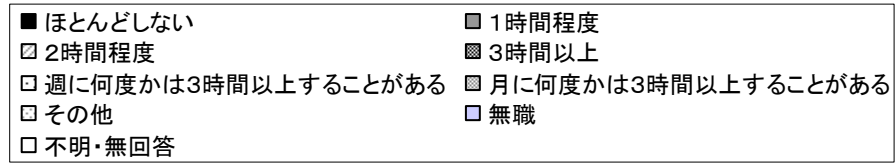
全体でみると、「無職」が30.0%でもっとも多く、次いで「ほとんどしない」が29.6%となっています。

男女別でみると、男性では「ほとんどしない」が30.6%でもっとも多く、女性では「無職」が35.5%でもっとも多くなっています。

年齢別でみると、20歳代から50歳代にかけては、「ほとんどしない」がもっとも多くなっており、60歳以上でも、「無職」を除くと、「ほとんどしない」がもっとも多くなっています。

職業別でみると、公務員では「ほとんどしない」と「2時間程度」がそれぞれ21.7%ともっとも多く、その他の職業では「ほとんどしない」がもっとも多くなっています。





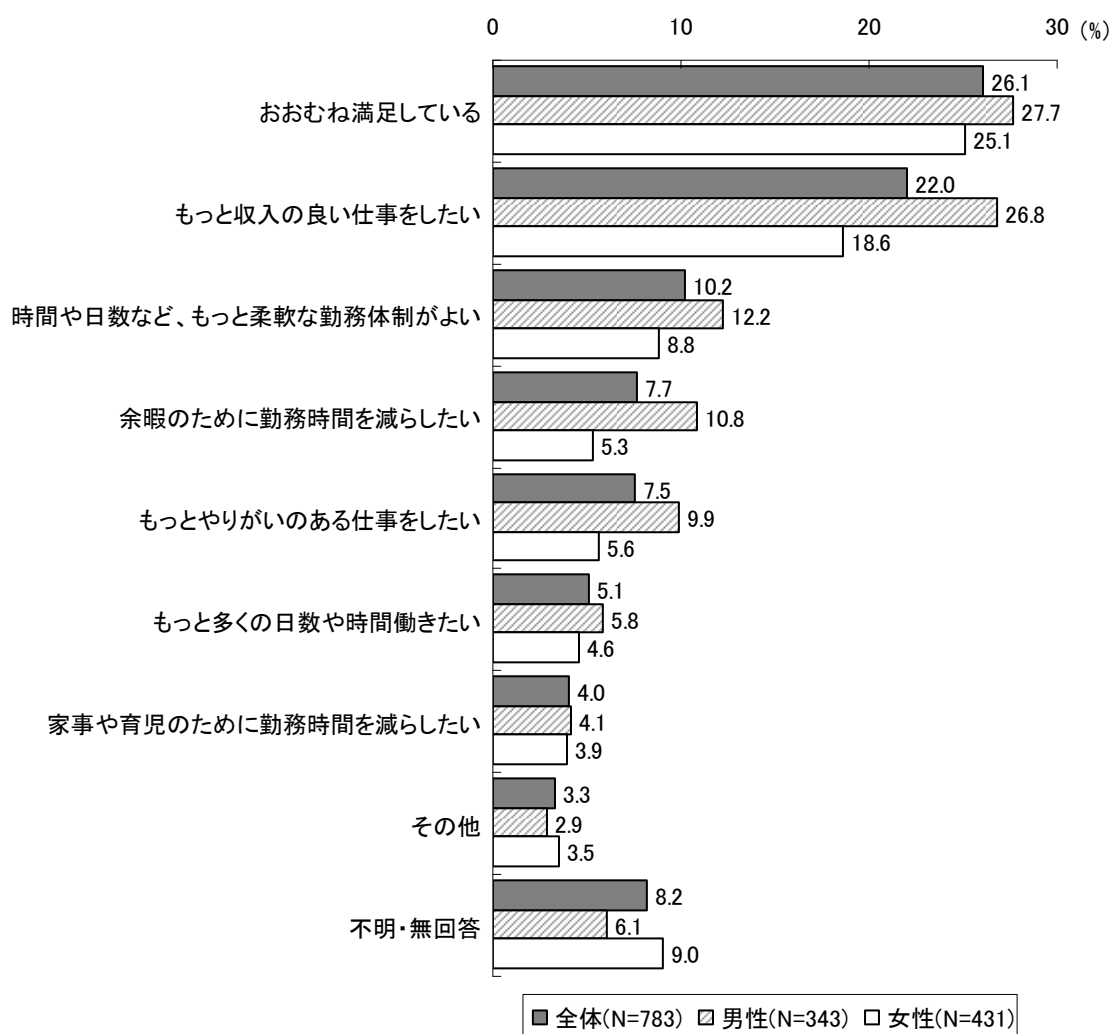
※学生・家事専業・無職を除く

(2) 現在の就労状況への希望(MA)

問) あなたの現在の就労状況についてどう思われていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体でみると、「おおむね満足している」が 26.1%でもっとも多く、次いで「もっと収入の良い仕事をしたい」が 22.0%となっています。

男女別でみると、「もっと収入の良い仕事をしたい」は、男性では 26.8%、女性では 18.6%で、女性より男性の方が 8.2 ポイント多くなっています。



※「無職」の回答を除く

(%)

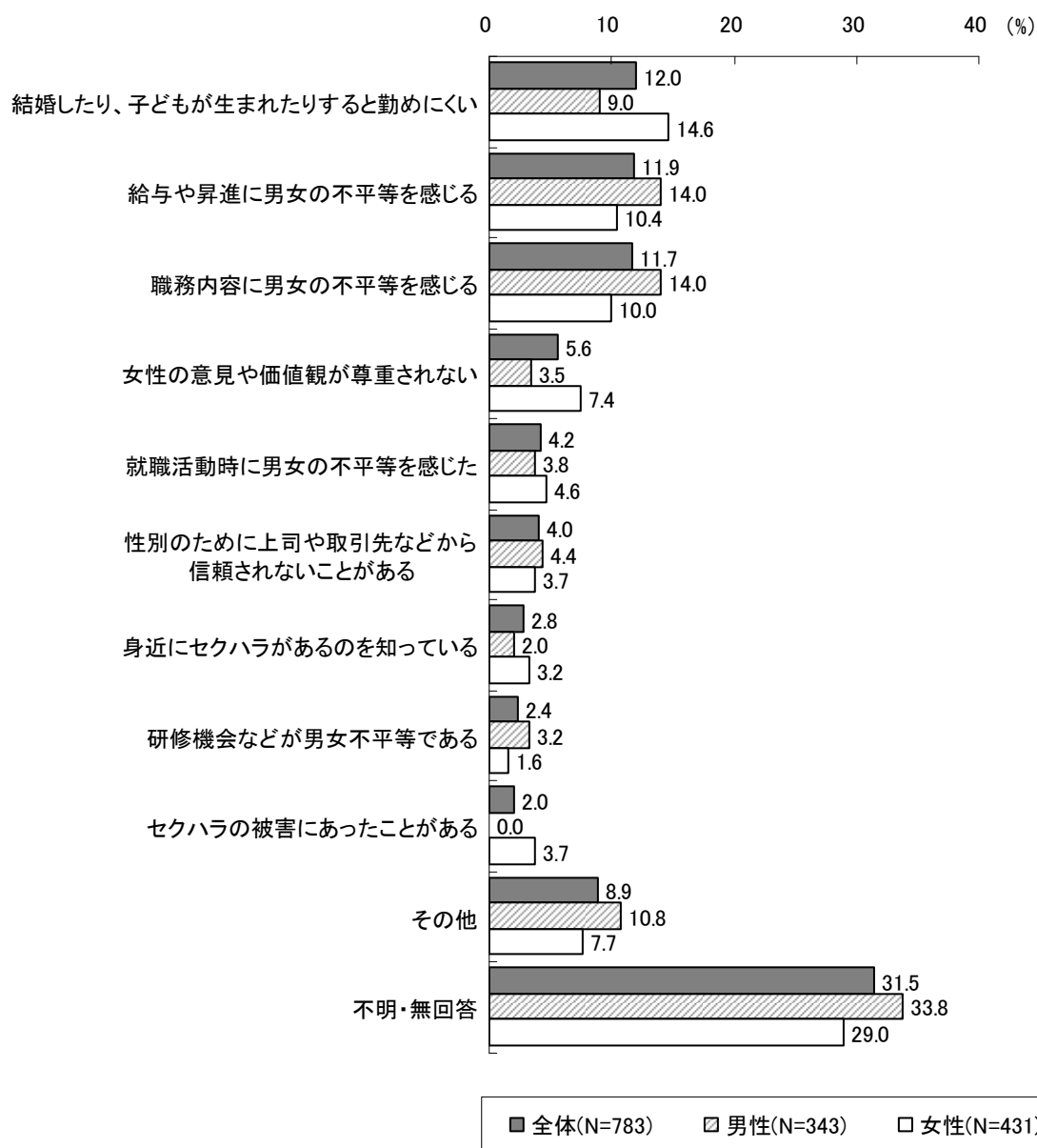
	回答者（人）	もっと収入の良い仕事をしたい	もっと多くの日数や時間働きたい	もっとやりがいのある仕事をしたい	家事や育児のために勤務時間を減らしたい	余暇のために勤務時間を減らしたい	時間や日数など、もっと柔軟な勤務体制がよい	おおむね満足している	その他	無職	不明・無回答
全体	783	22.0	5.1	7.5	4.0	7.7	10.2	26.1	3.3	30.3	8.2
【職業別】											
会社員	141	34.0	4.3	12.8	8.5	17.7	20.6	39.0	2.8	0.7	0.7
公務員	46	19.6	0.0	13.0	21.7	19.6	23.9	45.7	2.2	4.3	0.0
農林漁業	60	26.7	1.7	8.3	1.7	10.0	6.7	40.0	5.0	13.3	10.0
機業	30	36.7	0.0	13.3	0.0	13.3	20.0	26.7	3.3	6.7	3.3
自営業	88	34.1	13.6	9.1	4.5	12.5	6.8	36.4	5.7	1.1	9.1
パート・アルバイト・内職	109	32.1	14.7	11.0	1.8	2.8	12.8	47.7	2.8	2.8	1.8
学生	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
家事専業	62	8.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	4.8	77.4	11.3
無職	201	3.0	1.0	1.5	1.0	0.5	1.0	0.0	1.5	81.1	14.4
その他	29	37.9	3.4	6.9	0.0	3.4	24.1	31.0	3.4	17.2	10.3

(3) 職場における男女不平等の実態(MA)

問) あなたの職業・職場について、あてはまることがらがあればすべて選んでください。

全体で見ると、「不明・無回答」がもっとも多くなっていますが、あてはまることの中からみると、「結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい」が12.0%でもっとも多く、次いで「給与や昇進に男女の不平等を感じる」が11.9%、「職務内容に男女の不平等を感じる」が11.7%となっています。

男女別で見ると、男性では「給与や昇進に男女の不平等を感じる」と「職務内容に男女の不平等を感じる」がそれぞれ14.0%でもっとも多く、女性では「結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい」が14.6%でもっとも多くなっています。



※「無職」の回答を除く

(%)

	回答者 (人)	就職活動時に男女の不平等を感じた	職務内容に男女の不平等を感じる	給与や昇進に男女の不平等を感じる	研修機会などが男女不平等である	女性の意見や価値観が尊重されない	信頼されないことがある	性別のために上司や取引先などから勤めにくい	結婚したり、子どもが生まれたりするとセクハラ被害にあったことがある	身近にセクハラがあるのを知っている	その他	無職	不明・無回答
全体	783	4.2	11.7	11.9	2.4	5.6	4.0	12.0	2.0	2.8	8.9	29.9	31.5
【年齢別】													
20歳代	43	7.0	18.6	25.6	0.0	0.0	7.0	23.3	2.3	0.0	7.0	14.0	32.6
30歳代	78	2.6	12.8	11.5	2.6	9.0	3.8	17.9	3.8	3.8	12.8	11.5	42.3
40歳代	95	4.2	21.1	17.9	5.3	12.6	8.4	22.1	5.3	4.2	9.5	4.2	33.7
50歳代	134	8.2	16.4	14.2	3.7	9.7	6.0	15.7	2.2	4.5	9.7	12.7	32.1
60歳以上	422	3.1	7.3	8.8	1.4	2.8	2.1	6.6	0.9	1.9	8.3	46.4	28.0
【職業別】													
会社員	141	3.5	22.0	25.5	7.1	5.7	9.2	26.2	3.5	5.0	6.4	0.7	39.0
公務員	46	4.3	19.6	8.7	2.2	6.5	2.2	17.4	4.3	2.2	13.0	4.3	39.1
農林漁業	60	8.3	11.7	11.7	0.0	5.0	5.0	6.7	3.3	3.3	21.7	15.0	31.7
機業	30	6.7	10.0	6.7	3.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	6.7	10.0	66.7
自営業	88	5.7	11.4	9.1	2.3	8.0	8.0	11.4	2.3	1.1	20.5	2.3	40.9
パート・アルバイト・内職	109	9.2	16.5	17.4	0.9	13.8	3.7	18.3	3.7	5.5	12.8	1.8	38.5
学生	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
家事専業	62	0.0	4.8	3.2	0.0	1.6	0.0	6.5	1.6	0.0	4.8	74.2	12.9
無職	201	1.5	3.0	4.0	1.0	1.5	1.0	2.5	0.0	1.5	1.0	79.6	14.4
その他	29	3.4	13.8	24.1	3.4	13.8	3.4	10.3	0.0	3.4	6.9	17.2	37.9

(4) 女性が職業をもつことへの意識(SA)

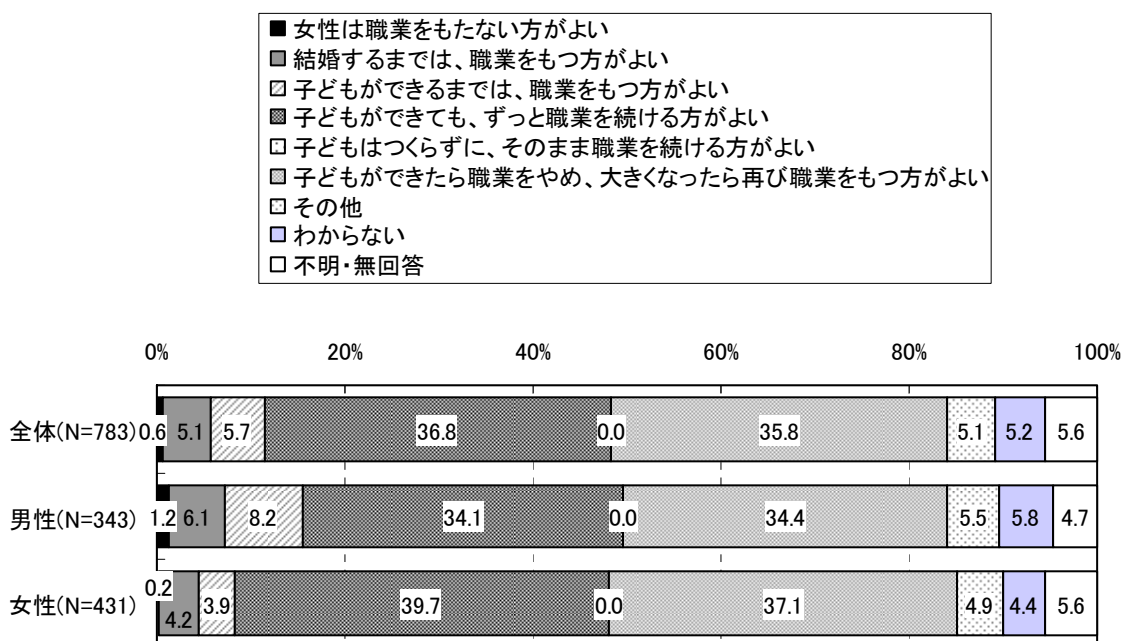
問) 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が36.8%でもっとも多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が35.8%と拮抗しています。

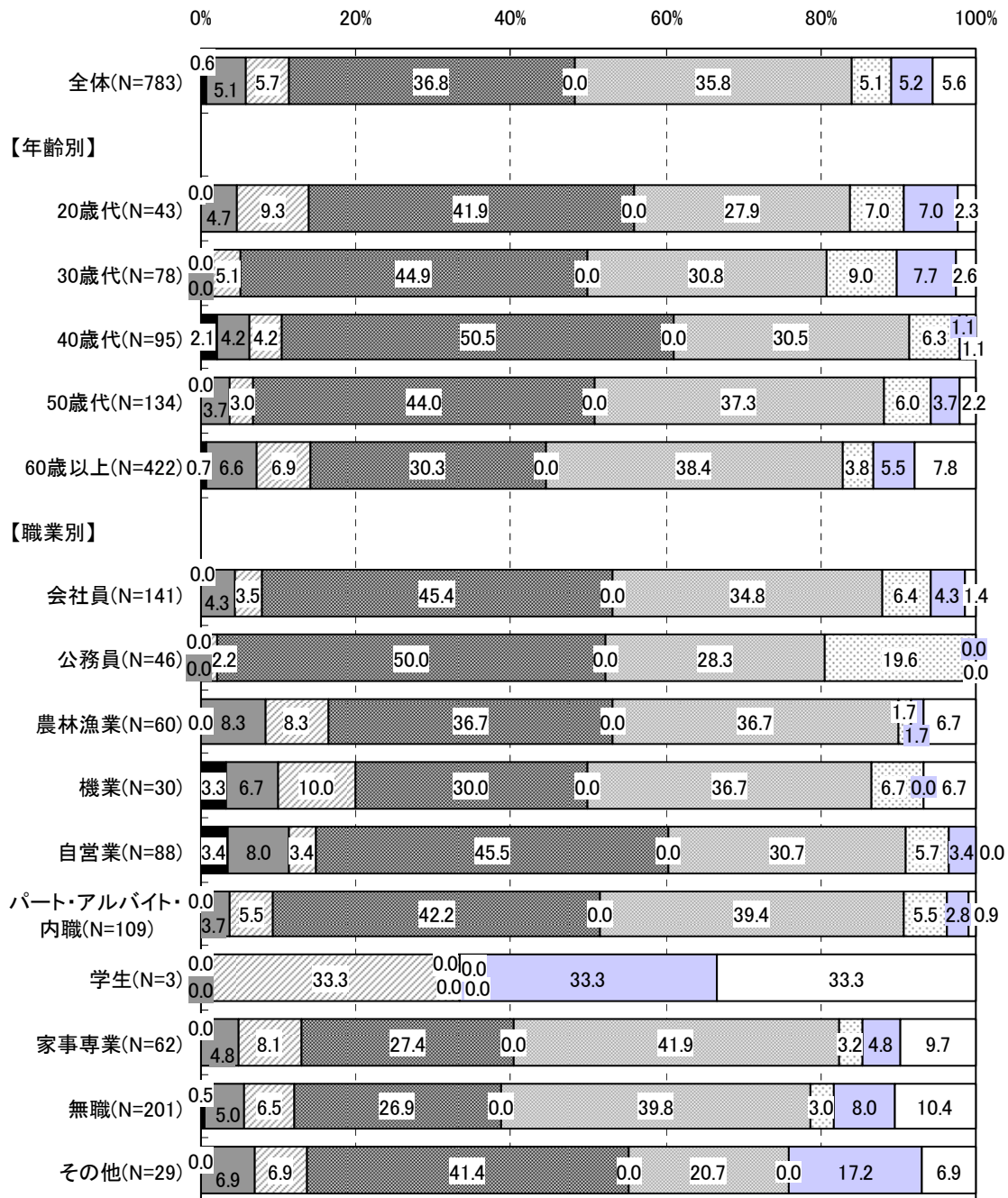
男女別でみると、男性では「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が34.4%でもっとも多く、女性では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が39.7%でもっとも多くなっています。

年齢別でみると、20歳代から50歳代では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」がそれぞれ4～5割ともっとも多くなっていますが、60歳以上では、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が38.4%ともっとも多くなっています。

職業別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」については、公務員が50.0%と、他の職業と比べてもっとも多くなっています。「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」については、家事専業が41.9%と、他の職業と比べてもっとも多くなっています。



- 女性は職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもはつくらずに、そのまま職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない
- 不明・無回答



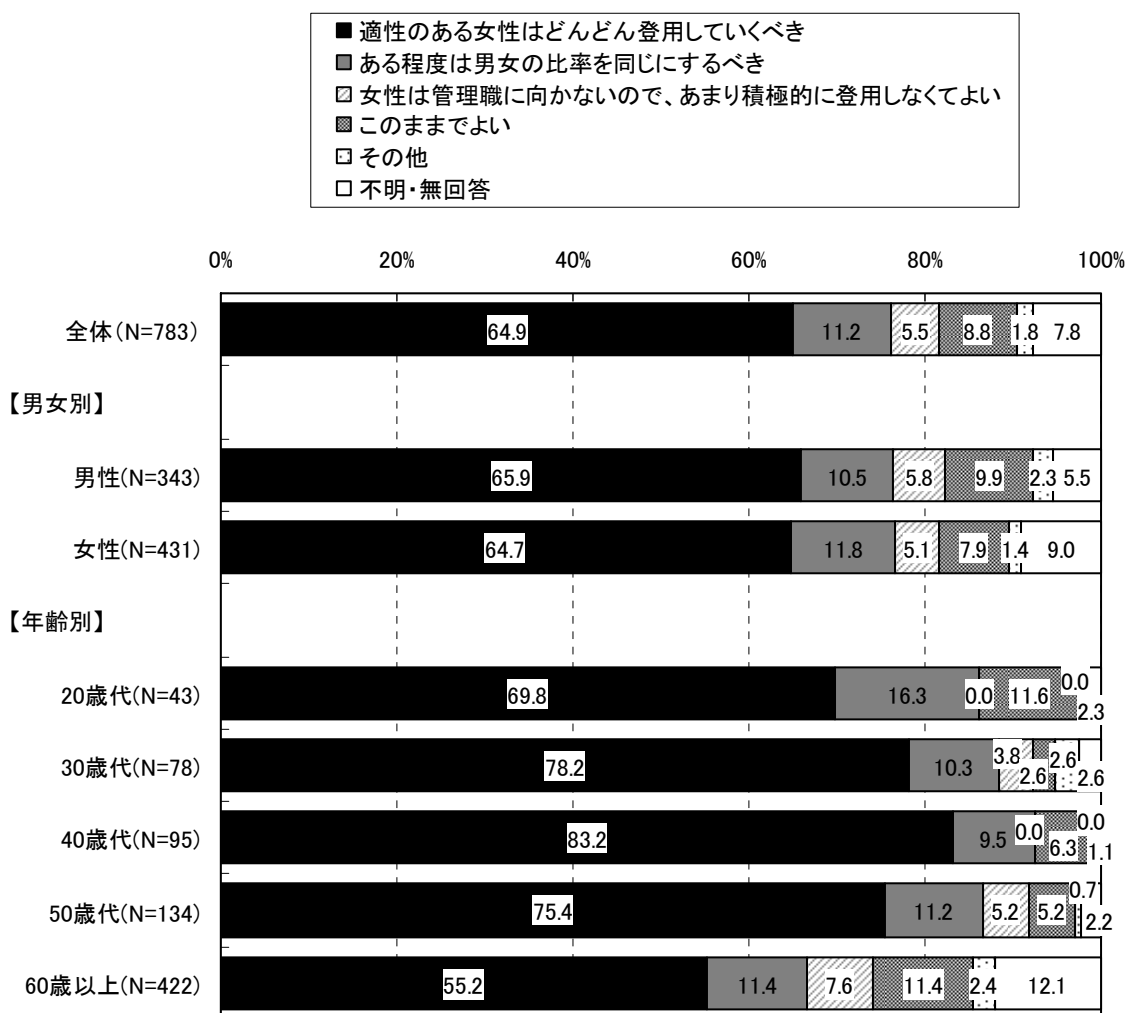
(5) 女性の管理職比率への意識 (SA)

問) 一般的にどこの職場でも、まだまだ女性の管理職の比率が低い状況にあります。これについてあなたはどうお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体で見ると、「適性のある女性はどんどん登用していくべき」が 64.9%でもっとも多くなっています。

男女別で見ても、男性、女性ともに「適性のある女性はどんどん登用していくべき」がもっとも多くなっています。

年齢別で見ると、全ての年齢で、「適性のある女性はどんどん登用していくべき」がもっとも多くなっていますが、40歳代では 83.2%、60歳以上では 52.2%と、60歳以上より 40歳代の方が 28.0ポイント多くなっています。



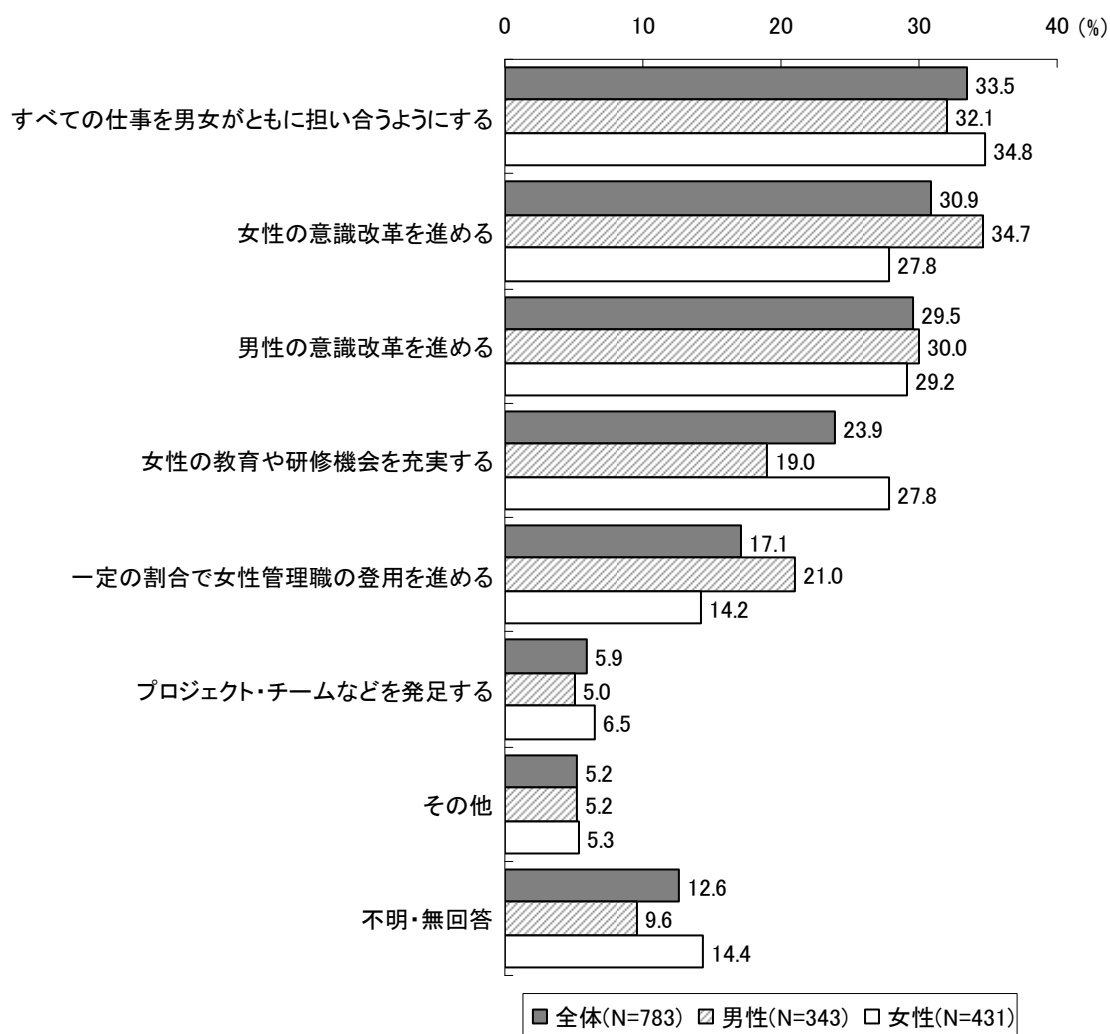
(6) 女性の指導的立場への参画の手法 (MA)

問) 職場において、責任ある職務や指導的立場などにもっと女性が参画するためには、どうするのがよいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体で見ると、「すべての仕事を男女がともに担い合うようにする」が 33.5%でもっとも多く、次いで「女性の意識改革を進める」が 30.9%、「男性の意識改革を進める」が 29.5%となっています。

男女別で見ると、「女性の教育や研修機会を充実する」については男性より女性の方が 8.8 ポイント多く、「女性の意識改革を進める」については女性より男性の方が 6.9 ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、40 歳代と 50 歳代では「男性の意識改革を進める」がもっとも多く、30 歳代と 60 歳以上では「すべての仕事を男女がともに担い合うようにする」がもっとも多くなっています。20 歳代では「男性の意識改革を進める」と、「すべての仕事を男女がともに担い合うようにする」がともに多くなっています。



(%)

	回答者 (人)	女性の教育や研修機会を充実する	女性の意識改革を進める	男性の意識改革を進める	一定の割合で女性管理職の登用を進める	プロジェクト・チームなどを発足する	すべての仕事を男女がともに担い合うようにする	その他	不明・無回答
全体	783	23.9	30.9	29.5	17.1	5.9	33.5	5.2	12.6
【年齢別】									
20歳代	43	30.2	34.9	41.9	4.7	4.7	41.9	7.0	7.0
30歳代	78	19.2	29.5	29.5	21.8	3.8	39.7	6.4	3.8
40歳代	95	31.6	38.9	41.1	11.6	5.3	30.5	8.4	8.4
50歳代	134	17.9	36.6	38.1	18.7	6.7	27.6	2.2	6.7
60歳以上	422	24.4	27.0	23.0	18.5	6.2	34.4	5.2	17.1

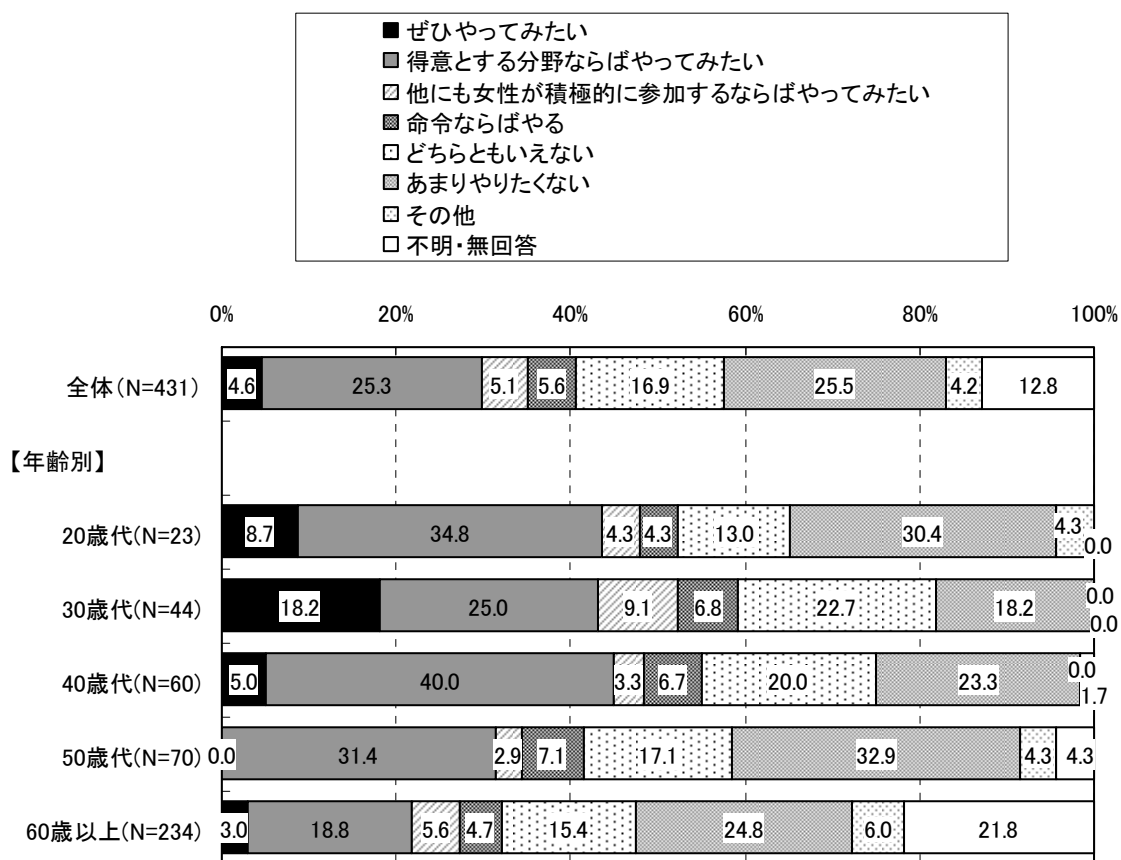
(7) 管理職への参加意欲 (SA)

(女性の方におたずねします。)

問) あなたは、ご自身に機会が与えられれば、指導的立場や管理職につきますか。

全体で見ると、「あまりやりたくない」が 25.5%でもっとも多く、次いで「得意とする分野ならばやってみよう」が 25.3%となっています。

年齢別で見ると、20歳代から40歳代では「得意とする分野ならばやってみよう」がもっとも多く、50歳代、60歳以上では「あまりやりたくない」がもっとも多くなっています。また、「ぜひやってみよう」については、30歳代で18.2%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。



(8) 育児休業の取得について(SA)

(お子さんがおられる方におたずねします。)

問) 育児休業はとられましたか。その時の休業期間はどのくらいでしたか。

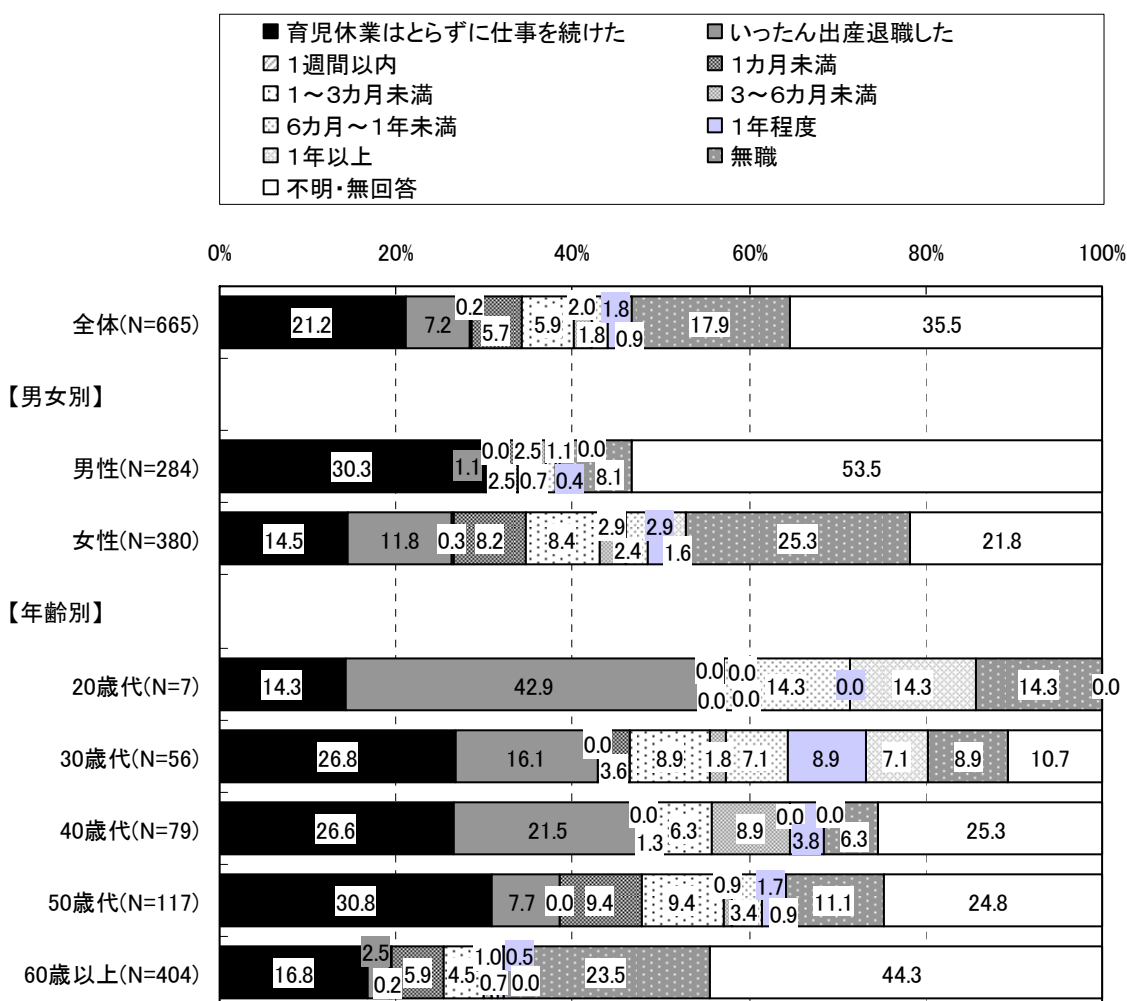
(男性もお答えください。)

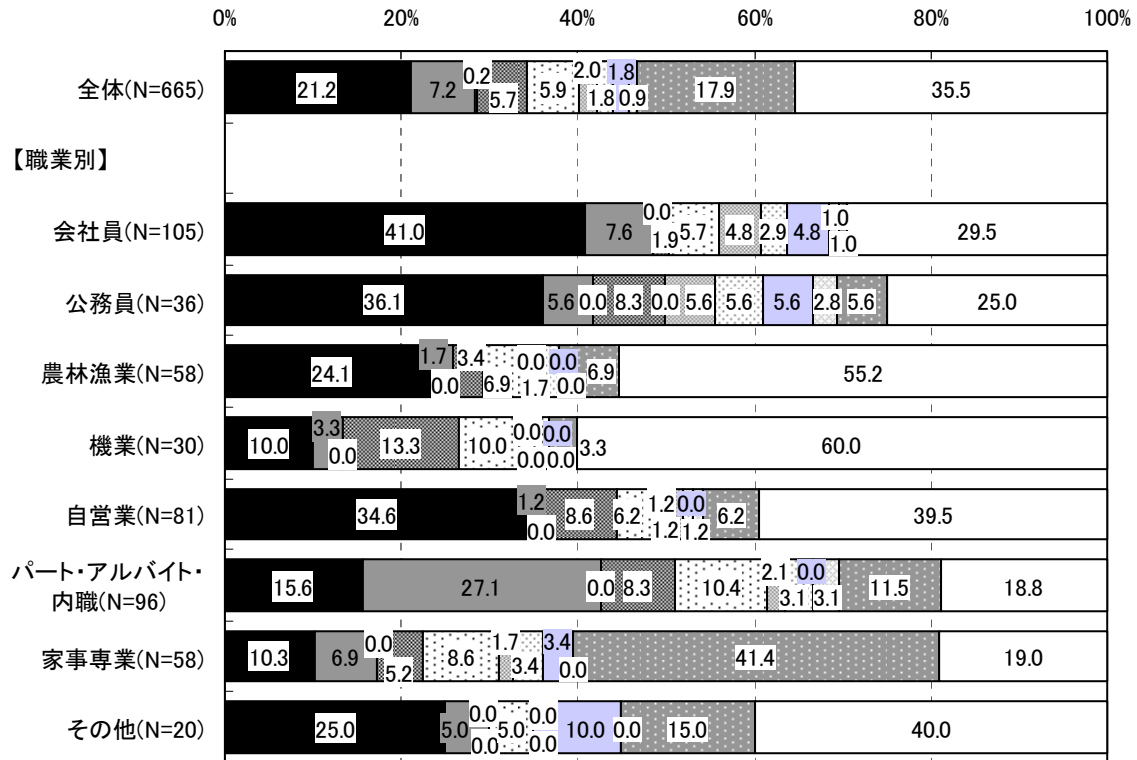
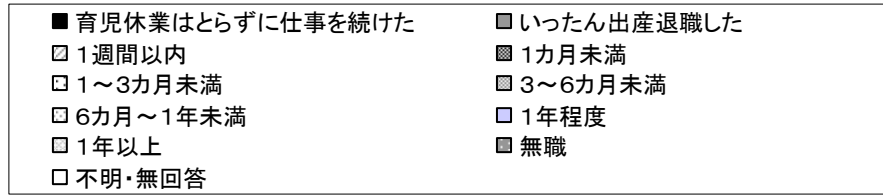
全体で見ると、「不明・無回答」を除くと、「育児休業はとらずに仕事を続けた」が21.2%でもっとも多くなっています。

男女別で見ると、男性では「不明・無回答」を除くと「育児休業はとらずに仕事を続けた」が30.3%でもっとも多く、女性では「無職」が25.3%でもっとも多くなっています。

年齢別で見ると、「不明・無回答」を除くと、30歳代から60歳以上では「育児休業はとらずに仕事を続けた」がもっとも多くなっていますが、20歳代では「いったん出産退職した」がもっとも多くなっています。

職業別で見ると、「育児休業はとらずに仕事を続けた」については、「会社員」で41.0%と他の職業と比べてもっとも多くなっています。





※学生・無職を除く

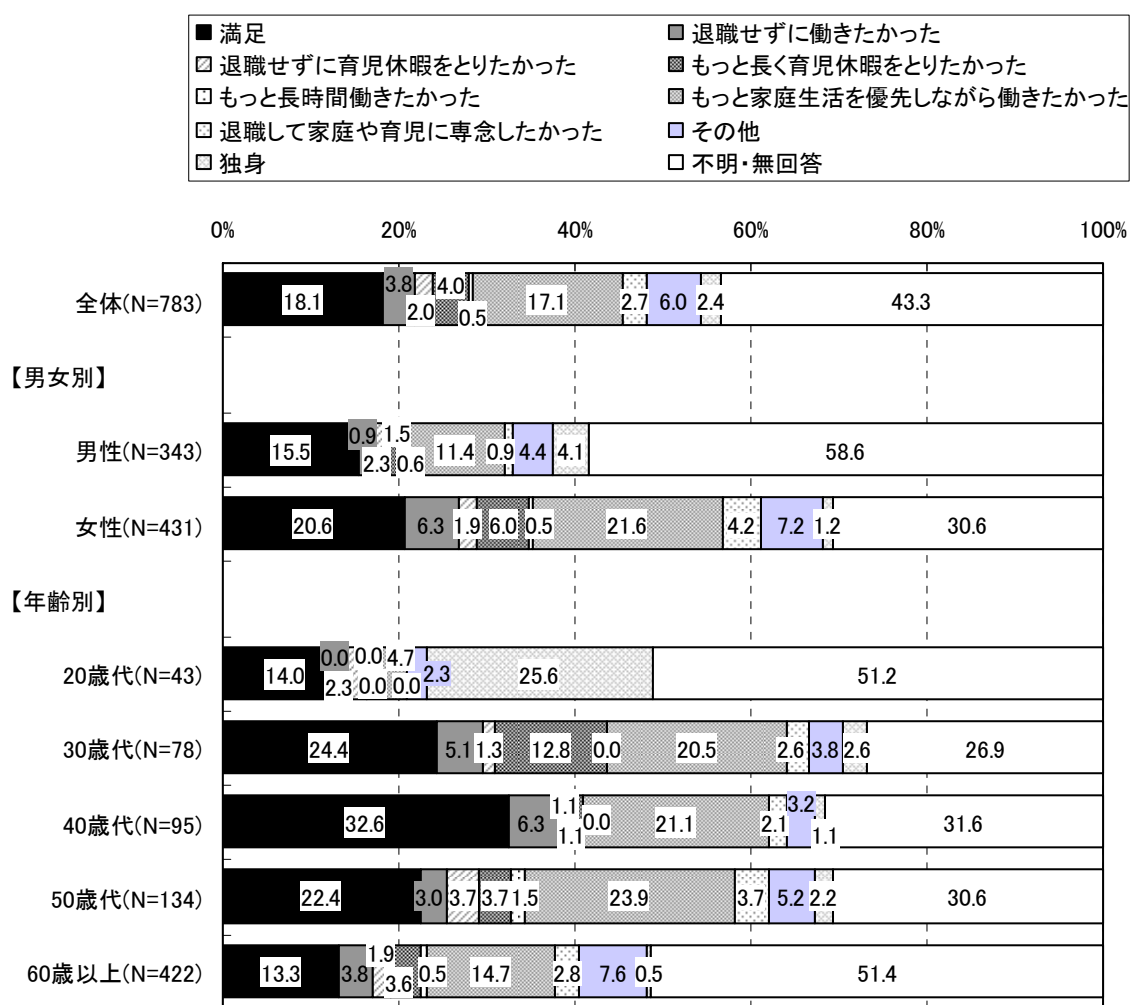
(9) 結婚・出産後の就労・退職について (SA)

問) 結婚・出産後のあなたの就労・退職について満足していますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。(男性もお答えください。)

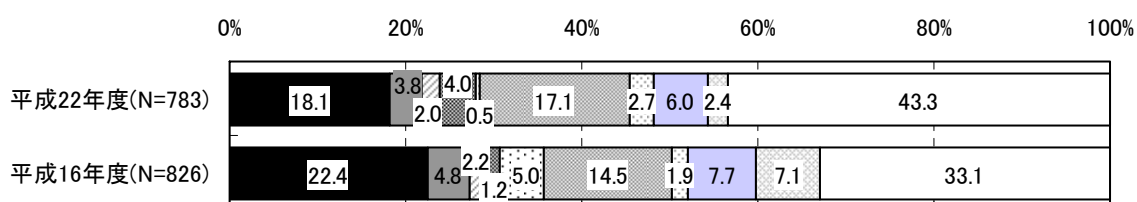
全体で見ると、「不明・無回答」を除くと、「満足」が18.1%でもっとも多く、次いで「もっと家庭生活を優先しながら働きたかった」が17.1%となっています。

男女別で見ると、「もっと家庭生活を優先しながら働きたかった」について、男性では11.4%、女性では21.6%となっており、男性より女性の方が10.2ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると、「もっと長時間働きたかった」については4.5ポイント少なく、「満足」については4.3ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>



(10) 育児・介護と仕事の両立についての希望 (SA)

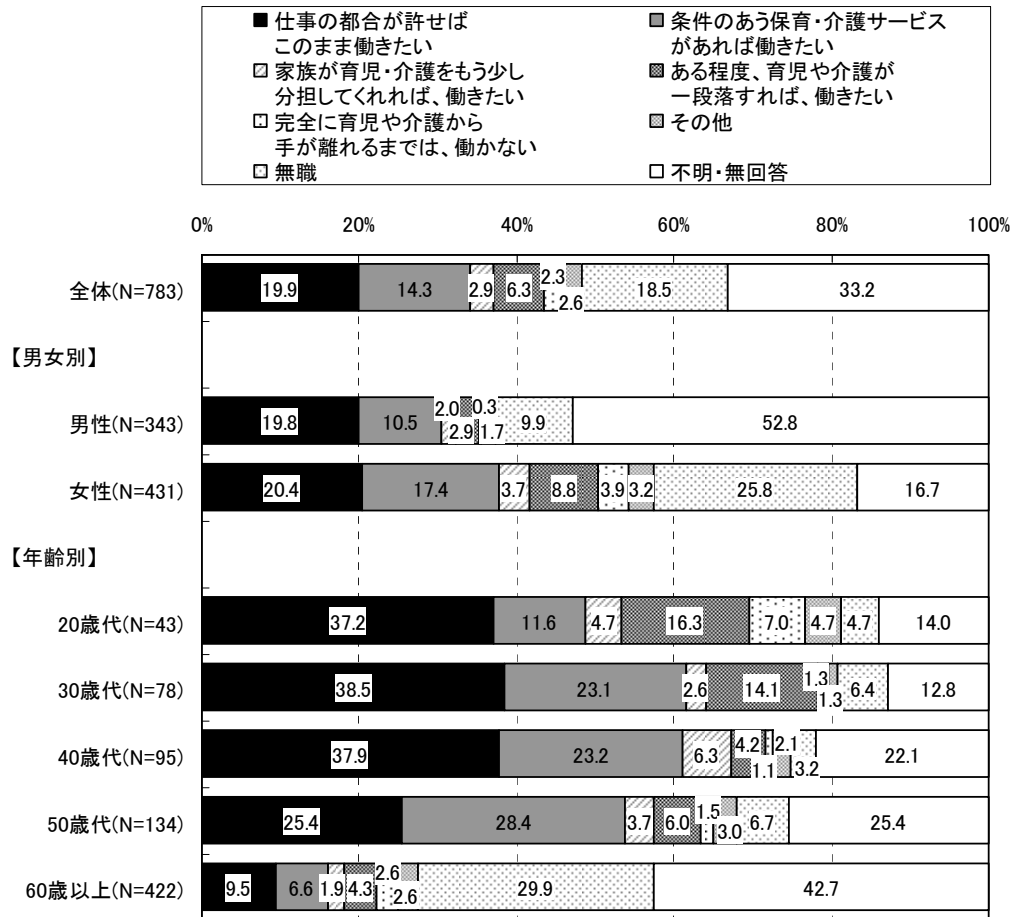
問) 将来、育児や介護の必要な家族ができた場合、仕事を続けたいと思いますか。現在、育児や介護中の方は現在の希望をお答えください。あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体でみると、「不明・無回答」、「無職」を除くと、「仕事の都合が許せばこのまま働きたい」が19.9%でもっとも多く、次いで「条件のあう保育・介護サービスがあれば働きたい」が14.3%となっています。

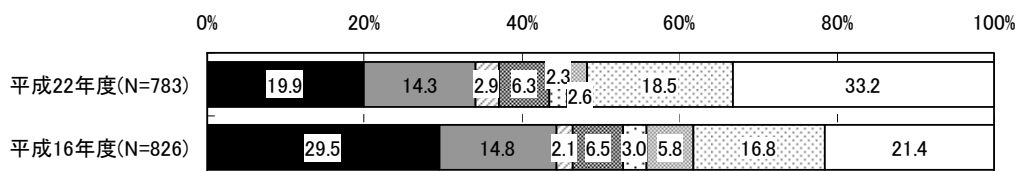
男女別でみると、「条件のあう保育・介護サービスがあれば働きたい」について、男性では10.5%、女性では17.4%と男性より女性の方が6.9ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、「不明・無回答」、「無職」を除くと、20歳代から40歳代と60歳以上では「仕事の都合が許せばこのまま働きたい」がもっとも多くなっていますが、50歳代では「条件のあう保育・介護サービスがあれば働きたい」が28.4%ともっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、「仕事の都合が許せばこのまま働きたい」については約10ポイント少なくなっており、その他の項目についてはほぼ横ばいとなっています。



<前回調査との比較>

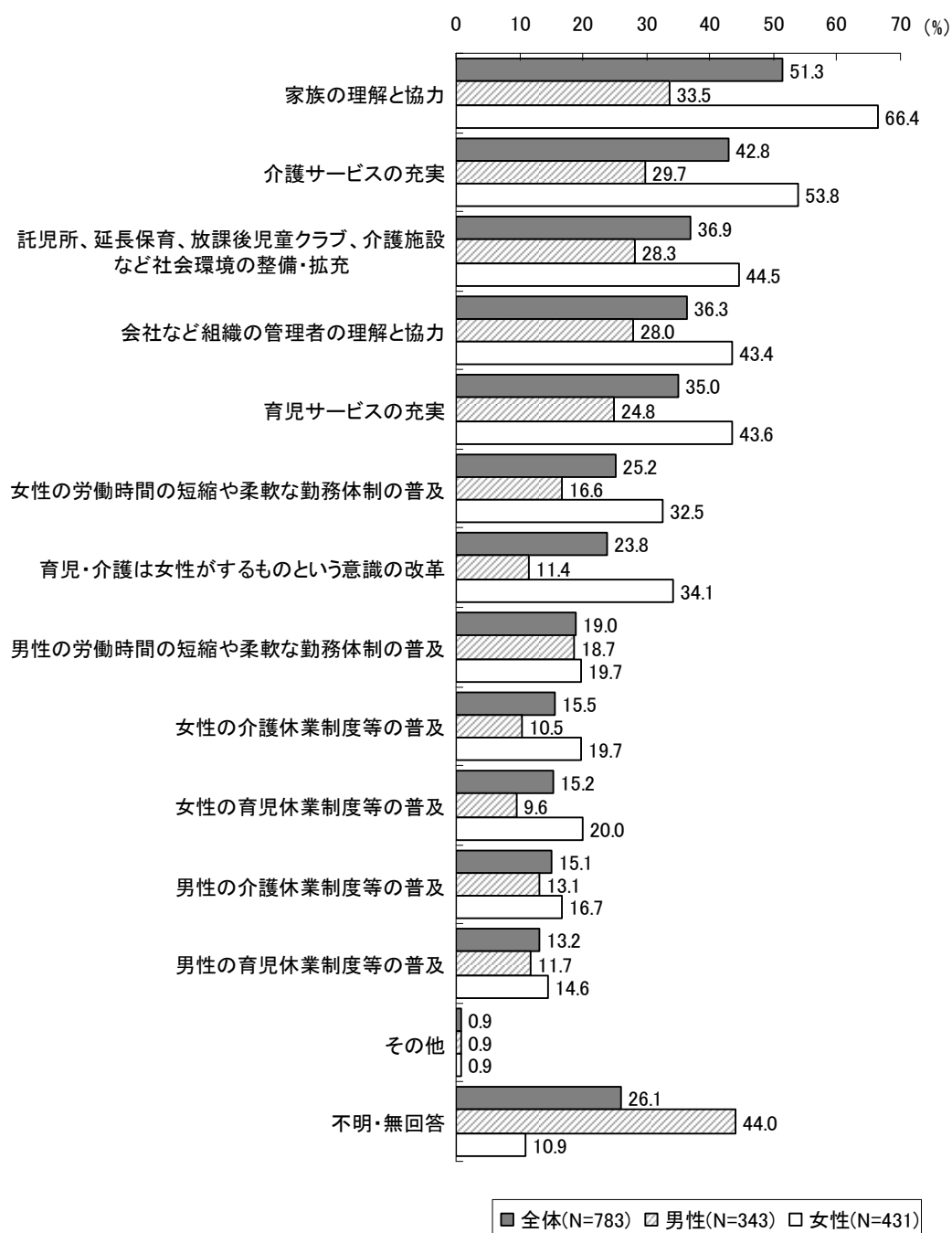


(11) 仕事と家庭生活の両立のために必要なこと (MA)

問) 仕事と家庭生活の両立のために必要なことはどんなことだと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体で見ると、「家族の理解と協力」が51.3%でもっとも多く、次いで「介護サービスの充実」が42.8%となっています。

男女別で見ると、全体的に男性より女性の方が多くなっており、特に「家族の理解と協力」については、男性では33.5%、女性では66.4%と、男性より女性の方が32.9ポイント多くなっています。また、男性では「不明・無回答」が44.0%ともっとも多くなっています。



4. 家庭生活について

(1) 日常生活の時間(NA)

問) あなたの生活時間についてお答えください。およその時間を記入してください。

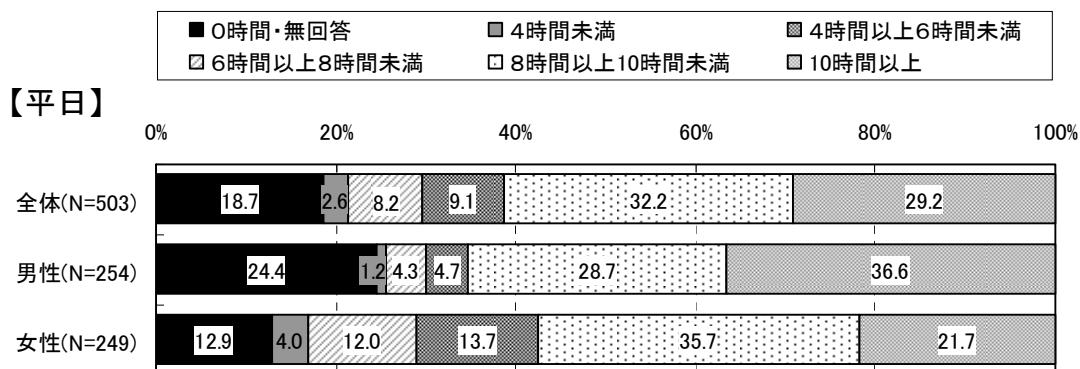
① 仕事

全体で見ると、平日の仕事時間については「8時間以上 10時間未満」が32.2%でもっとも多くなっており、「10時間以上」とあわせると61.4%の人が1日8時間以上仕事をしていると回答しています。また、休日の仕事時間については、29.9%の人が仕事をしていると回答しています。

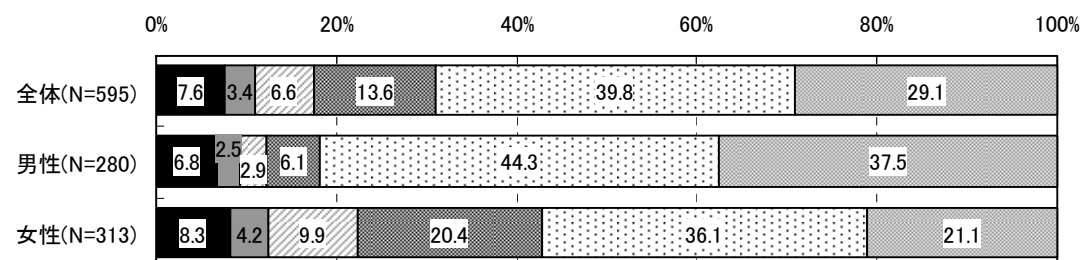
男女別で見ると、平日に8時間以上仕事をしている人は、男性は65.3%に対して、女性では57.4%となっており、男性が7.9ポイント多くなっています。また、休日に仕事をしているは、男性が32.2%に対し、女性は27.2%となっており、男性が5.0ポイント多くなっています。

職業別で見ると、平日の仕事時間については、「10時間以上」について公務員が54.3%と、他の職業と比べてもっとも多く、次いで会社員が43.3%となっています。休日に仕事をしていると回答した人は、農林漁業が46.7%と、他の職業と比べてもっとも多く、次いで自営業が41.0%となっています。

平日の仕事時間について前回調査と比較すると、男性では「0時間・無回答」について17.6ポイント多く、8時間以上については16.5ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>

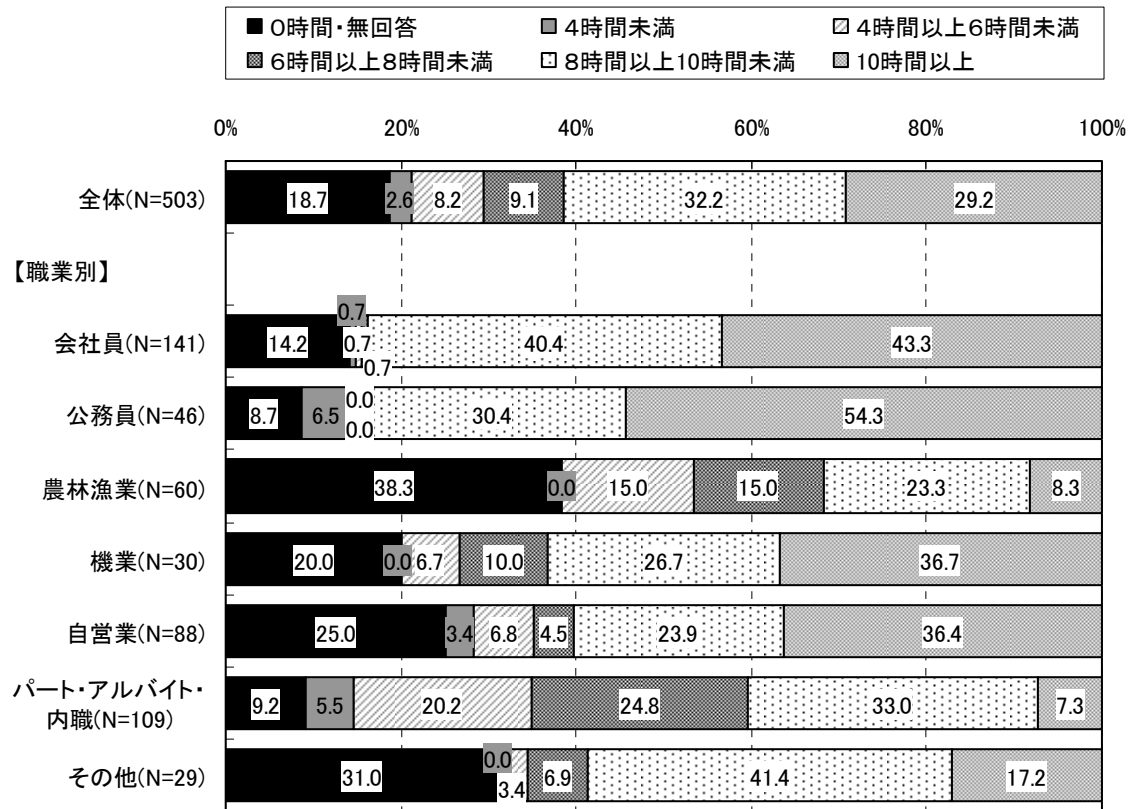


【休日】

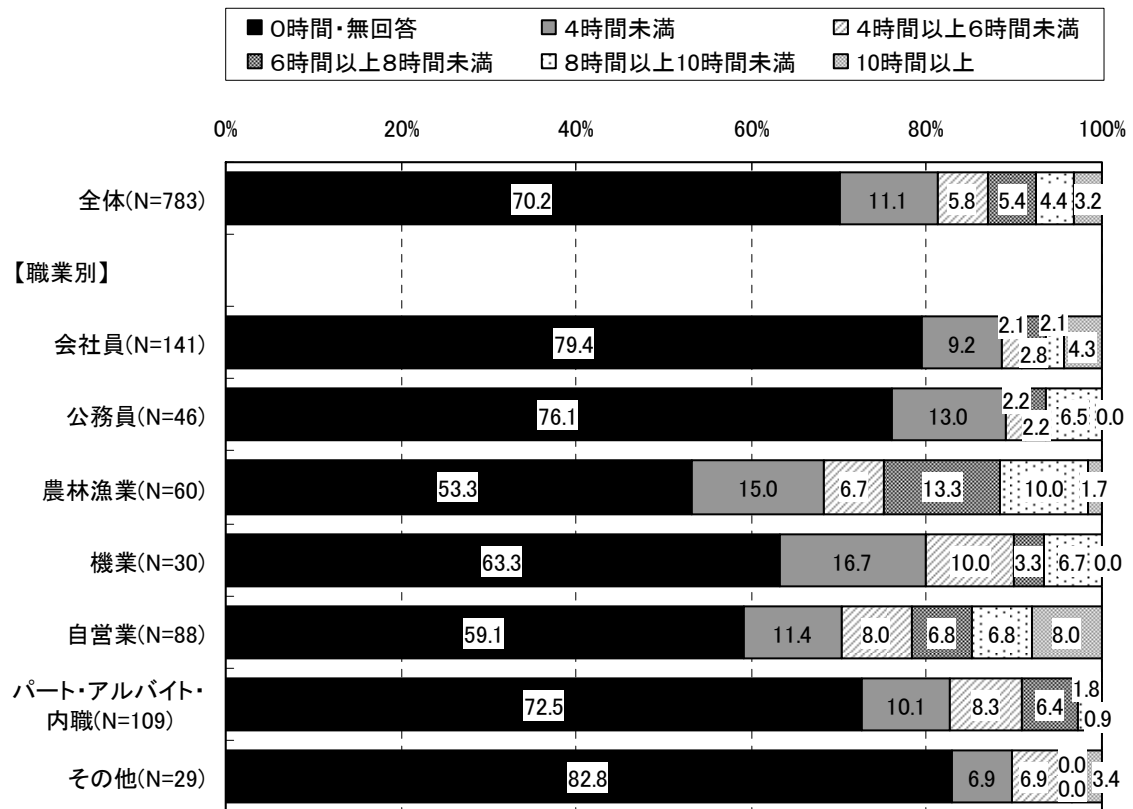


※学生・家事専業・無職を除く

【平日】



【休日】



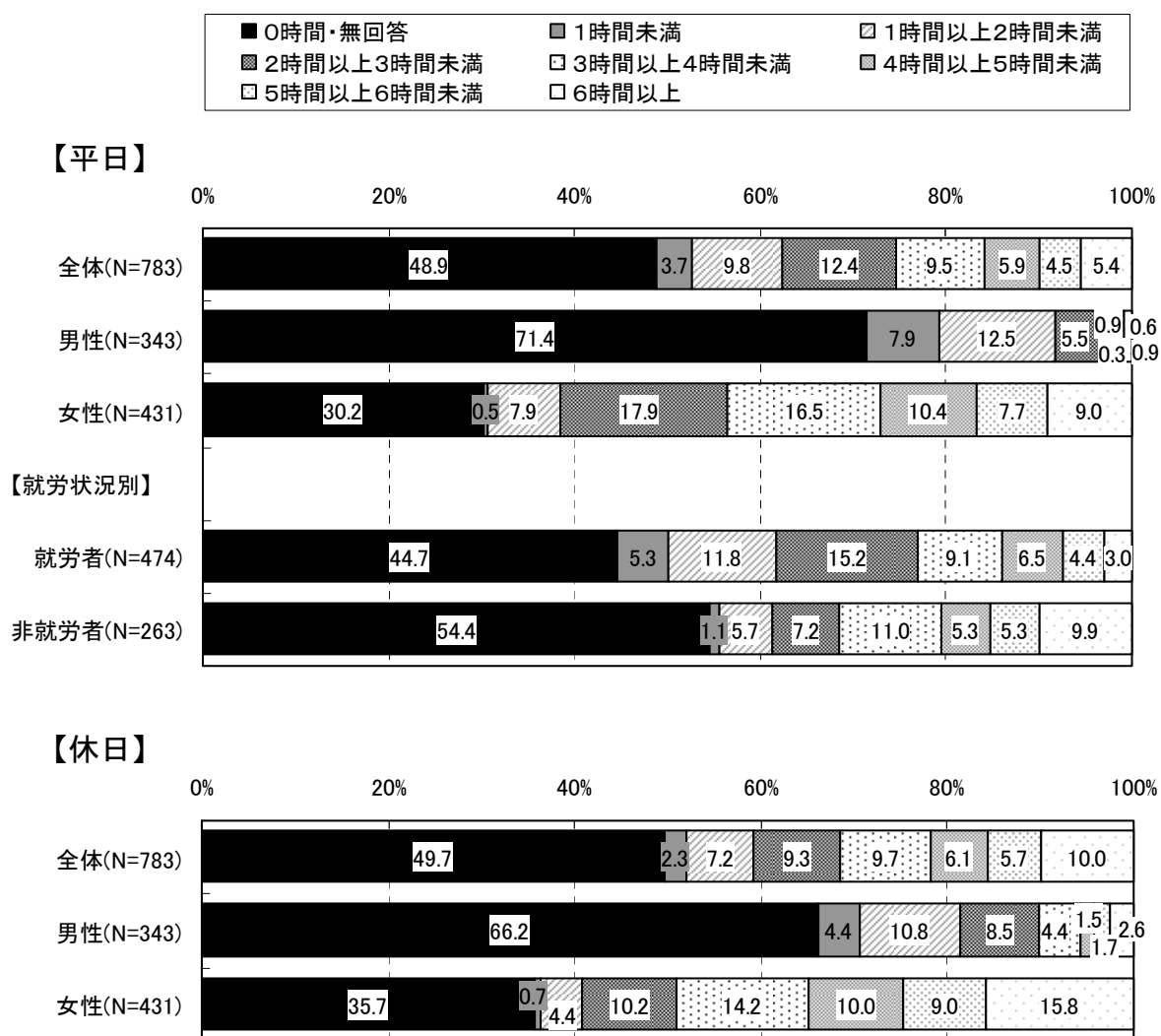
※学生・家事専業・無職を除く

② 家事

全体で見ると、平日の家事にかかる時間については、「0時間・無回答」の人が48.9%でもっとも多く、次いで「2時間以上3時間未満」が12.4%となっています。また、休日の家事にかかる時間についても、「0時間・無回答」の人が49.7%でもっとも多くなっています。

男女別で見ると、男性が平日の家事にかかる時間については、「0時間・無回答」の人が71.4%でもっとも多く、次いで「1時間以上2時間未満」が12.5%となっています。休日の家事にかかる時間についても、「0時間・無回答」の人が66.2%でもっとも多くなっています。女性が平日の家事にかかる時間については、「0時間・無回答」の人が30.2%でもっとも多く、次いで「2時間以上3時間未満」が17.9%となっています。休日の家事にかかる時間についても「0時間・無回答」の人が35.7%でもっとも多くなっています。

平日の家事にかかる時間について就労状況別で見ると、「0時間・無回答」について、就労者では44.7%、非就労者では54.4%で、就労者より非就労者の方が9.7ポイント多くなっています。

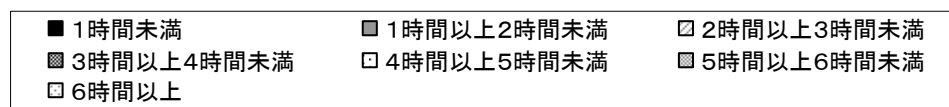


※就労者は会社員、公務員、農林漁業、機業、自営業、パート・アルバイト・内職
 ※非就労者は家事専業、無職

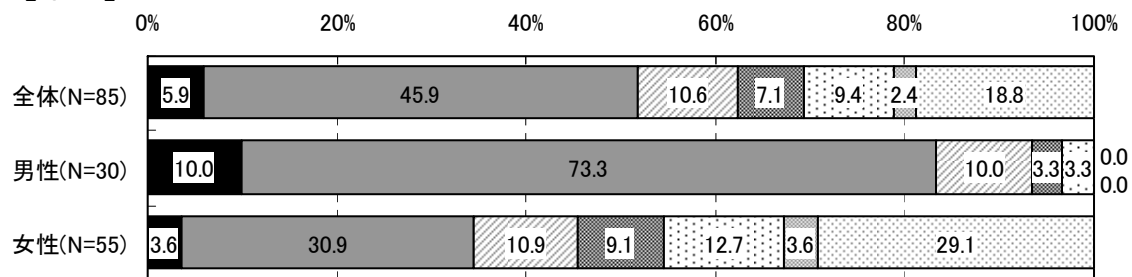
③ 子育て

全体で見ると、平日に子育てにかかる時間については、「1時間以上2時間未満」が45.9%でもっとも多くなっています。また、休日に子育てにかかる時間については、「6時間以上」が32.1%でもっとも多く、次いで「1時間以上2時間未満」が22.6%となっています。

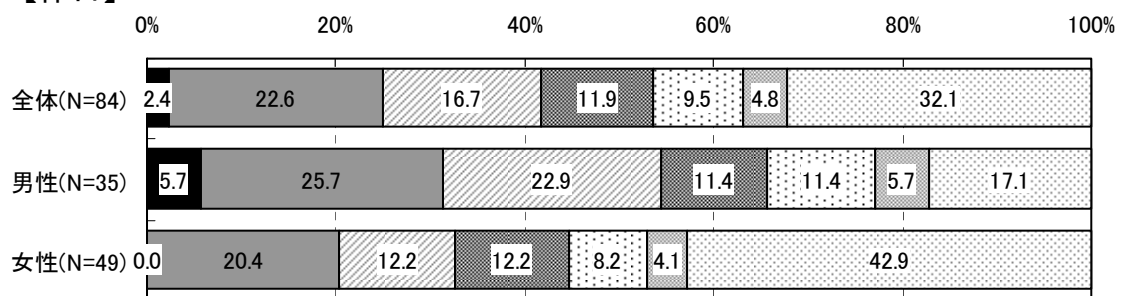
男女別で見ると、男性が平日に子育てにかかる時間については「1時間以上2時間未満」が73.3%でもっとも多くなっています。休日に子育てにかかる時間については「1時間以上2時間未満」が25.7%でもっとも多く、次いで「2時間以上3時間未満」が22.9%となっています。女性が平日に子育てにかかる時間については「1時間以上2時間未満」が30.9%でもっとも多く、次いで「6時間以上」が29.1%となっています。また、休日に子育てにかかる時間については「6時間以上」が42.9%でもっとも多くなっています。



【平日】



【休日】

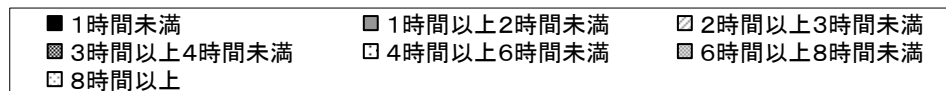


※子どもがいる人のみ
 ※不明・無回答と0時間を除く

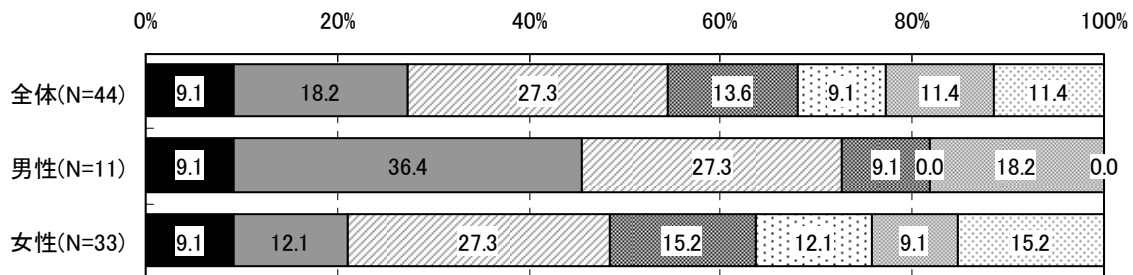
④ 介護や看護

全体で見ると、平日に介護や看護にかかる時間については、「2時間以上3時間未満」が27.3%でもっとも多く、次いで「1時間以上2時間未満」が18.2%となっています。また、休日に介護や看護にかかる時間についても、「2時間以上3時間未満」が27.3%でもっとも多く、次いで「1時間以上2時間未満」が25.0%となっています。

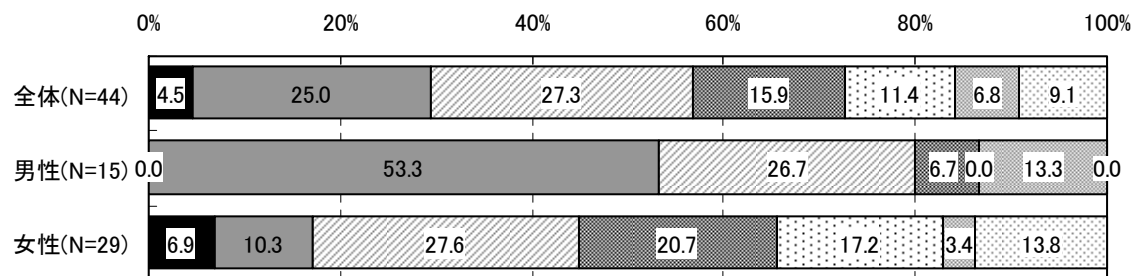
男女別で見ると、男性が平日に介護や看護にかかる時間については、「1時間以上2時間未満」が36.4%でもっとも多く、次いで「2時間以上3時間未満」が27.3%となっています。休日に介護や看護にかかる時間についても、「1時間以上2時間未満」が53.3%でもっとも多くなっています。女性が平日に介護や看護にかかる時間については、「2時間以上3時間未満」が27.3%でもっとも多く、次いで「3時間以上4時間未満」と「8時間以上」が15.2%となっています。また、休日に介護や看護にかかる時間については、「2時間以上3時間未満」が27.6%でもっとも多く、次いで「3時間以上4時間未満」が20.7%となっています。



【平日】



【休日】



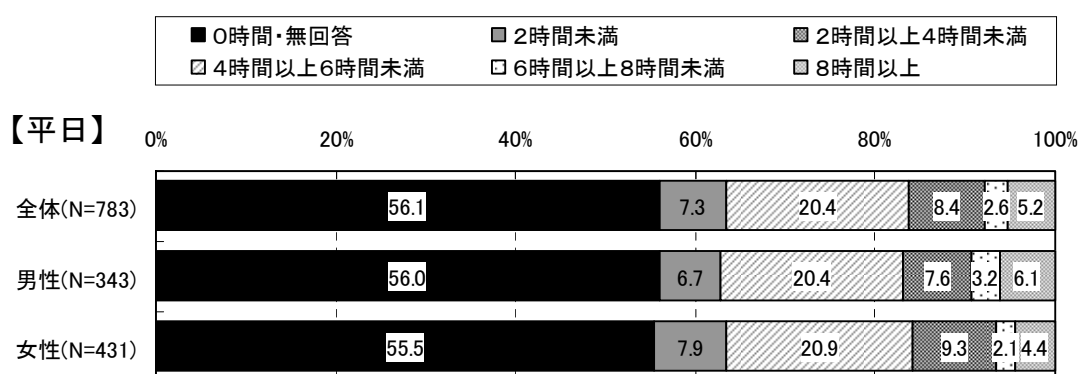
※不明・無回答と0時間を除く

⑤ 余暇

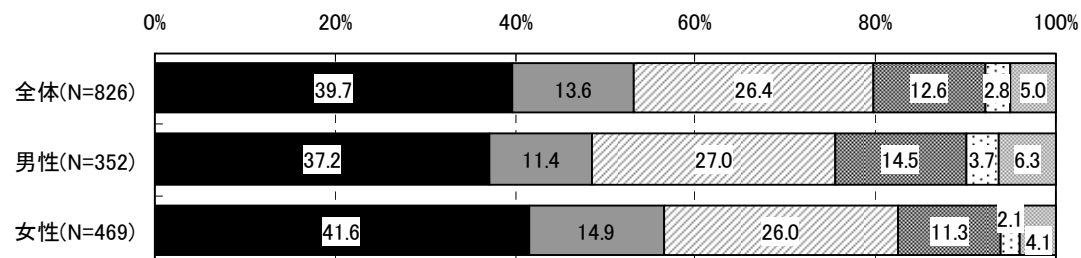
全体で見ると、平日の余暇にかける時間については、「0時間・無回答」が56.1%でもっとも多く、次いで「2時間以上4時間未満」が20.4%となっています。また、休日の余暇にかける時間についても、「0時間・無回答」が55.0%でもっとも多くなっています。

男女別で見ると、男性が平日の余暇にかける時間については、「0時間・無回答」の人が56.0%でもっとも多く、次いで「2時間以上4時間未満」が20.4%となっています。休日の余暇にかける時間についても、「0時間・無回答」の人が54.2%でもっとも多くなっています。女性が平日の余暇にかける時間については、「0時間・無回答」の人が55.5%でもっとも多く、次いで「2時間以上3時間未満」が20.9%となっています。休日の余暇にかける時間についても、「0時間・無回答」の人が55.0%でもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、平日、休日のいずれも、「0時間・無回答」について、男女での差が小さくなっています。



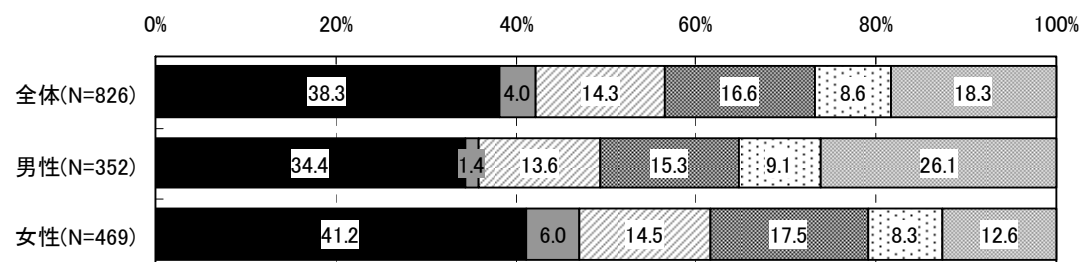
<前回調査との比較>



【休日】



<前回調査との比較>



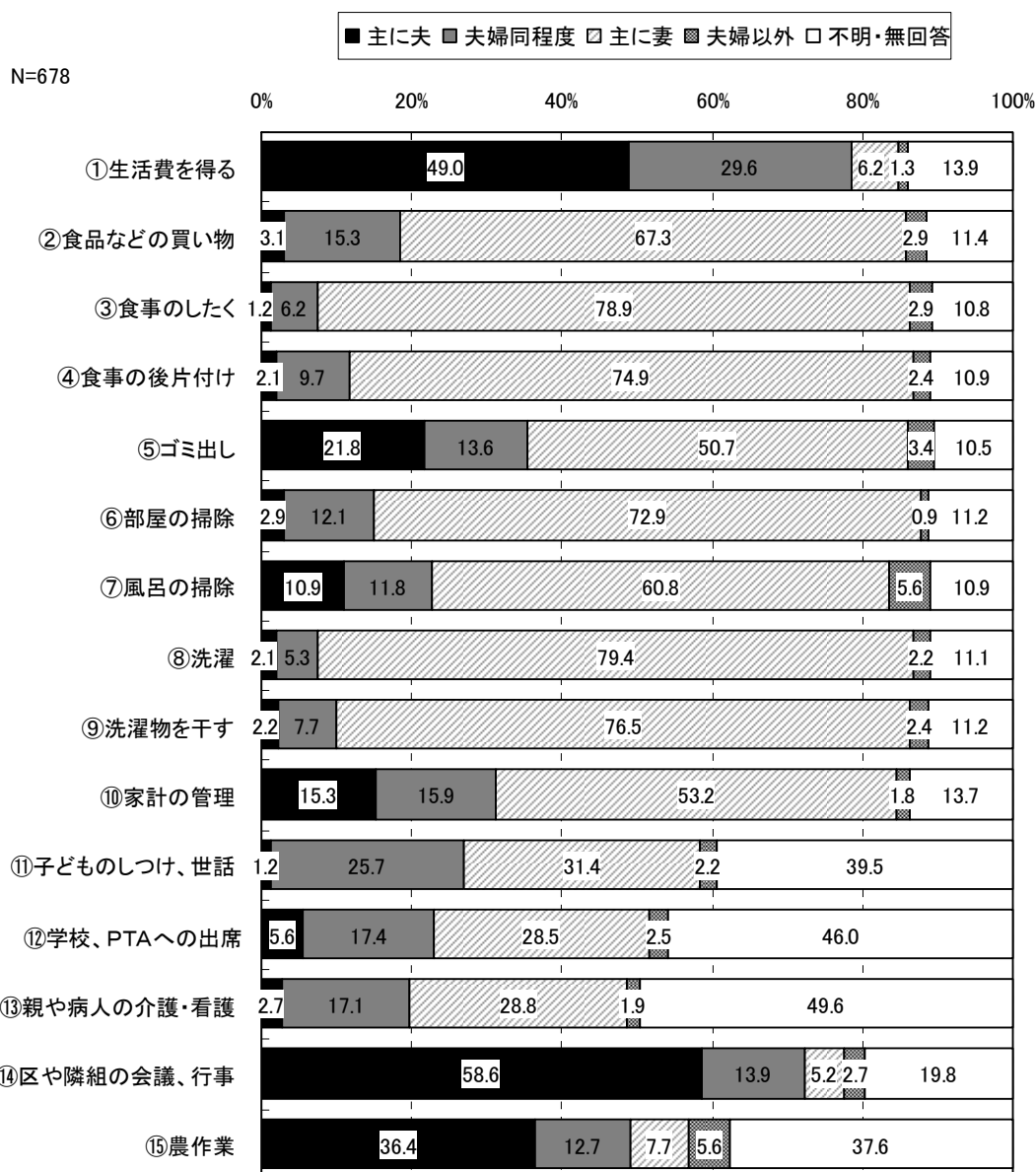
(2) 夫婦の仕事・家事分担(SA)

(結婚されている方におたずねします。)

問) あなたのご家庭では、夫婦のどちらが主に次のことをされていますか。それぞれの項目について、あてはまるものに○印をつけてください。

「不明・無回答」を除くと、「主に夫」がもっとも多くなっている仕事は、＜生活費を得る＞が49.0%、＜区や隣組の会議、行事＞が58.6%、＜農作業＞が36.4%となっています。その他の項目については、「主に妻」がもっとも多くなっています。「主に妻」が50%を超えている仕事は、15項目中9項目となっており、特に＜食事のしたく＞が78.9%、＜洗濯＞が79.4%、＜洗濯物を干す＞が76.5%で75%を超えて多くなっています。

「夫婦同程度」が比較的多くなっている仕事は、＜生活費を得る＞が29.6%、＜子どものしつけ、世話＞が25.7%、＜学校、PTAへの出席＞が17.4%、＜親や病人の介護・看護＞が17.1%となっています。

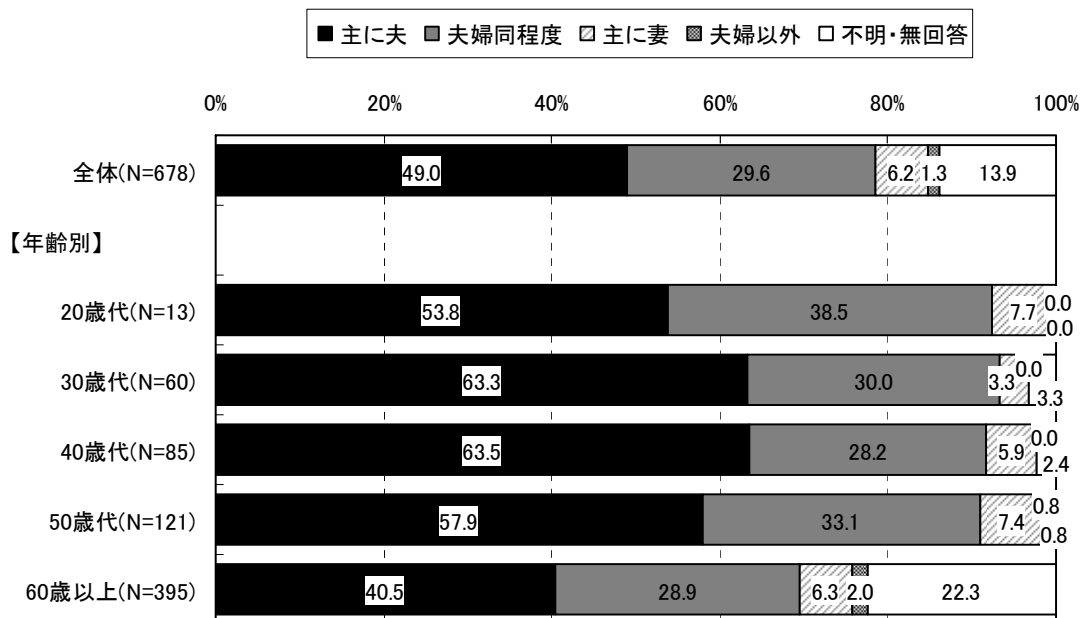


【項目別】

① 生活費を得る

全体で見ると、「主に夫」が49.0%でもっとも多くなっています。

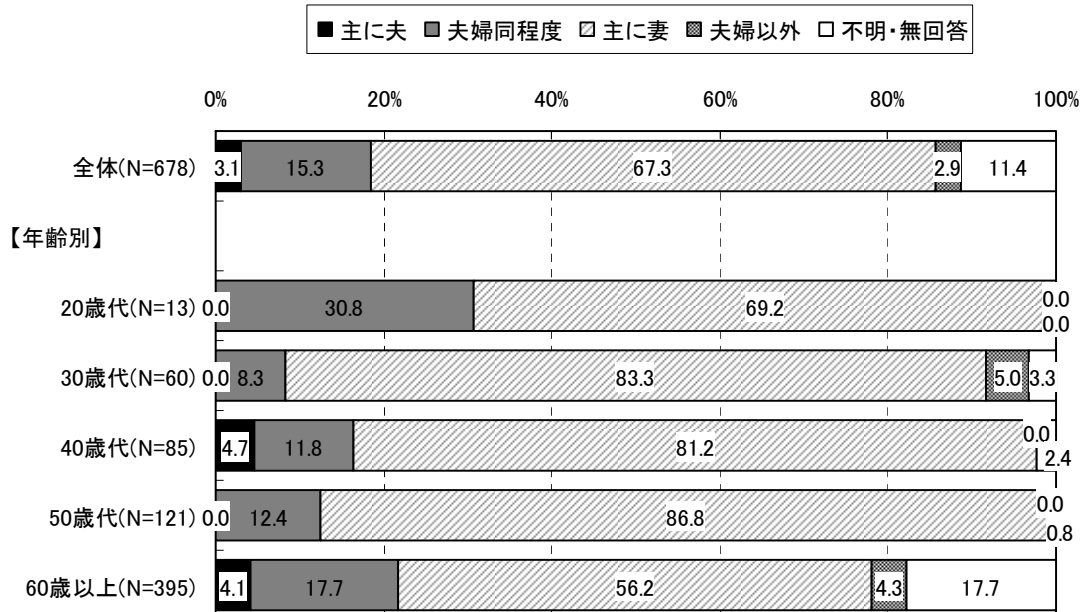
年齢別で見ると、全ての年齢で「主に夫」がもっとも多くなっており、30歳代と40歳代では60%を超えています。



② 食品などの買い物

全体で見ると、「主に妻」が67.3%でもっとも多くなっています。

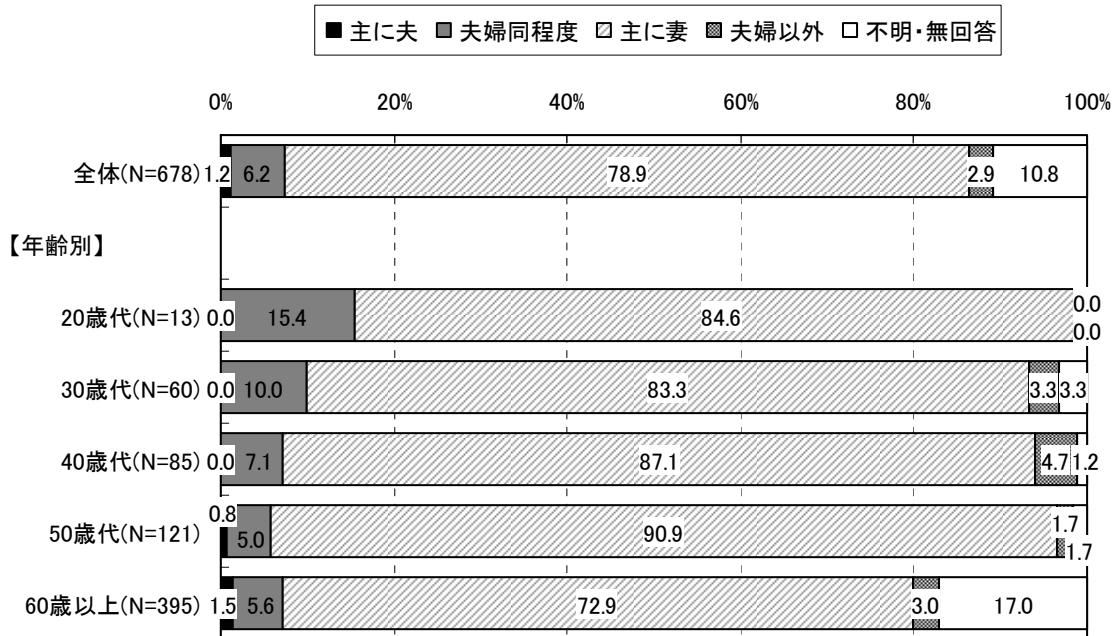
年齢別で見ると、全ての年齢で「主に妻」がもっとも多くなっており、30歳代から50歳代では80%を超えています。また、「夫婦同程度」については20代で30.8%と、他の年齢と比べてもっとも多くなっています。



③ 食事のしたく

全体で見ると、「主に妻」が78.9%でもっとも多くなっています。

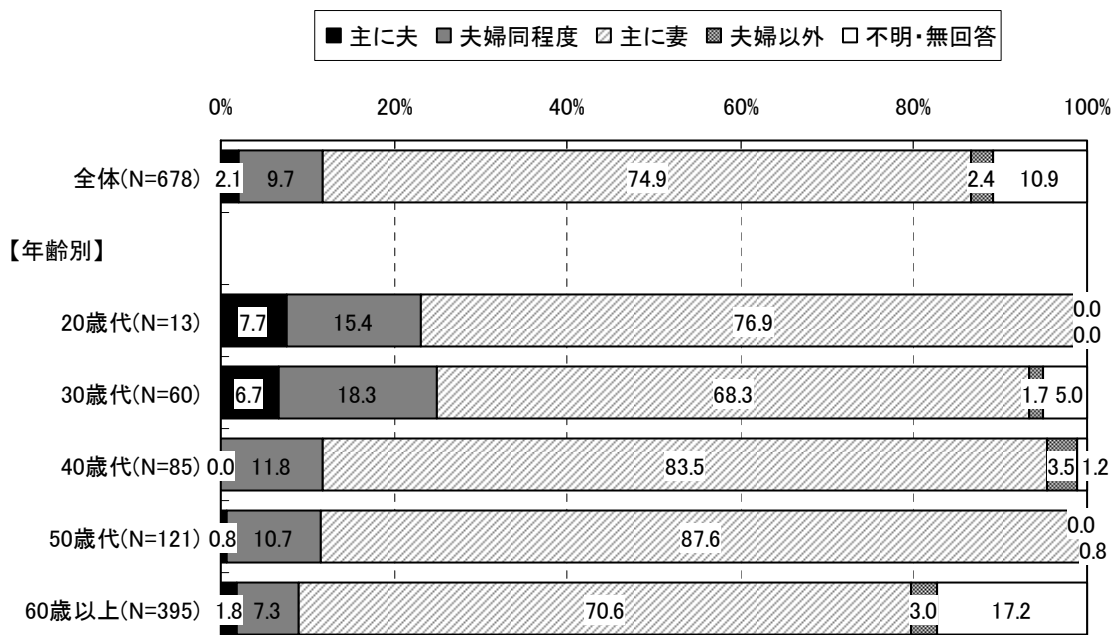
年齢別で見ると、全ての年齢で「主に妻」がもっとも多くなっており、20歳代から50歳代では80%を超えています。



④ 食事の後片付け

全体で見ると、「主に妻」が74.9%でもっとも多くなっています。

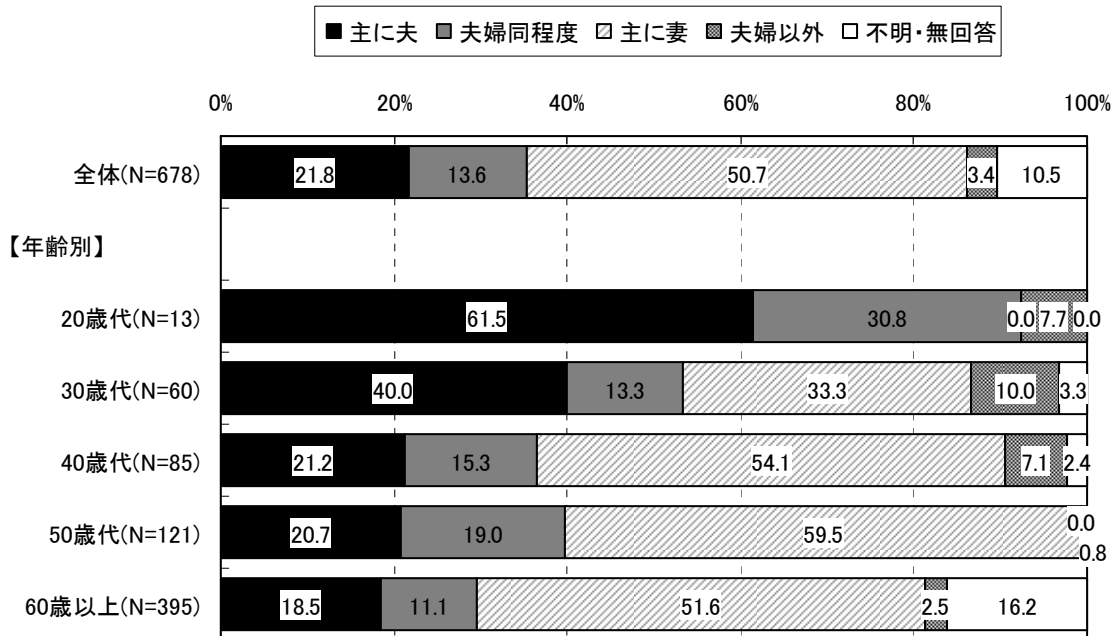
年齢別で見ると、全ての年齢で「主に妻」がもっとも多くなっており、40歳代と50歳代では80%を超えています。



⑤ ゴミ出し

全体で見ると、「主に妻」が50.7%でもっとも多くなっています。

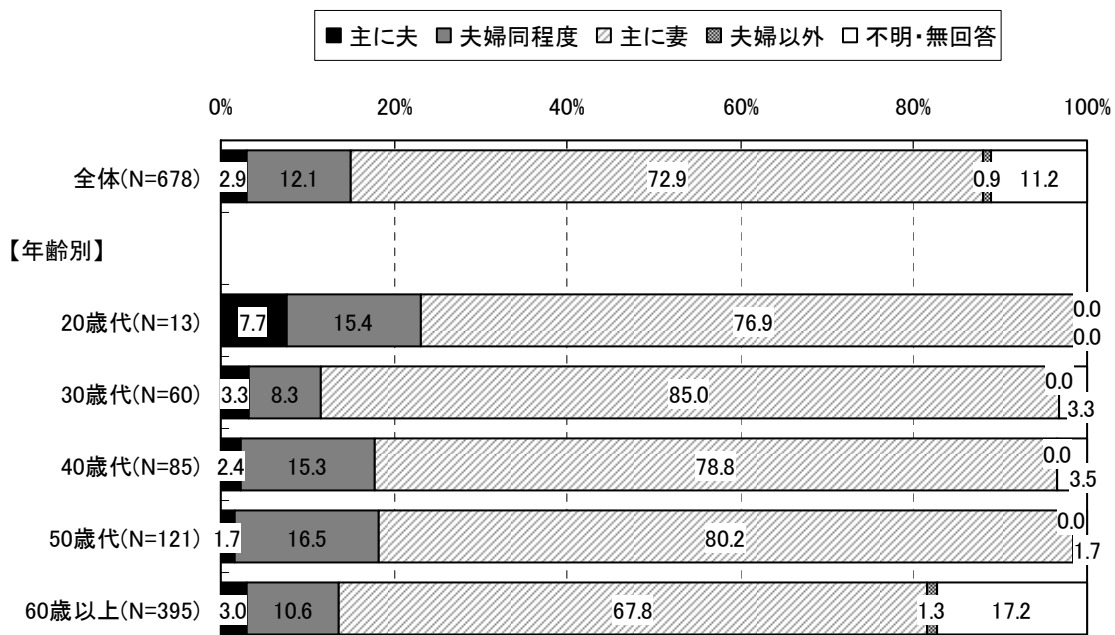
年齢別で見ると、40歳代から60歳以上では「主に妻」が50%を超えてもっとも多くなっていますが、20歳代と30歳代では「主に夫」がもっとも多くなっています。



⑥ 部屋の掃除

全体で見ると、「主に妻」が72.9%でもっとも多くなっています。

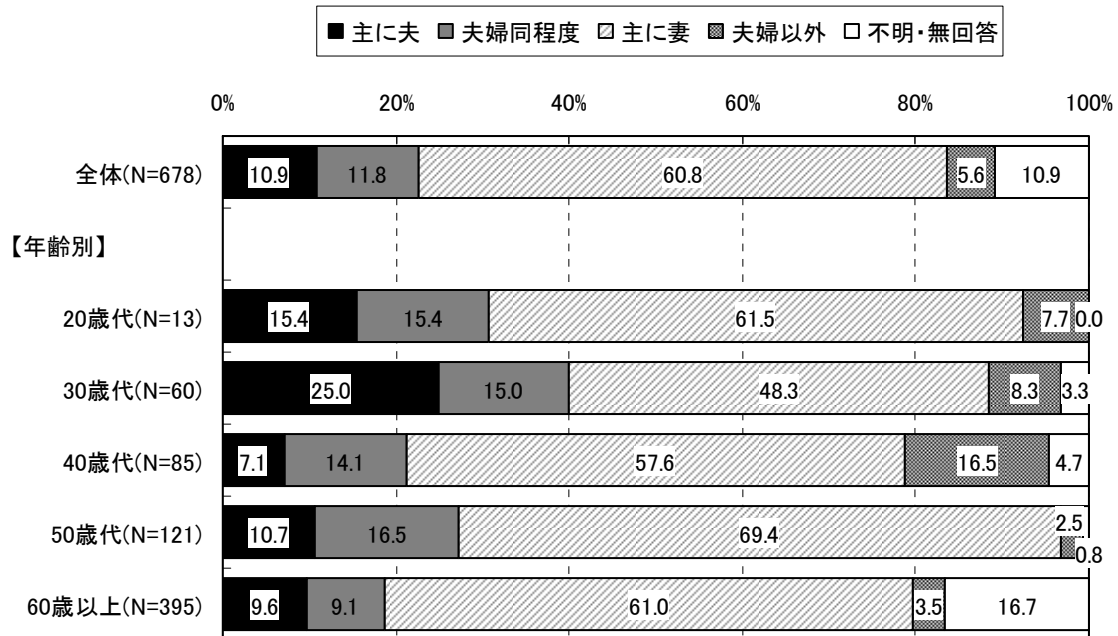
年齢別で見ると、全ての年齢で「主に妻」がもっとも多くなっており、30歳代と50歳代では80%を超えています。



⑦ 風呂の掃除

全体で見ると、「主に妻」が60.8%でもっとも多くなっています。

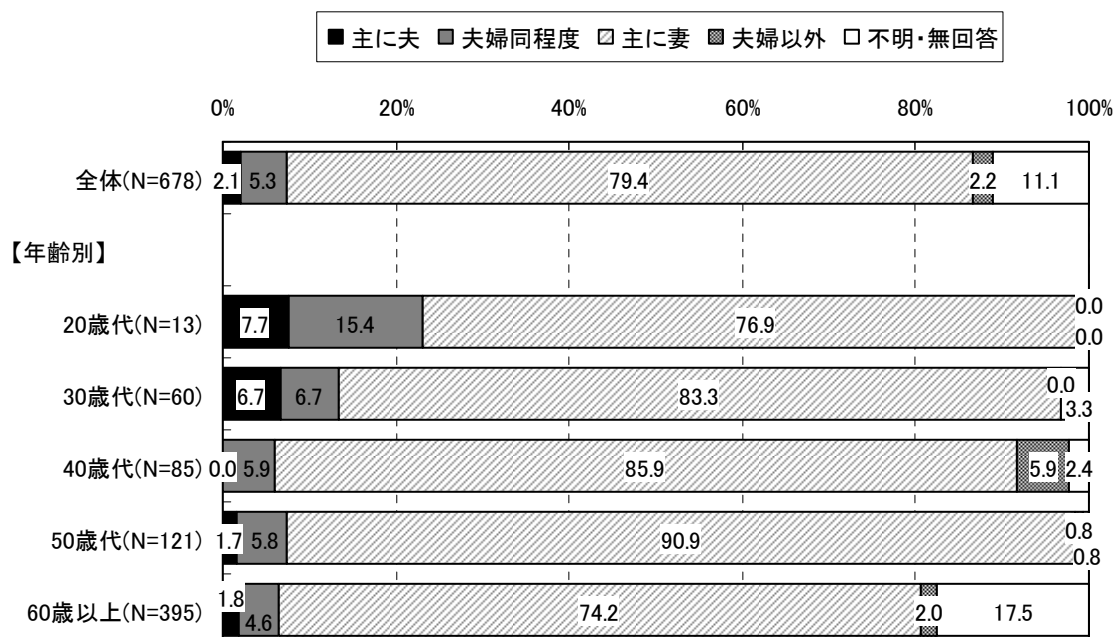
年齢別で見ると、全ての年齢で「主に妻」がもっとも多くなっており、20歳代、50歳代、60歳以上では60%を超えています。30歳代では、「主に夫」が25.0%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。



⑧ 洗濯

全体で見ると、「主に妻」が79.4%でもっとも多くなっています。

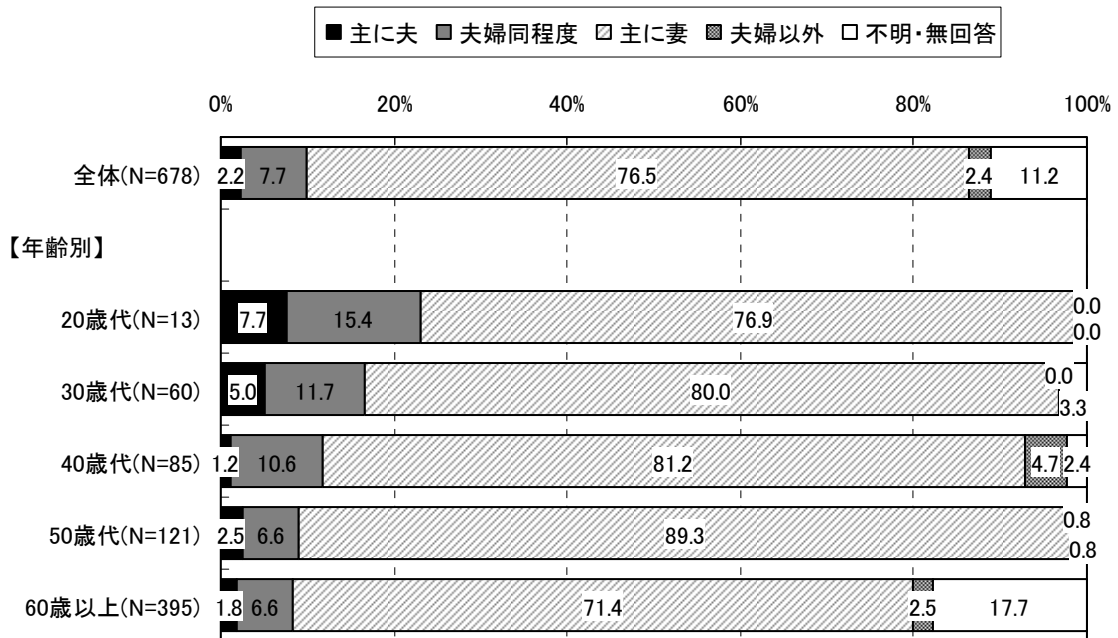
年齢別で見ると、全ての年齢で「主に妻」がもっとも多くなっており、50歳代では90%を超えています。



⑨ 洗濯物を干す

全体で見ると、「主に妻」が76.5%でもっとも多くなっています。

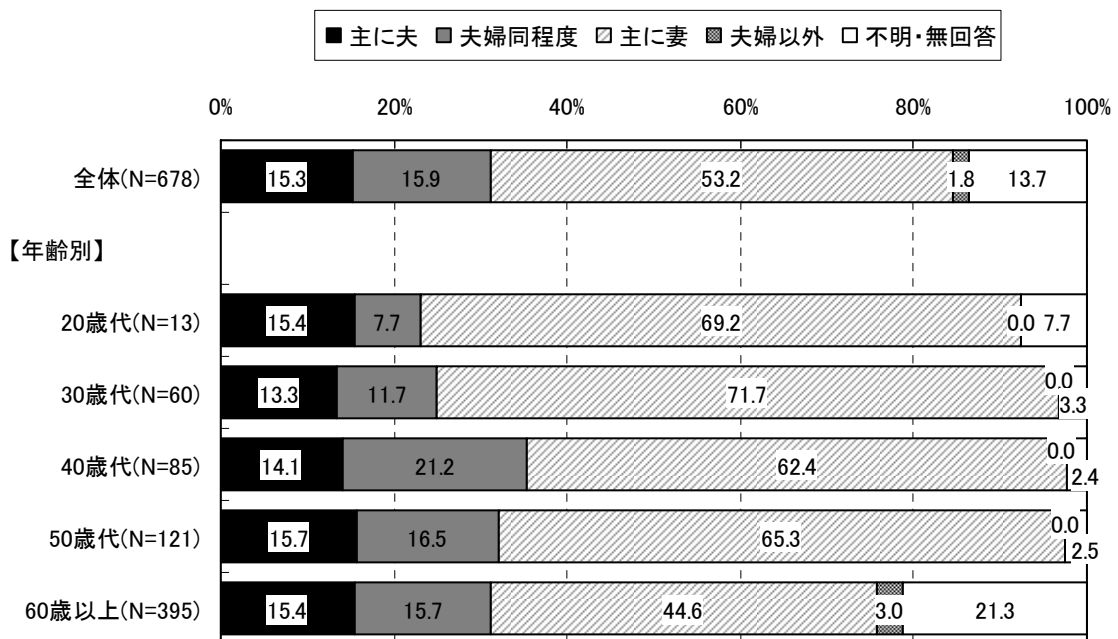
年齢別で見ると、全ての年齢で「主に妻」がもっとも多くなっており、30歳代から50歳代では80%を超えています。



⑩ 家計の管理

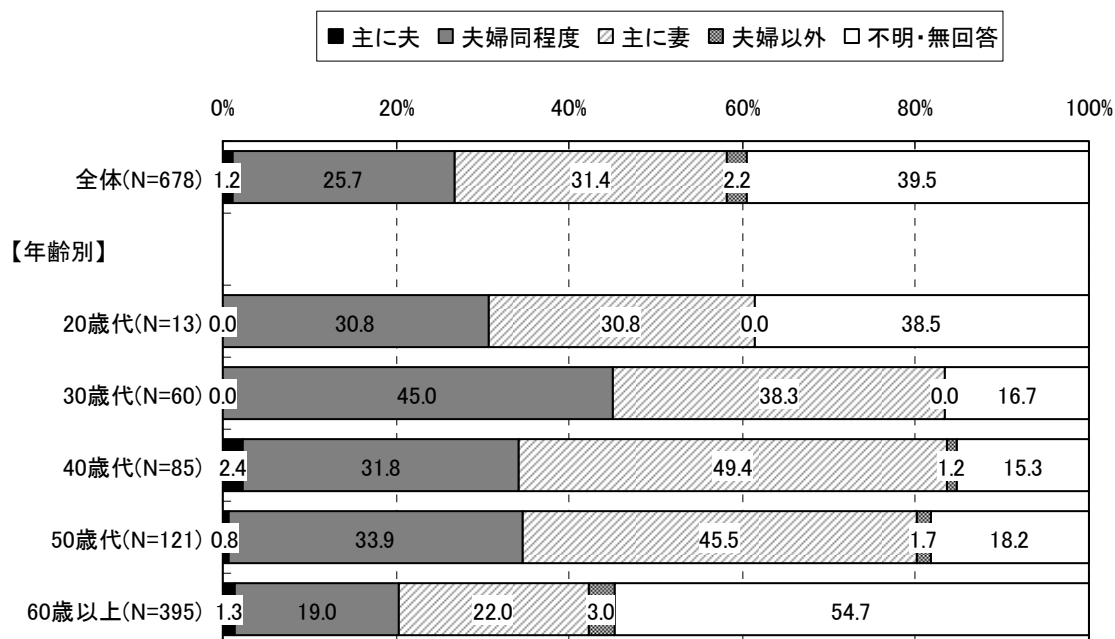
全体で見ると、「主に妻」が53.2%でもっとも多くなっています。

年齢別で見ると、全ての年齢で「主に妻」がもっとも多くなっており、30歳代では70%を超えています。



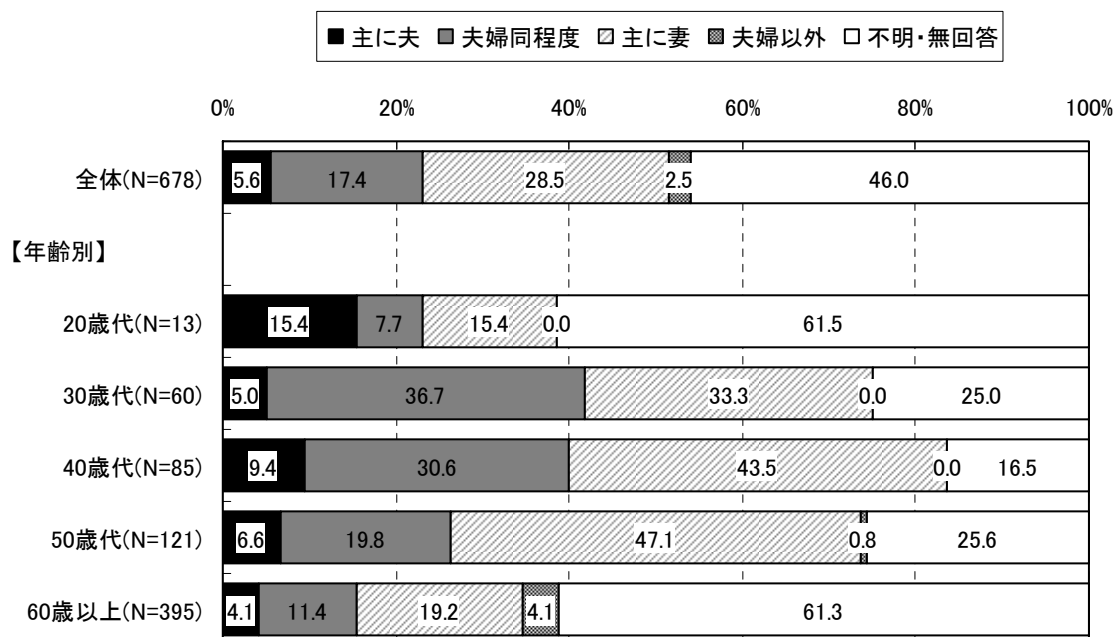
⑪ 子どものしつけ、世話

全体で見ると、「不明・無回答」を除くと、「主に妻」が31.4%でもっとも多くなっています。
 年齢別で見ると、「不明・無回答」を除くと、20歳代では「夫婦同程度」と「主に妻」がそれぞれ30.8%でもっとも多く、30歳代では「夫婦同程度」が45.0%でもっとも多くなっています。



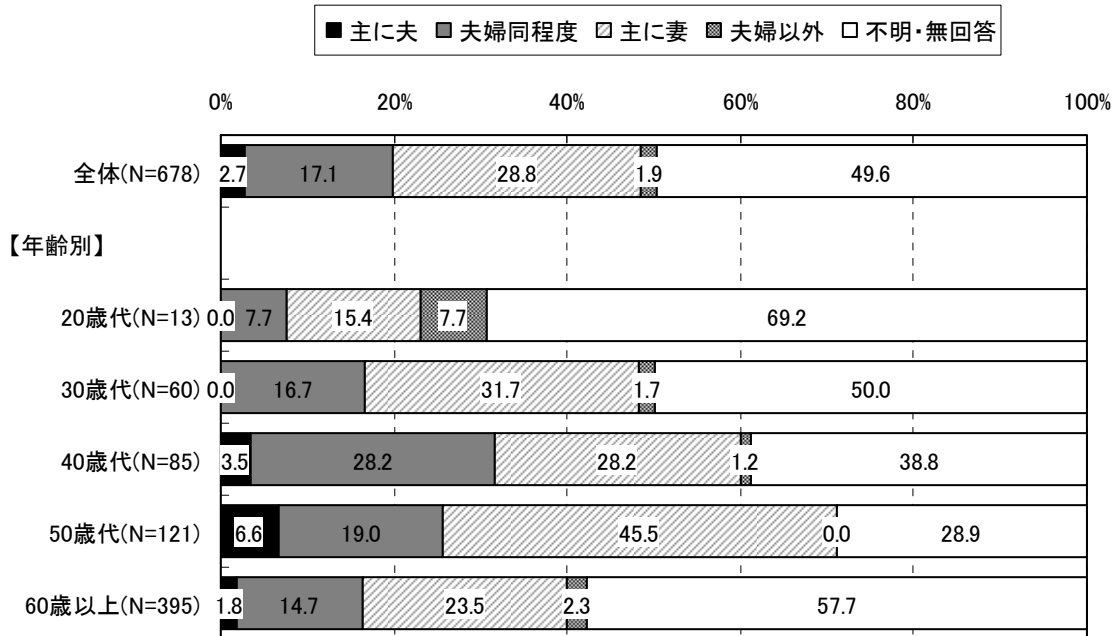
⑫ 学校、PTA への出席

全体で見ると、「不明・無回答」を除くと、「主に妻」が28.5%でもっとも多くなっています。
 年齢別で見ると、「不明・無回答」を除くと、20歳代は「主に夫」と「主に妻」がそれぞれ15.4%でもっとも多く、30歳代では「夫婦同程度」が36.7%でもっとも多くなっており、40歳代以降では「主に妻」がもっとも多くなっています。



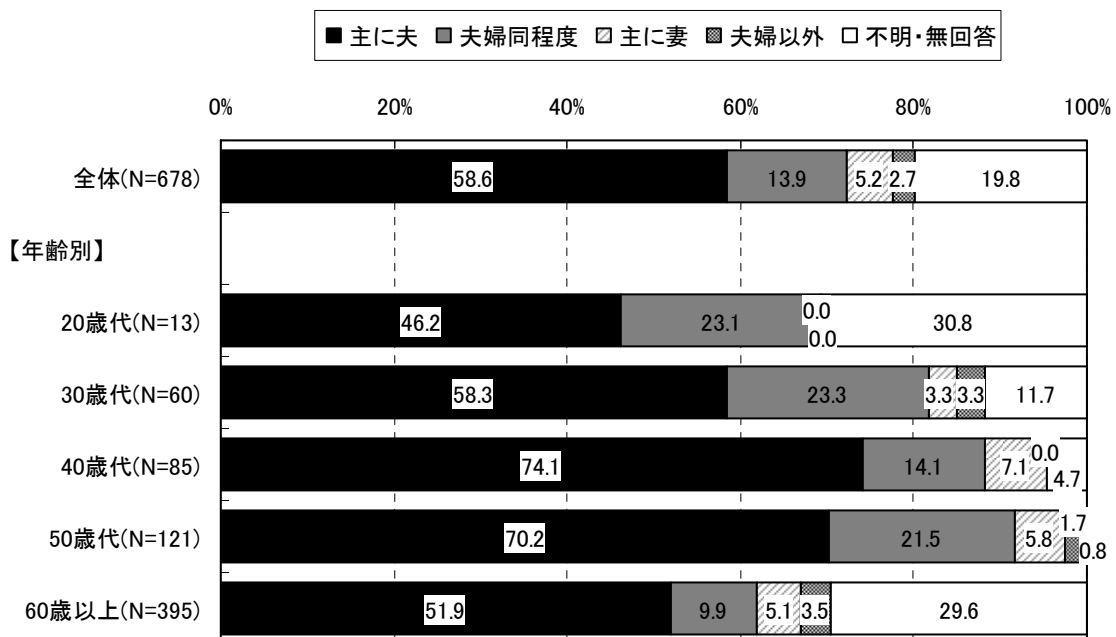
⑬ 親や病人の介護・看護

全体で見ると、「不明・無回答」を除くと、「主に妻」が28.8%でもっとも多くなっています。
 年齢別で見ると、「不明・無回答」を除くと、40歳代では「夫婦同程度」と「主に妻」がそれぞれ28.2%ともっとも多く、他の年齢では「主に妻」がもっとも多くなっています。



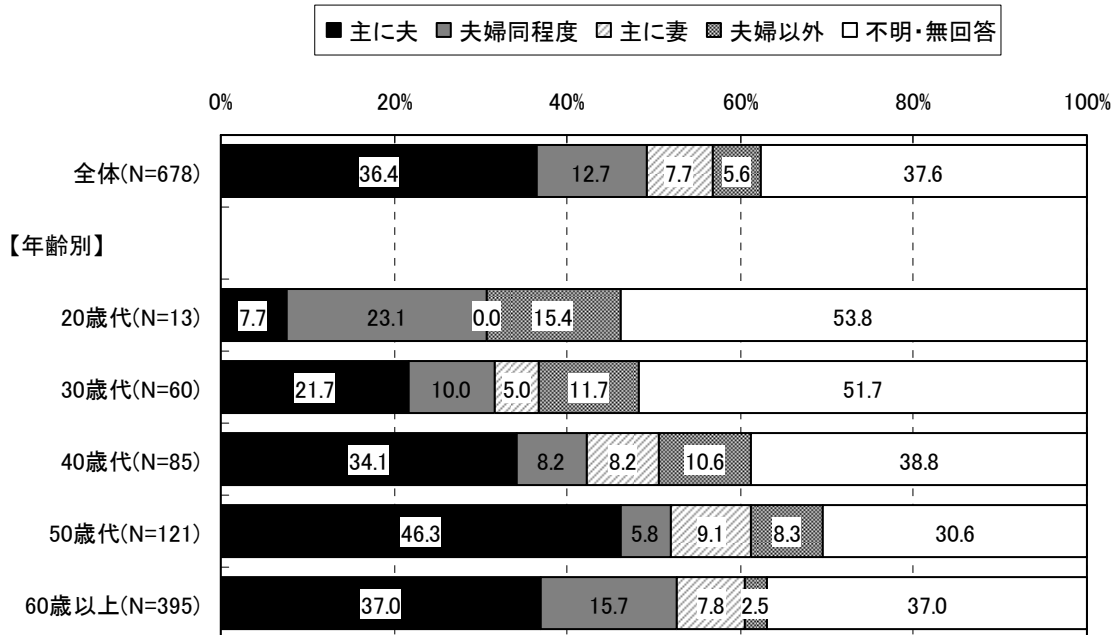
⑭ 区や隣組の会議、行事

全体で見ると、「主に夫」が58.6%でもっとも多くなっています。
 年齢別で見ると、全ての年齢で「主に夫」がもっとも多くなっており、40歳代と50歳代では70%を超えています。



⑮ 農作業

全体で見ると、「不明・無回答」を除くと、「主に夫」が36.4%でもっとも多くなっています。
 年齢別で見ると、「不明・無回答」を除くと、20歳代で「夫婦同程度」が23.1%でもっとも多
 くなっており、他の年齢では「主に夫」がもっとも多くなっています。



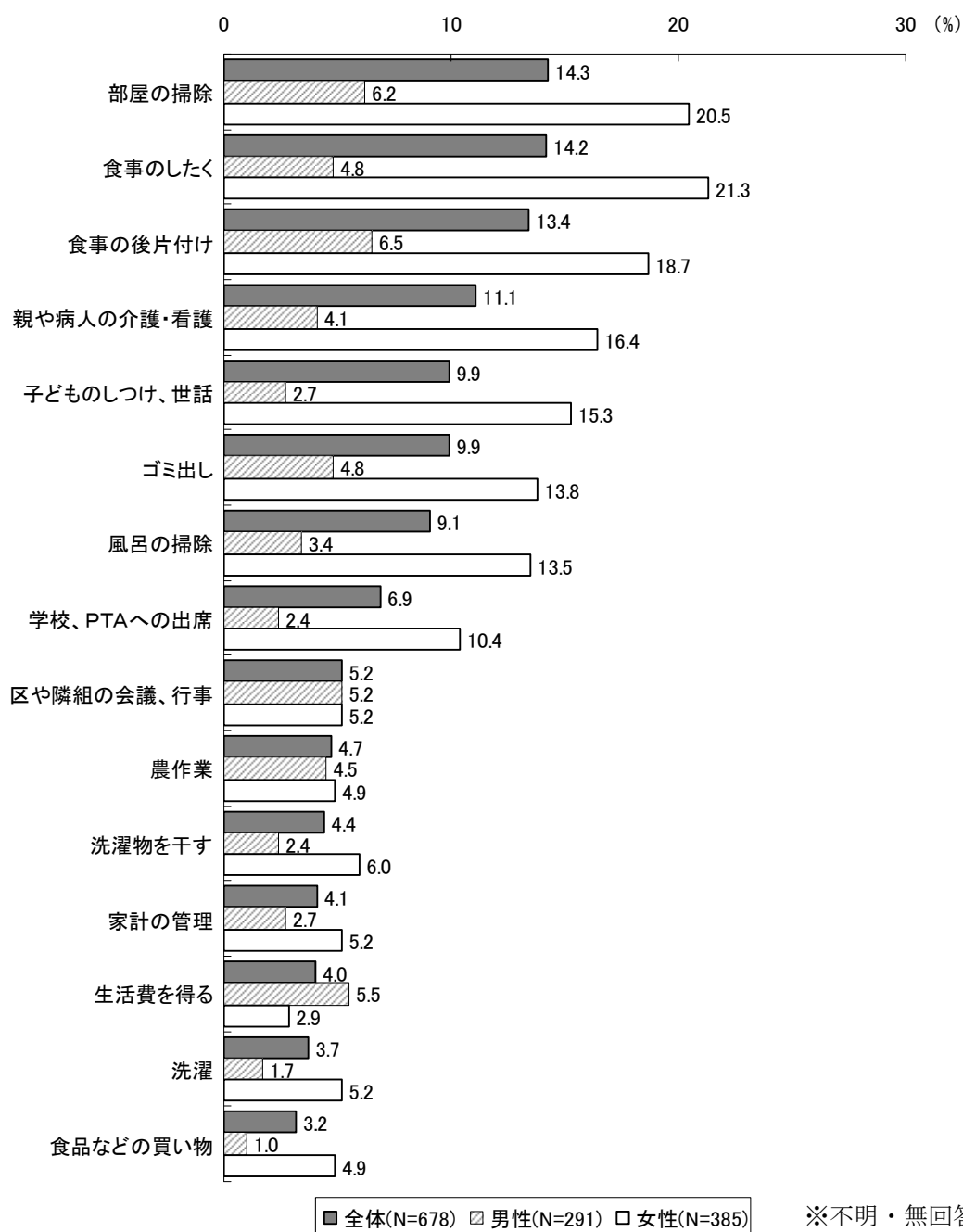
(3) 夫婦の仕事・家事分担への希望(MA)

(結婚されている方におたずねします。)

問) 夫婦の仕事・家事分担について、夫または妻にも協力してほしいと思う項目はどれですか。
あてはまるものすべてを番号でお答えください。

全体でみると、「部屋の掃除」が14.3%でもっとも多くなっています。

男女別でみると、男性では「食事の後片付け」が6.5%でもっとも多く、女性では「食事のしたく」が21.3%でもっとも多くなっています。また、「部屋の掃除」は男性、女性でともに2番目に高い項目となっています。



※不明・無回答を除く

5. 人権について

(1) DVの経験(MA)

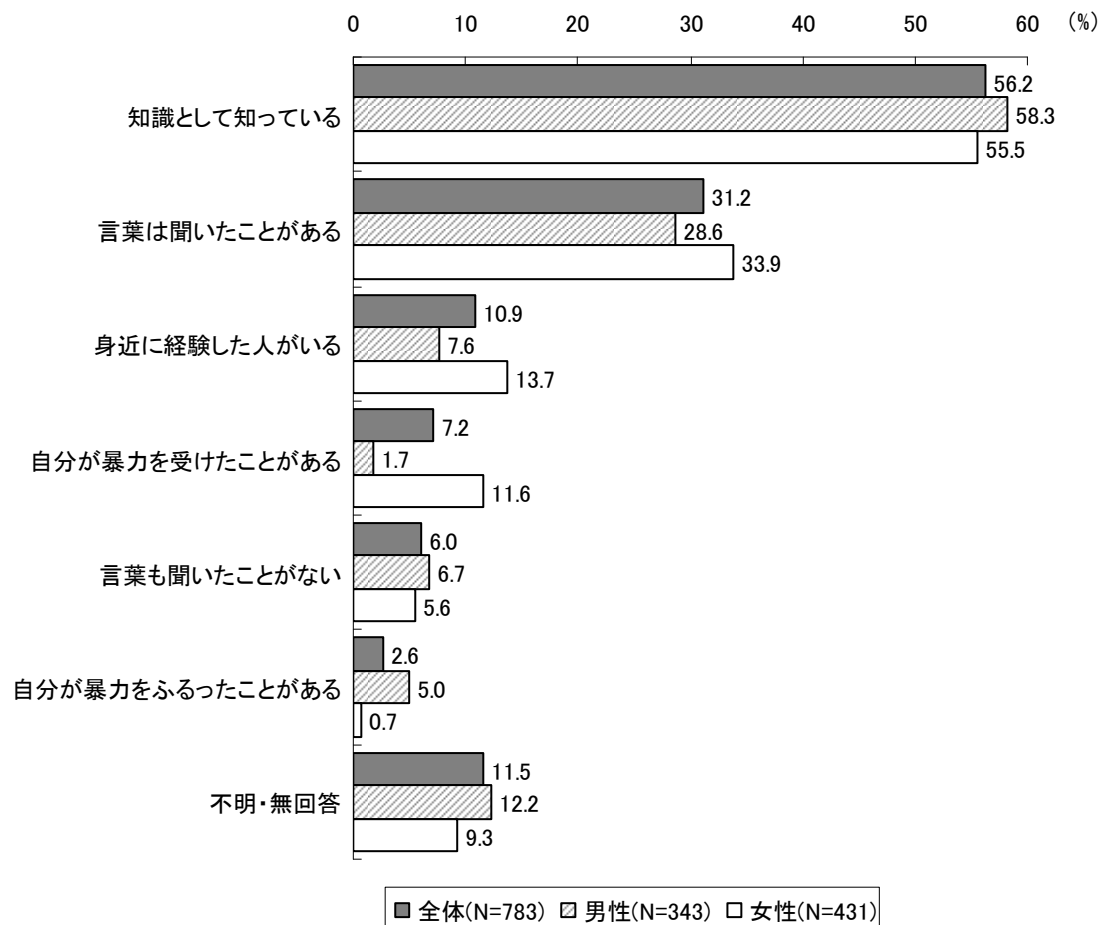
問) あなたは夫婦や恋人からの身体的・心理的な暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))について、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体でみると、「知識として知っている」が56.2%でもっとも多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が31.2%となっています。

男女別でみると、「自分が暴力を受けたことがある」は男性では1.7%、女性では11.6%となっており、「自分が暴力をふるったことがある」は男性では5.0%、女性では0.7%となっています。

年齢別でみると、「自分が暴力を受けたことがある」は30歳代で9.0%と他の年齢と比べてもっとも多く、「自分が暴力をふるったことがある」は50歳代で3.0%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

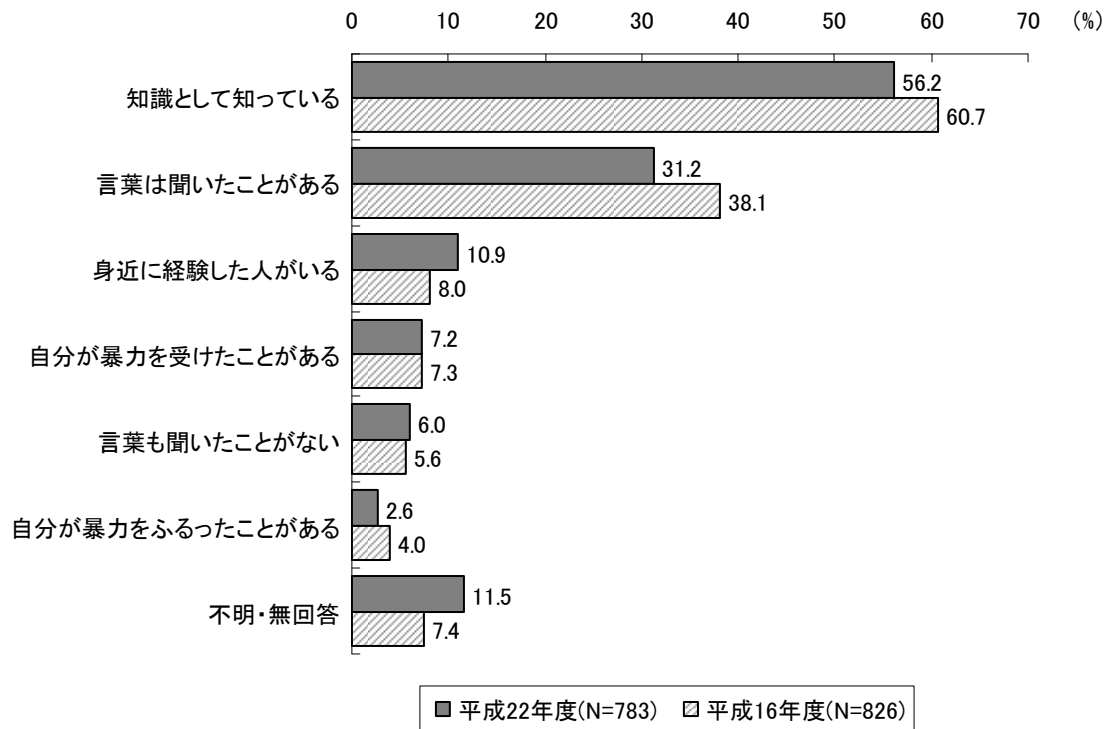
前回調査と比較すると、「言葉は聞いたことがある」については6.9ポイント少なく、「知識として知っている」については4.5ポイント少なくなっています。また、「自分が暴力を受けたことがある」については横ばいとなっており、「身近に経験した人がいる」については若干増加しています。



(%)

	回答者 (人)	自分が暴力を受けたことがある	自分が暴力をふるったことがある	身近に経験した人がいる	知識として知っている	言葉は聞いたことがある	言葉も聞いたことがない	不明・無回答
全体	783	7.2	2.6	10.9	56.2	31.2	6.0	11.5
【年齢別】								
20歳代	43	7.0	0.0	18.6	72.1	20.9	4.7	4.7
30歳代	78	9.0	2.6	17.9	69.2	32.1	2.6	0.0
40歳代	95	7.4	2.1	11.6	66.3	28.4	1.1	6.3
50歳代	134	8.2	3.0	11.2	64.2	30.6	3.7	1.5
60歳以上	422	6.6	2.8	8.8	48.3	33.6	8.8	16.8

<前回調査との比較>

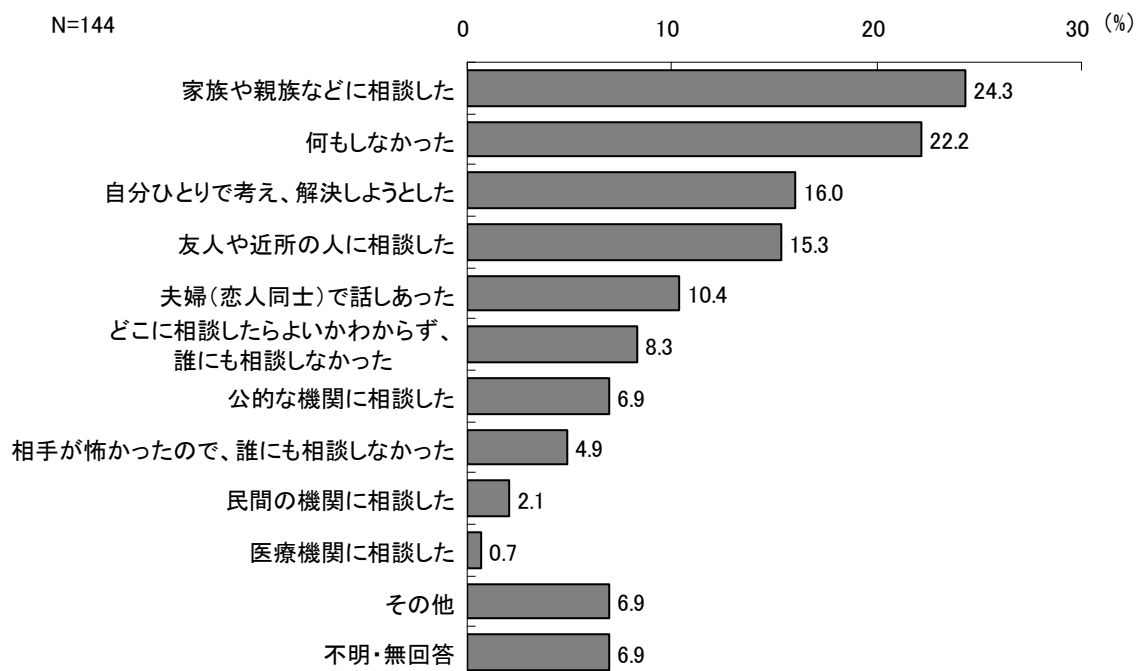


(2) DVへの対処(MA)

(前問で自分が暴力を受けたことがある、ふるったことがある、身近に経験した人がいると答えた方におたずねします。)

問) その時、あなたはどうしましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体的にみると、「家族や親族などに相談した」が 24.3%でもっとも多く、次いで「何もしなかった」が 22.2%となっています。



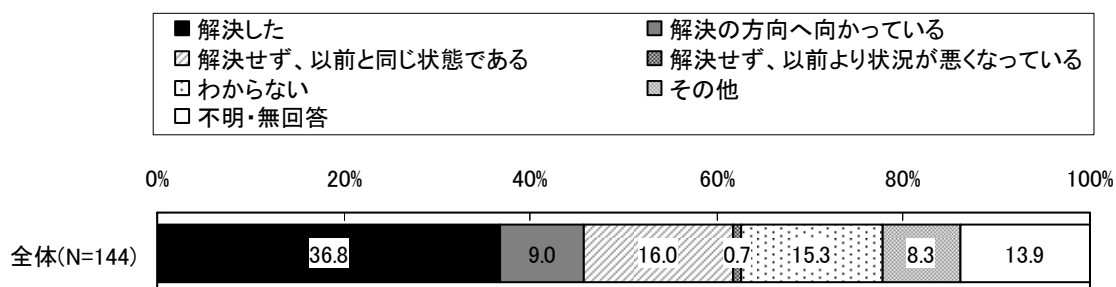
(3) DVの解決状況(SA)

(前問で自分が暴力を受けたことがある、ふるったことがある、身近に経験した人がいると答えた方におたずねします。)

問) その結果、問題は解決しましたか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

「解決した」が 36.8%でもっとも多く、「解決の方向へ向かっている」とあわせると 45.8%となっています。

一方、「解決せず、以前と同じ状態である」は 16.0%、「解決せず、以前より状況が悪くなっている」は 0.7%となっています。

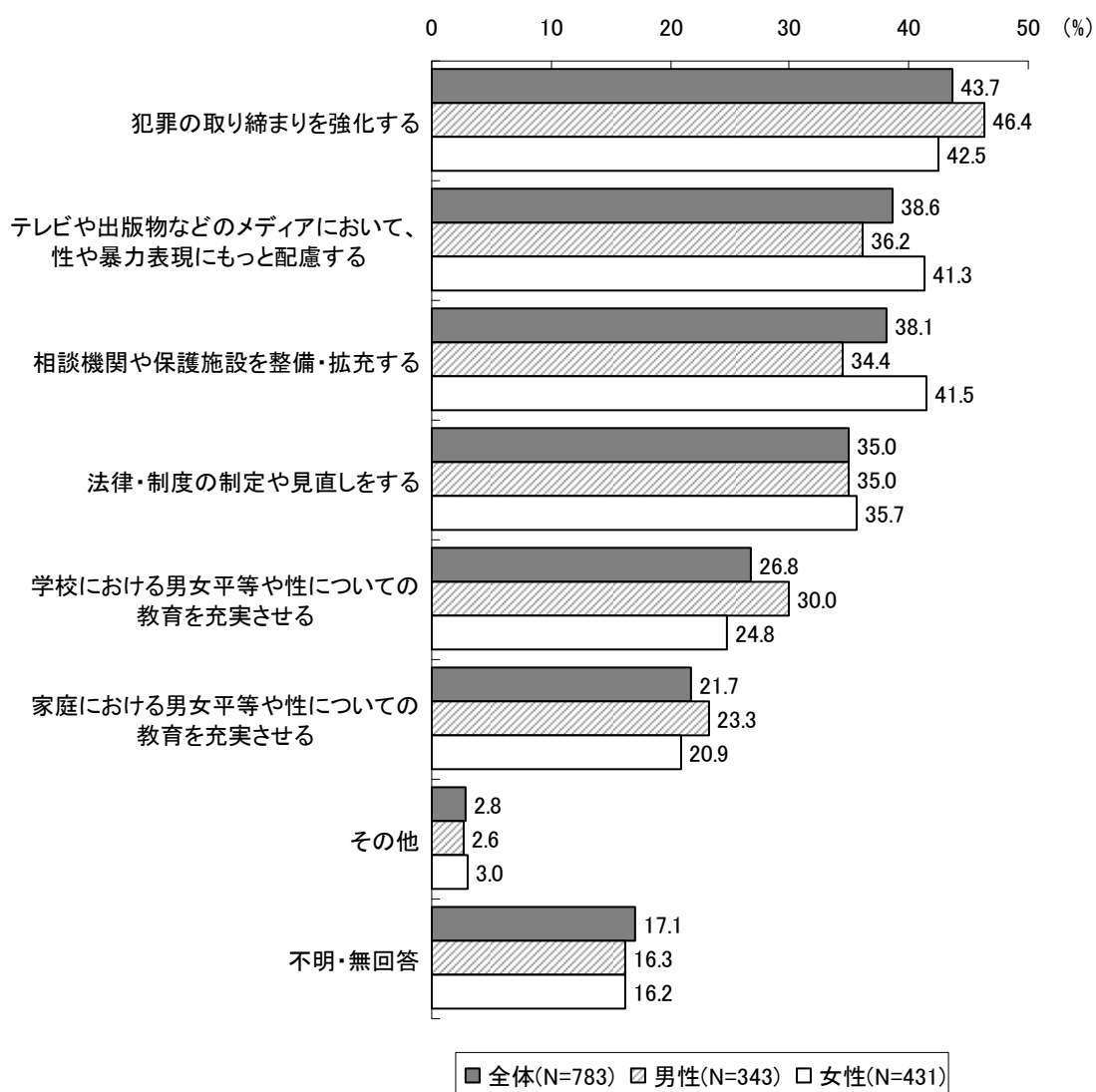


(4) 暴力や性犯罪等から女性の人権を守るために必要なこと (MA)

問) 女性に対する暴力や性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメントなどから人権を守るために何が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体で見ると、「犯罪の取り締まりを強化する」が 43.7%でもっとも多く、次いで「テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する」が 38.6%となっています。

男女別で見ると、「犯罪の取り締まりを強化する」や「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」などでは男性の方が多く、「テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する」や「相談機関や保護施設を整備・拡充する」では女性の方が多くなっています。



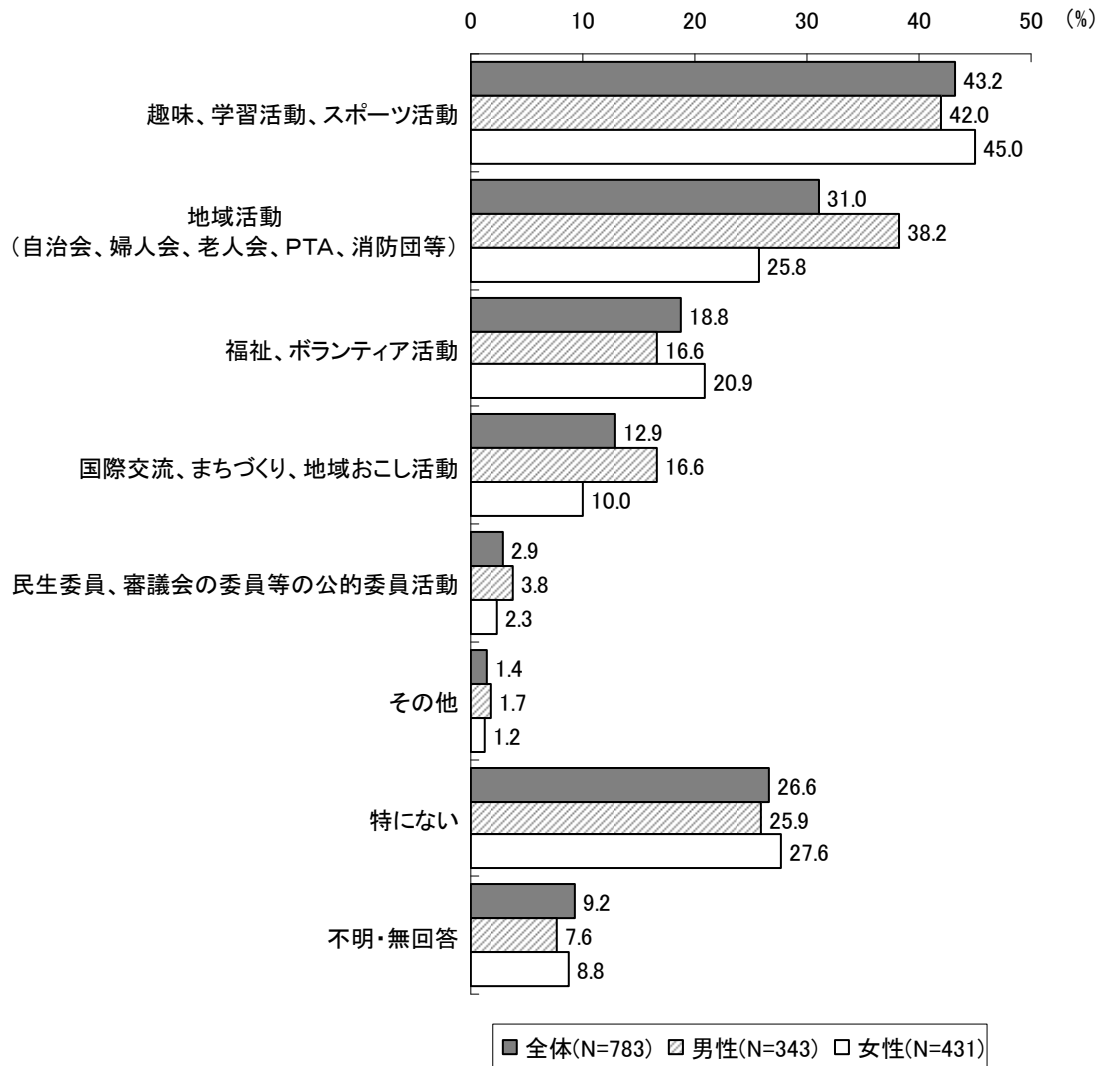
6. 男女共同参画社会について

(1) 社会参加活動の状況や希望(MA)

問) あなたがこの1年間に行った社会活動や、今後行いたい社会活動はどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体で見ると、「趣味、学習活動、スポーツ活動」が43.2%でもっとも多く、次いで「地域活動（自治会、婦人会、老人会、PTA、消防団等）」が31.0%となっています。また、「特にない」についても26.6%となっています。

男女別で見ると、「地域活動（自治会、婦人会、老人会、PTA、消防団等）」や「国際交流、まちづくり、地域おこし活動」では男性の方が多く、「趣味、学習活動、スポーツ活動」や「福祉、ボランティア活動」では女性の方が多くなっています。



(2) まちづくりへの女性意見の反映(SA)

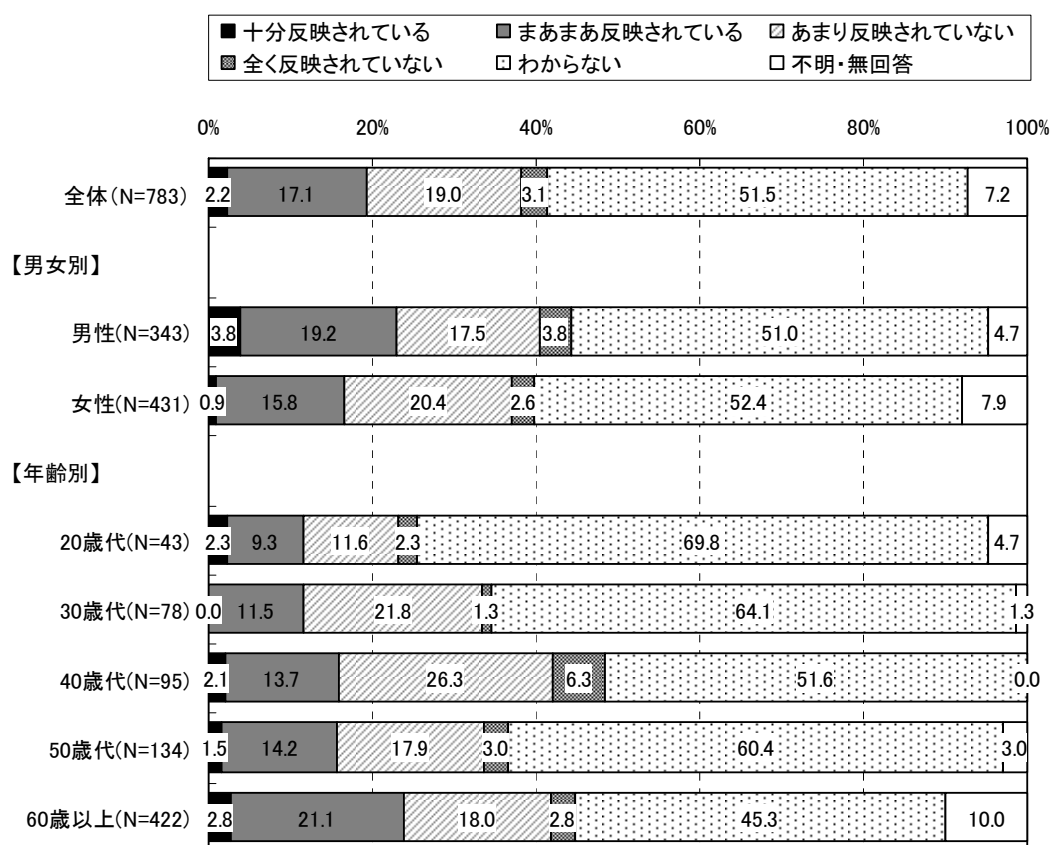
問) 京丹後市のまちづくりや行政には、女性の意見が反映されていると思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体でみると、「わからない」が 51.5%でもっとも多くなっており、次いで「あまり反映されていない」が 19.0%となっています。

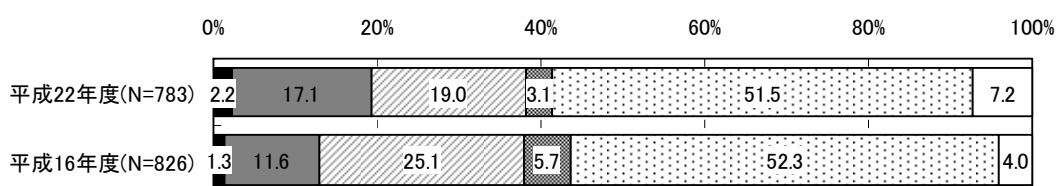
男女別でみると、『反映されている(「十分反映されている」「まあまあ反映されている」の合計)』が、男性では 23.0%であるのに対し、女性では 16.7%と男性に比べて 6.3 ポイント少なくなっています。

年齢別でみると、『反映されている』は年齢があがるほどに多くなる傾向にあり、特に 60 歳以上では 23.9%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。また、『反映されていない(「あまり反映されていない」「全く反映されていない」の合計)』は、40 歳代で 32.6%と他の年齢と比べてもっとも多くなっています。

前回調査と比較すると、『反映されている』については 6.4 ポイント多く、『反映されていない』については 8.7 ポイント少なくなっています。



<前回調査との比較>

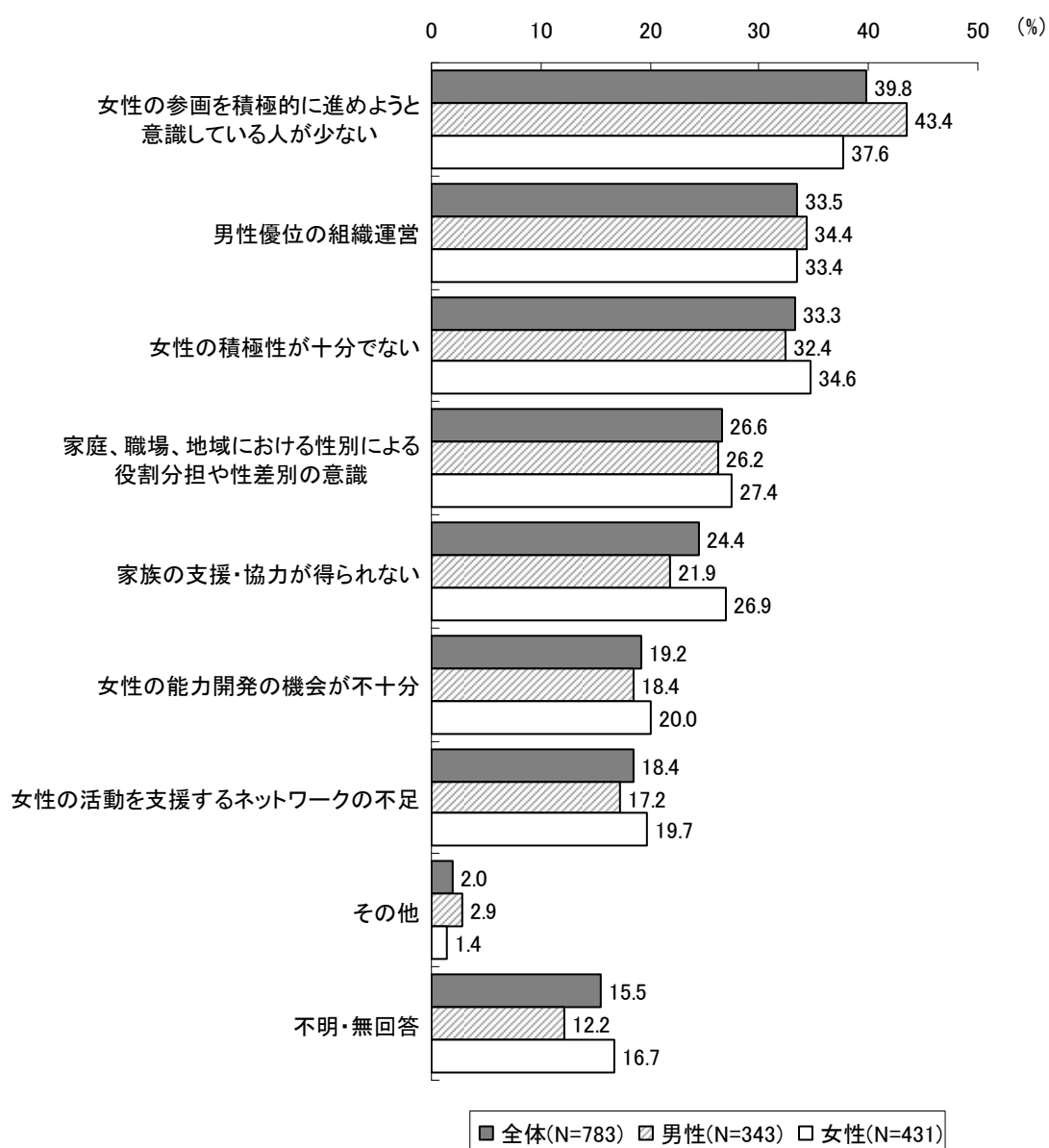


(3) 政策決定の場に女性の参画が少ない理由(MA)

問) 政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体でみると、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が 39.8%でもっとも多く、次いで「男性優位の組織運営」が 33.5%、「女性の積極性が十分でない」が 33.3%となっています。

男女別でみると、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」では女性より男性の方が 5.8 ポイント多く、「家族の支援・協力が得られない」では男性より女性の方が 5.0 ポイント多く、男性と女性で特に差がみられます。



(4) 市の委員会等の委員への女性の参画意向 (SA)

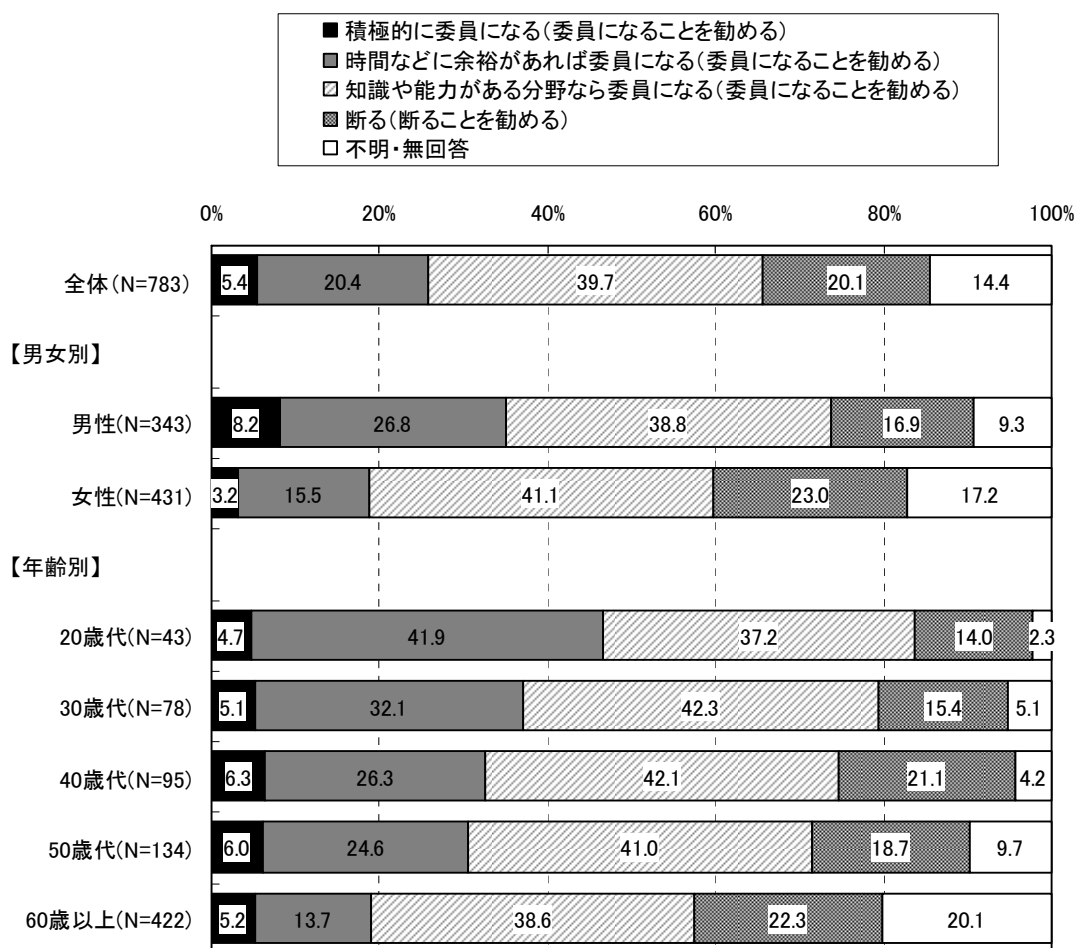
問) もし、あなたが(男性の場合は、妻など身近な人)が京丹後市からいろんな委員会等の委員になってほしいと依頼されたらどうしますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体でみると、「知識や能力がある分野なら委員になる(委員になることを勧める)」が39.7%でもっとも多く、次いで「時間などに余裕があれば委員になる(委員になることを勧める)」が20.4%となっています。

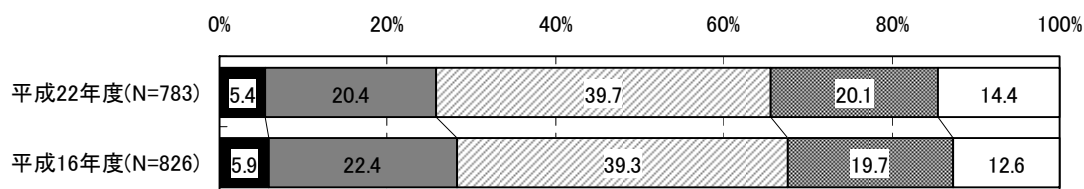
男女別でみると、男女ともに「知識や能力がある分野なら委員になる(委員になることを勧める)」が男性では38.8%、女性では41.1%でもっとも多く、次いで男性では「時間などに余裕があれば委員になることを勧める」が26.8%、女性では「断る」が23.0%となっています。

年齢別でみると、年齢が下がるにつれて「時間などに余裕があれば委員になる(委員になることを勧める)」が多くなっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。



<前回調査との比較>

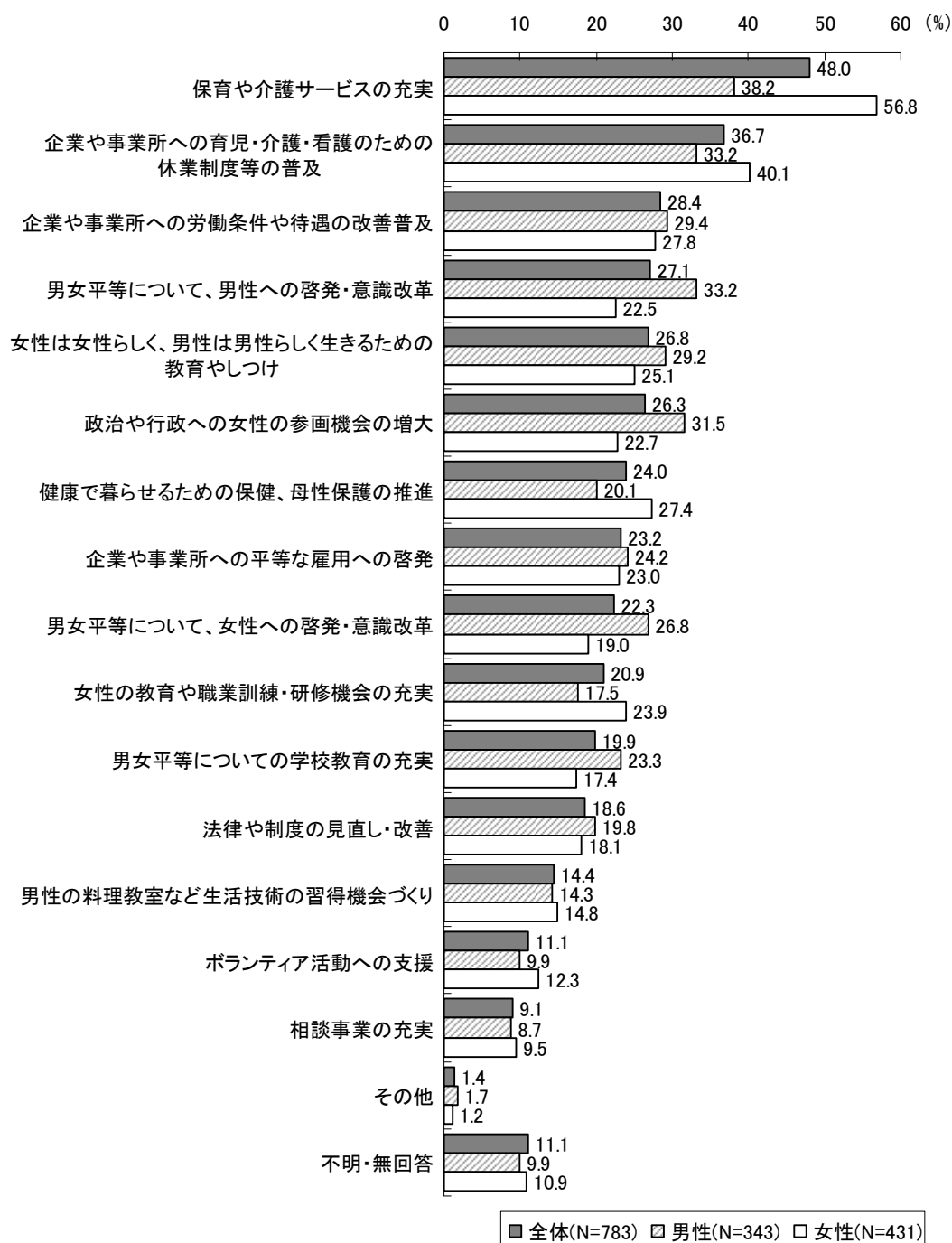


(5) 男女共同参画社会の実現に必要なこと(MA)

問) 男女共同参画を推進していくために、京丹後市としてどのようなことが必要だと思いますか。必要だと思うことを5つまで選んでください。

全体でみると、「保育や介護サービスの充実」が48.0%でもっとも多く、次いで「企業や事業所への育児・介護・看護のための休業制度等の普及」が36.7%となっています。

男女別でみると、「男女平等について、男性への啓発・意識改革」や「政治や行政への女性の参画機会の増大」では男性の方が多く、「保育や介護サービスの充実」や「健康で暮らせるための保健、母性保護の推進」では女性の方が多く、男性と女性で特に差がみられます。



7. その他回答・自由記述

<男女共同参画に関する意見>

意見	件数
●現在妊娠中で、妊婦健診では手厚い保護を受けており、大変感謝しております。こういう制度があるだけでも、積極的になれるし、また世の中のために、何かしたいとポジティブになれる。	1
●単に夫が家事の手助けをするということではなく、お互いの立場を理解しながら支え合っていくことが大切だと思います。	1
●今さらかも知れませんが、男女共同参画の始まったきっかけ、なりゆきが知りたいです。	1
●人それぞれの考え方があると思うので、男だからとか女のくせに・・・など個人の考えを押し付けるのは・・・。男女平等＝「国民みな平等」といっている以上、男女共同参画という事自体に問題あり。	1
●たまたま手元に届いたので一通り目を通しましたが、実際女性問題、不平等さについてさしあたって考えていなかったの、的外れな回答になっているかもしれません。母親が家庭にいる方が自然なような古い意識がありますが、有能な女性の方は社会には必要で、政治、行政にも関わっていただきたいと思っています。家族の協力が不可欠だと思います。	1
●なぜ女性を社会的に家庭的に保護しなければならないのか？女性といえども自分で考え行動する力があります。行政が被害者的視野で見すぎではありませんか。このアンケートには公平、平均的性格が不足している。	1
●あまり男女平等というと、女性の方が結婚しない人ができ、男性の方が結婚できない人が多くでてくるのではないかと心配。	1
●ジェンダーフリー、過激な性教育に向わないようお願いしたい。又、夫婦別姓によって家族を壊していくようなことにならないようにしてもらいたい。	1
●男女共参といえども、女は女、男は男のそれなりの共通の生き方があると思います。	1
●都合のいい男女平等ではよくないと思う。持ち場（女は女としての）をしっかりと上での平等でないと。今の世の中なんか変だと思います。男と女は根本的に同じではないと思います。	1
●女性も男性も、家庭生活を充実させることができる環境であれば、社会貢献していけるはずなので。ただ、女性の社会参加ばかり推奨しても、家庭がますます崩壊するばかりだと思う。	1

<p>●生活をしていく為の事柄（仕事・家事）については、それぞれの役割があつて良いと思う。管理職等、女性が望むのであればそれを聞いてあげられる体制は大事だと思う。男性も女性も暴力はいけない。今の現状では簡単に離婚して母子手当等制度もあるが、相当な理由のないのに離婚したりするので、そんな人たちに税金を使われたくない。小・中・高で道徳の教育の時間を作ったらよいと思う。人と接するのに道徳が大事だと思う。男と女は違う生き物だから人として接するには平等でいいが、役割的なことと言えば、平等ではやっていけないと思う。お互いが違う立場で認め合つてあげられたらいいのではないだろうか。</p>	1
<p>●女性がこれからも年齢等に関係なく社会進出しやすい環境整備を整えるべき。再就職が厳しいので景気回復や就職先が増えるようにしてほしい。働き方もシェアリング方式がとれる働き方の導入もしてほしい。</p>	1
<p>●男女平等とは一体何なのか。私は人間はすべて平等と考えています。男のできること、女のできること、それぞれの特性で動くべきと思う。まず人格と人権の平等、大切さを教育すべき。男や女という前に、人間としてお互いを大切にしたいと思う。</p>	1
<p>●地域性なのか男性優位の考え方で話をされる方が多いと思う。特に60代の団塊世代。家事も親の介護も嫁がすべきと他人に頼りにされるほうが多くて、何もしない男性に腹がたつ。</p>	1
<p>●これまで性差別を受けていると感じることなく生きてこられたことを幸せだったと思う。管理的な仕事や大きな方針決定は男性の方が向いている人が多いし、ルーティン業務をこなす仕事は女性の方が向いている人が多いので、無理に女性を管理職にする必要はないが、意欲のある女性の努力が報われる社会になってほしいと思う。</p>	1
<p>●男の人は女の方が自分よりも仕事ができたりするとよく思わない人多すぎる。知らない所ばかりに意識がいつて、高いプライドが育成を邪魔している環境では何のアンケートを行つても意味がないと思う。</p>	1
<p>●男女平等は難しいと思う。平等であればセクシャルハラスメントといった問題がないと思う。確かに度が過ぎるとダメだと思うが、ちょっとしたことでセクハラをなんだかんだといっているのがおかしいと思う。</p>	1
<p>●地域（区）総会など、意見が反映される場へは、男女問わず出席できる意識改革が必要。</p>	1
<p>●昔より、炊事洗濯、掃除は女性と言われてきたのでやらなければならない。時間がないことが一番ではないでしょうか。</p>	1
<p>●丹後は保守的な土地柄であり、男女共同参画という言葉もぴんときない。「何をいつているのか」という考えの人が多思うように思う。若者も少ないし、子どももどんどん都会に流出し、ますます年配者ばかりの保守的な人ばかりになってしまい、先行きが暗い現状だと思う。</p>	1
<p>●女性問題は男性問題であり、その根本は日本社会全体の差別的な構造による所が大きく、個々の問題のみでの対策や対応では解決できず、真に人が人として尊重される社会や諸施策を形作っていくことが必要だと思う。</p>	1
<p>●男女はすべて同質とは言えない。資質や能力に応じた社会進出は大いに進めるべきだと思う。</p>	1

●女性が社会に出て行く機会をもっともっと増やしてほしいと思う。	1
●時代の流れで静かに流れるのがよく、丹後はよいところで、男も女も楽しくやっています。差別も余りない。	1
●最近の女性の力は男性をしのぐ強さを持っているようになってきたと思う。よいことだと思う。	1
●女性の場合は、2～3人の小グループの集まりで大きなわになるような仕組みを考えればよい。	1
●未だに古い考え方にとらわれ、女性に積極性が十分ではない人が多いように思われる。	1
●男女共同参画社会がなぜ必要なのか。日本の文化を大切にしてほしい。	1
●元気のある女の子を頭から押さえつけない。はっきりともの言える女性をはねない。これは男性が弱いから、もっとしっかりとした男性を育ててくれる世の中にしてほしい。	1
●家族の協力があって女性は勤められる。現在はいろんな面で昔とは変わってきてはいると思う。子どもが小さいときは主人の両親にすごくお世話になりました。感謝しています。長男の仕事の関係で別居しているが、私たちにできることはしてやらなければと思っている。女性も「ヤル気」で機会を作り頑張してほしい。	1
●男性が働き、女性が子どもを育てる。これは日本の文化ではないのか。母の愛情に見守られ育った子が当たり前であったが、現在は夫婦共働きが主となっている。生活の形が変わり、水準の高い生活をするにはお金が必要であるため、みんなが働いているような状態。人間的な豊かさは求められず、お金で得られるこの豊かさのみが強調された結果だと思う。男性も含め、こんな仕事をしたいとか、こんなことをしたいなんていう余裕があるのだろうか。ただ単にお金をもうける、それだけが主になっている気がする。	1
●女性が社会進出するためには、育児、介護など家庭生活が安心して任せられ、協力（理解）してもらうことが大切で必要だと思う。	1
●共働きで働きたくても、子どももいて日中の平日しか働けないが、求人が少ない。	1
●特に田舎の古いしきたりの中で生活しているのが多く、よいところは残し伝えていくべきであると思うが、男の人は「女は男より劣っている、男に従うべき」と幼い頃から見聞きして育っているので、学校教育、家庭のあり方が大切だと思う。	1
●男女共同参画は行政側は制度と啓発をしっかりと行うだけで、とりたてて具体的に押し付けがましい施策はとらないほうがよい。制度がしっかりしていれば、おのずと各個から地域へと共同参画は広がっていくと思う。	1
●市議、各種委員、区長などへ女性の進出を促進するよう積極的な働きかけが必要だと思う。	1
●女性が働きやすい様に環境を整え、みんなが支援できるようにしていくこと。婦人会組織が減少する今日、女性会で経験や知識を伝えていくこともよい。	1
●何事にも女性参加。何かの事業が京丹後市にきて、働く人が増えることを望む。	1

●男女共同参画も非常に大切なことではあるが、子育てにおいては保育所などに入所するまでは母親と毎日一緒にいることが子どもにとっては大切なことであるように思う。共働きをしないと生活できない状況を何とかしないと。	1
●育児休暇を取ると、無給で大変かと思いますが、今はパソコンなど細かい仕事が多いため、産後目が疲れる仕事をしないほうがよいと思うので、育児休暇を取得することを勧める。	1
●何年かけて話し合い、考えても、女性は出産をする限り平等にならないと思う。それならパートナーに優遇できることをしたり、出産した女性が女性として安心して生きていける環境づくりが必要だと思います。	1
●能力のある女性はどんどん仕事に登用していく社会づくりになるといい。人権に関する悩みはまだまだ相談しにくいのではないだろうか。	1
●田舎には特有のよいところもあるが、男女共同参画や女性問題については農村ほど封建的で、極めて遅れている。	1
●一般には平等であるべきだと思う。男女格差による適性に応じた就業も大いに結構だと思う。男女共に共同参画意識を向上させる必要があると思う。できる限り共同参画を望む。	1
●女性は結婚と同時に、社会から家庭に埋没してしまう為、共同参画は無理だと思う。	1
●日本に男性優位の根強い考え方がある限り、いろいろな問題の解決は難しい。特に田舎での男女に関する考え方はなかなか直りにくい。自分の子ども世代では少しでも改善できるとよいと思う。このアンケート自体質問項目に男女平等ではないことを前提とした意識が感じ取れる。このようなアンケートをしなくてもよい世の中になってほしい。	1
●理想と現実はなかなか一致しない。雇用平等法や男女平等権はよいことだと思うが、人間はそれぞれ役割がある。女性には男性にできない大きな役目があり、家族から絶対的に慕われる何ものにも変えられないやりがいや生きがいがあると思う。このことがなくなれば、家族制度の破壊につながる場合がある。常識はなくなる、離婚は簡単にする、親の恩を感じない、人権ばかりを主張して義務を果たさないのは問題があると思う。	1
●昔の考え方が多いので、男女平等の意識が低いと思う。京丹後市が住み心地のよい市になるよう頑張ってもらいたい。	1
●女性の社会参加の意識は大変高まってきていると思う。育児、介護施設の充実を図り、女性が社会の中で意欲的に働けるように支援してほしい。	1
●現在では男女の差別は目立つほどないと思うが、民間の会社では女性の管理職が少ないと思う。日本の人口が減少している昨今、女性が結婚せずに働くのがよいのか苦しい所である。女性にしかない子どもを生む権利を放棄することは日本の国力を低下させ、世界における日本の位置づけは低くなると思われる。結婚して子どもを育て大きくなったら、社会に復帰してほしいと思う。	1
●京丹後市の男女共同参画の実態施策を知らないので参考にならないかもしれないが、女性が外に出やすいよう、保育、介護福祉の充実を願う。	1

●女性の短大を止めるべきであると思う。そういうところから認識が変わらなければ、全然変わらない。上っ面の部分を一時的に変えようとしても、必ず元に戻ってしまう。男性が一步引くというような無理をしても、本音は些細な言動に出してしまう。	1
●セクハラについては明確な基準が必要。「被害者がそう感じたからセクハラ」という考え方は、法治社会としては通用しないと思う。痴漢については冤罪を防ぐ手段を考えないと、取締りの強化だけでは不十分である。	1
●平等の権利は必要だが、基本的に男と女は違う。全く同じにはできない。子どもを産まない年齢になれば、仕事も途中で抜けることがないが、重要な仕事であれば出産する可能性がある女性では、考えて仕事を割り振らないといけないため、会社の業績に関わると思う。	1
●特に身近では女性の政治への参加は全くなく、市政では男性中心にまわっていると思う。女性の立場から意見が聞かれないうように思う。	1
●1. ホテルの番頭さんに女性がいない 2. 相撲の土俵に女性が登れない 3. 各地に残る「女人禁制」 4. 首長などに女性になると、珍しいことのようにメディアが取り上げる 5. 頻発する公務員のセクハラ問題 これらについて改めて考え直すべき。	1
●一般的に男女は特性が少々異なる。何もかも平等というのは難しいと思う。	1
●他都市に住んだ後、京丹後市に移ってきた。京丹後のイメージを男女差別と答える人が多かったが、イメージ通りだった。他の地域よりも考え方が10年くらい遅れているように感じる。嫁の立場の弱さなど。これでは京丹後に嫁に来る人は少なくなると思う。住みにくいまちは、人口が減っていくことへとつながっていくと思う。	1

<社会全般への意見>

意見	件数
●若い人達に頑張ってほしい。	2
●30~40代の人々にもっと勉強してもらい参画すべき。頭の弱らない内に、若いときの目で世の中をしっかりと見てもらい、考えてほしい。もっともっと意見を発してほしい。家の中ばかり、また外ばかりみてもだめ。両方見つめて考え行動を起こしてほしい。	1
●女性の研修や教育の場は多いが、男性も教育の場・学ぶ機会を多くするべきだと思う。	1
●小学校から中学、高校にかけての教育が根本となって、意識が高まっていくと思います。この時代のよい環境づくりが大切だと思うし、新聞や読書を通していろいろ考える力をつけさせたいです。	1
●社会がすすんだというか、かわってきたというか、自由勝手な日常行動が、今の子ども達には正しい方法が分からないというような時代に変化してきた。	1
●高齢化社会の到来で60歳以上の人たちの地域社会の様々な分野への協力が不可欠といながら、実際は年齢制限（65歳までなど）などで間口を狭くした取り組みが多い。働く意欲、協力する意欲のある健康な高齢者をもっと利用すべきである。	1

●京丹後市になってから感じたことですが、テレビ等の関係でしょうか、人と人との絆とかが薄れているような感じが特にしました。	1
●低料金で英会話や料理教室を開いてみては。20～30代の主婦が興味を持ち、参加しやすい活動やサークルなどが広まると人口も増加するのでは。	1
●男女共同参画、女性問題にしても、昔で言う道徳教育というか、人間として人としてどう生きるか、人としてどう交わるかだと思ふ。家族とは、命とは、いろいろ意識を深めることだと思ふ。	1
●近親者にDVがあった。職場の上司に訴えたが、結局最終的には退職の方向へと追い込まれた。管理者への「相手の問題を聴く姿勢、聴き方」「自己が於かれている立場の再確認」教育、「管理者の姿勢」教育の場が大切に思う。職員がいて職場が成り立っていることを忘れていて管理者、上司が多すぎる。	1
●今は個人は一生懸命になられるが、横のつながりが少ないと思う。もっとボランティア精神があってもよいのではないかと思います。	1
●企業に勤めている人は65歳まで働けるが、55～65歳の10年間年金がいただけるまでの間、仕事がない人が多い。自殺する人、結婚していない人、女性より弱い男性が多い。京丹後に企業をつくってほしい。	1
●50～60歳くらいの女性が気軽に参加できる場所がほしい。	1
●互いに相手を思いやる生活が大切。子どもでもその他のことや良いところを見つけてあげること、感謝の気持ちを口に出して伝えること、人のせいにしない。	1

<市政・施策・市への意見>

意見	件数
●若い人たちの働く場が必要。	4
●市の予算も補助金の質をもっと考え、本当に必要な事業への出費を見極めるべきだと思う。	4
●性別、年齢を問わず、特に女性の積極的社会参加促進の為にも、財政を再度見直し、知識不足の改善、子育て等の職業訓練、保育サービス等の支援、サポートの充実に優先的に予算投下をはかり、より安心のできる社会づくりをお願いします。	1
●老人に対するサービスは目に付くが、若い人に対する市としての行事・サービスは全然みられない。	1
●書類上だけの離婚で一緒に住んでおられる人がいて、母子手当をもらっておられ、医療費も0円というのはどうかと思います。税金で支払われていると思うので、きちんと母子家庭なのかを調べたほうがよいと思います。	1
●実際のところ、男女共同参画の取り組みがどのように活動されているかが分かりかねます。	1
●これからの人たちの為にも市の方でも頑張ってもらいたい。	1

●お年よりも確かに大切であるが、必要なのは子ども達のほう。保育料金は高額すぎるし、京丹後では無料で屋根つきのパークがない。先を考えるのであればもう一度子どもを第一として考えてみてはどうか。市民からの税金を使うのであれば、一つくらいはよいことをしたらどうか。	1
●結局は同じような人が身内で活動して、一部で満足している部分強い。	1
●民生委員の方が個人情報を守っていないように思う。	1
●京丹後市がよくなるように、役所職員は真剣に考え取り組んでほしい。税金で食べていることを意識して。まちがきれいだとまず気持ちいいので、役所職員は国道などにゴミが落ちていたら拾ってきれいにしてほしい。それを見た市民がいい方向にすすむと思います。	1
●市の母子家庭と父子家庭の扱いに格差がありすぎるのではないか。収入だけではなく、父子家庭に対して子育て教育に対する情報、支援があるべきである。	1
●今は資格の時代と呼ばれているが、京丹後市でも資格がたくさんとれるように教室やセミナーみたいなのを開催してほしい。雇用にも少しは影響してくると思う。例えば、パソコンなどを教えてもらいたい。	1
●アンケートには回答するが、これで市政に反映されるとは思わない。もっと職員や市長が勉強するべきだと思う。	1
●京丹後市の活性化をもっと進めてほしい。	1
●市民税、固定資産税を減らしてください。夫婦2人でどれだけ働いても、楽にならない。年間2つの税金だけで60万、それに加えてその他の税金、そしてローンの返済、そして将来への不安。	1
●京丹後市の職員は夫婦で勤めるべきではない。一軒でも多く豊かな暮らしをするために、結婚したら辞めることを望む。	1
●区の役員を経験したような人が、公の場で差別発言をするので困る。	1
●近年子どもたちがしつけと称して、身体や心の暴力を受けていることをニュースで聞いて心を痛めている。子どもに対して暴力を振るう親は、昔自分も暴力を受けていることが多いので、行政としてそこを理解して対応してあげてほしい。	1

<アンケートに対する意見>

意見	件数
●高齢者には答えにくかった。	4
●アンケートの質問をもう少し検討してほしい。	4
●調査の結果をしっかりと反映して欲しい、結果を知らせてほしい。	3
●私達の生まれた時代と今の人たちとの生き方が違いすぎて、分からない部分が多く、回答も不十分だと思います。	1
●生活、考えを見つめ直す機会になりました。よいアンケートでした。	1

Ⅲ 調査結果からみた課題

1. 男女平等をめぐる意識改革

男女平等の現状については、社会通念や日本全体、家庭、職場において、依然として男性が優遇されているという回答が多くなっています。一方、比較的平等であるとされた分野は学校教育のみであり、また、全般に女性の方が不平等感を感じている傾向がみられますが、前回調査との比較をみると、全般に、男性の方が優遇されているという意識は低くなっています。

男女平等の意識については、女（男）だから、女（男）のくせにといった考え方や、亭主関白の男性などに対する抵抗感が強い結果となっています。前回調査との比較をみると、ほぼ同様の結果が多くなっていますが、「男は仕事」「女は家庭」といった考え方や、亭主関白の男性については、前回調査よりも抵抗感が弱くなっています。

これらの結果から、特に、家庭や職場における男女平等についての啓発、男性の意識改革、女性自身の参画意欲の高揚などを推進するため、生涯学習をはじめ地域、まちづくり活動等、あらゆる機会における啓発の推進と女性の社会参画のための支援が課題と考えられます。

2. 女性の就労について

女性が職業をもつことへの意識については、出産・育児期以外は職業をもつべきとする人が3～4割、育児期でも職業を続けるべきとする人が3～4割に達しており、あわせると約7割の人が、女性が子どもをもったあとも職業をもつことに賛同している結果となっています。

女性の管理職比率への意識については、適性のある女性はどんどん登用していくべきという回答が多く、参画を高めていく手法については、すべての仕事を男女がともに担い合うようにする、男性・女性の意識改革を進める、という意見が多くなっています。また、女性では、女性の教育や研修機会を充実する、という意見も多くなっています。

育児・介護と仕事の両立に関する希望については、このまま働きたいとする人や、条件のあうサービスがあれば働きたいとする人が多くなっています。仕事と家庭生活の両立のために必要なことについては、「家族の理解と協力」がもっとも多く、次いで「介護や育児サービスの充実」、「託児所、延長保育、放課後児童クラブ、介護施設など社会環境の整備、充実」など、サービスや環境の整備を希望する人が多くなっています。また、全ての項目において女性の方が強く必要性を感じており、全体としてもっとも回答の多い「家族の理解と協力」においては、男女で30ポイント以上の差となっています。

これらの結果から、安心して子どもを産み、育てることができ、育児・高齢者介護などと仕事を両立しながら、安定した生活基盤を築けるよう、介護や子育ての支援体制を充実させていくとともに、特に男性の意識の改革に取り組んでいく必要があります。

3. 人権の確立

恋人や配偶者からの身体的・心理的暴力について、自分が暴力を受けたことがあるとする回答は女性で多く、約1割が経験者となっています。その時の対処については、家族や親族などに相談した人がもっとも多くなっていますが、何もしなかったり、自分ひとりで考えて解決しようとした人も多くなっています。また、専門機関などへ相談した人はごく僅かにとどまっています。その後の解決状況についても、未解決の状況が続いている人が2割弱となっていることから、公的・民間の相談機関などの周知を図っていく必要があります。

暴力や性犯罪等から女性の人権を守るために必要なことについては、犯罪の取り締まりを強化する、メディアにおいて性や暴力表現にもっと配慮する、相談機関や保護施設を整備・拡充するといった意見が約4割を占めています。

また、恋人や配偶者からの身体的・心理的暴力についての、前回調査との比較をみると、知識として知っている人、言葉を聞いたことがある人が少なくなっていることから、相談機関・施設の整備や充実とともに、様々なメディアを通じた広報により情報の浸透を図り、潜在的なケースを早期発見するためのネットワークの確立、被害者保護と自立支援のための体制整備、ひいては暴力を許さない社会風土づくりへの取り組みが必要です。

4. 男女共同参画の実現

夫婦の仕事・家事分担については、家事労働に関しては主に妻が担当しているとする人が多く、仕事や地域活動など社会参画に関わることでは主に夫が担当しているとする人が多くなっており、男女の役割分担意識がうかがえます。このことから、家庭生活における男女の役割意識についての啓発や、介護や子育て支援の充実、家庭や地域社会における男女共同参画の促進を行い、男女がともに社会で活躍できる環境を整えていく必要があります。

まちづくりへの女性意見の反映については、反映されていないと感じる人が全体の約2割となっており、わからないと回答している人が過半数となっています。前回調査との比較をみると、反映されていないと感じる人は少なくなり、反映されていると感じる人が多くなっています。政策決定の場に女性の参加が少ない理由については、「女性の参加を積極的に進めよう」と意識している人が少ない、「男性優位の組織運営」、「女性の積極性が十分でない」という意見があげられています。これらのことから、女性のまちづくりへの参加機会の充実と意識改革を図るとともに、女性の意見が反映されやすい環境を整えていく必要があります。

委員への女性の参画意向については、時間に余裕があれば、知識や能力がある分野なら、といった条件つきも含めると、全体の6割以上の方が参画意向を示しており、比較的意向が高いといえます。男性が自分の妻などに対して参画を勧めるかどうかでは、7割以上が勧めると回答していることから、女性側の積極性を一層引き出し、地域や組織のリーダーとして活動しようとする意識を高めることが重要です。

男女共同参画社会の実現に必要なことについては、「保育や介護サービスの充実」がもっとも多く、次いで「企業や事業所への育児・介護・看護のための休業制度等の普及」、「企業や事業所への労働条件や待遇の改善普及」、「男女平等について、男性への啓発・意識改革」など、企業や事業所における環境整備や、男性の意識改革を求める声が多くなっています。

これらの結果から、男女が対等に活躍できる社会の実現に向けては、家庭、地域、職場などにおいて、ともに安心して満ち足りた生活を得られる環境の整備と、住民意識の醸成の双方が不可欠であることなど、多面的な施策の推進が求められています。

IV 資料

あなたの声を市政に

～男女共同参画社会づくりのための市民意識調査～

調査の趣旨とご協力のお願い

平素は、京丹後市の市政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

京丹後市では、男女が共に社会参画できるまちづくりを目指し、その行動指針として平成17年度に「京丹後市男女共同参画計画～デュエットプラン 21～」(H18～H27)を策定し、様々な取組を進めています。今回「デュエットプラン 21」の中間年にあたり、重点背策の見直しを図るため、皆様から男女平等に関する意識や実態などをお伺いするアンケート調査を実施することになりました。

調査結果は、統計データとしてのみ使用し、他の目的に使用することはありませんので、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成22年 4月

京丹後市長 中山 泰

◇◇調査票の記入にあたってのお願い◇◇

1. このアンケートの回答は、封筒の宛名ご本人にお願いします。(※代筆可)
2. できる限り、無回答のないよう、ご自身の考えに近いものをお選びください。
3. 「その他()」にあてはまる場合は、その具体的な内容を()内にご記入ください。
4. ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に、「調査票」のみを入れて4月30日(金)までにポストにご投函ください。
5. 返信用封筒は、無記名でお願いします。また、切手は不要です。
6. 調査結果は、集計後に広報誌等において公表します。

■調査に関する問い合わせ先■

京丹後市役所 市民部 市民課

TEL 69-0210

FAX 62-6217

I. あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなたのお住まいはどちらですか。

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 峰山町 | 3. 網野町 | 5. 弥栄町 | 7. その他 |
| 2. 大宮町 | 4. 丹後町 | 6. 久美浜町 | |

問2 あなたの性別はどちらですか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3 あなたの年齢はおいくつですか。

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 20歳代 | 3. 40歳代 | 5. 60歳以上 |
| 2. 30歳代 | 4. 50歳代 | |

問4 あなたは結婚されていますか。

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

問5 あなたはお子さんがおられますか。また、何人おられますか。

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1. いない | 3. 2人いる | 5. 4人以上いる |
| 2. 1人いる | 4. 3人いる | |

問6 あなたの同居の家族構成はどれにあたりますか。

- | | | |
|-----------|-----------------|-----------|
| 1. ひとり暮らし | 3. 親と子（2世代世帯） | 5. その他（ ） |
| 2. 夫婦だけ | 4. 親と子と孫（3世代世帯） | |

問7 あなたの職業はどれにあたりますか。

（2つ以上の職業をおもちの場合は、主たる職業を1つだけ選んでください。なお、出産・育児・介護などの休暇中の場合は、働いているものとして回答してください。）

- | | |
|---------|-----------------|
| 1. 会社員 | 6. パート・アルバイト・内職 |
| 2. 公務員 | 7. 学生 |
| 3. 農林漁業 | 8. 家事専業 |
| 4. 機業 | 9. 無職 |
| 5. 自営業 | 10. その他 |

（結婚されている方におたずねします。）

問8 あなたは共働きをしていますか。

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

Ⅱ. 男女平等に関する意識についておたずねします

問9 男女平等は憲法で保障されていますが、現在、日本の社会において男女の地位は、どれにあてはまると思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものに○印をつけてください。

項 目	男性の方が非常に 優遇されている	男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇されている	どちらかといえば 女性の方が非常に 優遇されている	わからない
① 家庭生活(家事・育児・介護面など)では						
② 職場では						
③ 学校教育の場では						
④ 地域活動の場(自治会・ボランティア活動など)では						
⑤ 政治や行政の政策・方針決定の場では						
⑥ 法律や制度の上では						
⑦ 社会通念や慣習・しきたりなどでは						
⑧ 日本全体の男女の地位は						

問10 あなたは次の事柄についてどのように感じられますか。それぞれの項目について、あてはまるものに○印をつけてください。

項 目	感じる 非常に抵抗を 感じる	少し抵抗を 感じる	抵抗は感じ ない	わからない
① 「女(男)だから」「女(男)のくせに」といった言い方、考え方				
② 「男は仕事」「女は家庭」といった考え方				
③ 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てること				
④ 亭主関白の男性				
⑤ 結婚して夫の姓を名乗ること				
⑥ 結婚して妻の姓を名乗ること				
⑦ 女性が結婚しないで仕事に専念すること				
⑧ 離婚すること				

Ⅲ. 職業生活についておたずねします

問11 あなたは、1日あたり平均するとどのくらい残業されていますか。

1. ほとんどしない	5. 週に何度かは3時間以上することがある
2. 1時間程度	6. 月に何度かは3時間以上することがある
3. 2時間程度	7. その他 ()
4. 3時間以上	8. 無職

問12 あなたの現在の就労状況についてどう思われていますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 1. もっと収入の良い仕事をしたい | 7. おおむね満足している |
| 2. もっと多くの日数や時間働きたい | 8. その他 () |
| 3. もっとやりがいのある仕事をしたい | 9. 無職 |
| 4. 家事や育児のために勤務時間を減らしたい | |
| 5. 余暇のために勤務時間を減らしたい | |
| 6. 時間や日数など、もっと柔軟な勤務体制がよい | |

問13 あなたの職業・職場について、あてはまることだけがあればすべて選んでください。

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1. 就職活動時に男女の不平等を感じた | 7. 結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい |
| 2. 職務内容に男女の不平等を感じる | 8. セクハラ被害にあったことがある |
| 3. 給与や昇進に男女の不平等を感じる | 9. 身近にセクハラがあるのを知っている |
| 4. 研修機会などが男女不平等である | 10. その他 () |
| 5. 女性の意見や価値観が尊重されない | 11. 無職 |
| 6. 性別のために上司や取引先などから信頼されないことがある | |

問14 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。

あてはまるものを1つだけ選んでください。

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 女性は職業をもたない方がよい |
| 2. 結婚するまでは、職業をもつ方がよい |
| 3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい |
| 4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい |
| 5. 子どもはつくらずに、そのまま職業を続ける方がよい |
| 6. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい |
| 7. その他 () |
| 8. わからない |

問15 一般的にどこの職場でも、まだまだ女性の管理職の比率が低い状況にありますが、これについてあなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1. 適性のある女性はどんどん登用していくべき | 4. このままでよい |
| 2. ある程度は男女の比率を同じにするべき | 5. その他 () |
| 3. 女性は管理職に向かないので、あまり積極的に登用しなくてよい | |

問16 職場において、責任ある職務や指導的立場などにもっと女性が参画するためには、どうするのがよいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 女性の教育や研修機会を充実する | 5. プロジェクト・チームなどを発足する |
| 2. 女性の意識改革を進める | 6. すべての仕事を男女がともに担い合うようにする |
| 3. 男性の意識改革を進める | 7. その他 () |
| 4. 一定の割合で女性管理職の登用を進める | |

(女性の方におたずねします。)

問17 あなたは、ご自身に機会が与えられれば、指導的立場や管理職につきますか。

- | | |
|--------------------------------|--------------|
| 1. ぜひやってみたい | 4. 命令ならばやる |
| 2. 得意とする分野ならばやってみたい | 5. どちらともいえない |
| 3. 他にも女性が積極的に参加するならば
やってみたい | 6. あまりやりたくない |
| | 7. その他 () |

問18 育児休業はとられましたか。その時の休業期間はどのくらいでしたか。

(お子さんがおられる方におたずねします。)(男性もお答えください。)

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. 育児休業はとらずに仕事を続けた | 6. 3～6カ月未満 |
| 2. いったん出産退職した | 7. 6カ月～1年未満 |
| 3. 1週間以内 | 8. 1年程度 |
| 4. 1カ月未満 | 9. 1年以上 |
| 5. 1～3カ月未満 | 10. 無職 |

問19 結婚・出産後のあなたの就労・退職について満足していますか。

あてはまるものを1つだけ選んでください。(男性もお答えください。)

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 満足 | 6. もっと家庭生活を優先しながら
働きたかった |
| 2. 退職せずに働きたかった | |
| 3. 退職せずに育児休暇をとりたかった | 7. 退職して家庭や育児に専念したかった |
| 4. もっと長く育児休暇をとりたかった | 8. その他 () |
| 5. もっと長時間働きたかった | 9. 独身 |

問20 将来、育児や介護の必要な家族ができた場合、仕事を続けたいと思いますか。

現在、育児や介護中の方は現在の希望をお答えください。

あてはまるものを1つだけ選んでください。

- | |
|-------------------------------|
| 1. 仕事の都合が許せばこのまま働きたい |
| 2. 条件のあう保育・介護サービスがあれば働きたい |
| 3. 家族が育児・介護をもう少し分担してくれれば、働きたい |
| 4. ある程度、育児や介護が一段落すれば、働きたい |
| 5. 完全に育児や介護から手が離れるまでは、働かない |
| 6. その他 () |
| 7. 無職 |

問21 仕事と家庭生活の両立のために必要なことはどんなことだと思いますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 育児サービスの充実 | 8. 男性の労働時間の短縮や柔軟な勤務体制の普及 |
| 2. 介護サービスの充実 | 9. 女性の労働時間の短縮や柔軟な勤務体制の普及 |
| 3. 男性の育児休業制度等の普及 | 10. 家族の理解と協力 |
| 4. 男性の介護休業制度等の普及 | 11. 会社など組織の管理者の理解と協力 |

- | | |
|--------------------------|--|
| 5. 女性の育児休業制度等の普及 | 12. 託児所、延長保育、放課後児童クラブ、介護施設など社会環境の整備・拡充 |
| 6. 女性の介護休業制度等の普及 | |
| 7. 育児・介護は女性がするものという意識の改革 | 13.その他（ ） |

IV. 家庭生活についておたずねします

問22 あなたの生活時間についてお答えください。およその時間を記入してください。

■平日

① 仕事	時間	分
② 家事	時間	分
③ 子育て	時間	分
④ 介護や看護	時間	分
⑤ 余暇	時間	分

■休日

① 仕事	時間	分
② 家事	時間	分
③ 子育て	時間	分
④ 介護や看護	時間	分
⑤ 余暇	時間	分

(結婚されている方におたずねします。)

問23 あなたのご家庭では、夫婦のどちらが主に次のことをされていますか。

それぞれの項目について、あてはまるものに○印をつけてください。

項 目	主に夫	夫婦同程度	主に妻	夫婦以外
① 生活費を得る				
② 食品などの買い物				
③ 食事のしたく				
④ 食事の後片付け				
⑤ ゴミ出し				
⑥ 部屋の掃除				
⑦ 風呂の掃除				
⑧ 洗濯				
⑨ 洗濯物を干す				
⑩ 家計の管理				
⑪ 子どものしつけ、世話				
⑫ 学校、PTAへの出席				
⑬ 親や病人の介護・看護				
⑭ 区や隣組の会議、行事				
⑮ 農作業				

(結婚されている方におたずねします。)

問24 問23の項目のうち、夫または妻にも協力してほしいと思う項目はどれですか。

あてはまるものすべてを①～⑮の番号でお答えください。

()

V. 人権についておたずねします

問25 あなたは夫婦や恋人からの身体的・心理的な暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））について、経験したり、見聞きしたことがありますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 自分が暴力を受けたことがある | 4. 知識として知っている |
| 2. 自分が暴力をふるったことがある | 5. 言葉は聞いたことがある |
| 3. 身近に経験した人がいる | 6. 言葉も聞いたことがない |

（問25で1. 2. 3. を選んだ方におたずねします。）

問26-1 その時、あなたはどうしましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| 1. 夫婦（恋人同士）で話しあった | 7. どこに相談したらよいかわからず、誰にも相談しなかった |
| 2. 家族や親族などに相談した | |
| 3. 友人や近所の人に相談した | 8. 相手が怖かったので、誰にも相談しなかった |
| 4. 公的な機関に相談した | 9. 自分ひとりで考え、解決しようとした |
| 5. 民間の機関に相談した | 10. 何もしなかった |
| 6. 医療機関に相談した | 11. その他（ ） |

問26-2 その結果、問題は解決しましたか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 解決した | 4. 解決せず、以前より状況が悪くなっている |
| 2. 解決の方向へ向かっている | 5. わからない |
| 3. 解決せず、以前と同じ状態である | 6. その他（ ） |

問27 女性に対する暴力や性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメントなどから人権を守るために何が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 犯罪の取り締まりを強化する |
| 2. 法律・制度の制定や見直しをする |
| 3. 相談機関や保護施設を整備・拡充する |
| 4. 家庭における男女平等や性についての教育を充実させる |
| 5. 学校における男女平等や性についての教育を充実させる |
| 6. テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する |
| 7. その他（ ） |

VI. 男女共同参画社会についておたずねします

問28 あなたがこの1年間に行った社会活動や、今後行いたい社会活動はどれですか。

あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1. 趣味、学習活動、スポーツ活動 | 4. 国際交流、まちづくり、地域おこし活動 |
| 2. 地域活動（自治会、婦人会、老人会、PTA、消防団等） | 5. 民生委員、審議会の委員等の公的委員活動 |
| 3. 福祉、ボランティア活動 | 6. その他（ ） |
| | 7. 特にない |

問29 京丹後市のまちづくりや行政には、女性の意見が反映されていると思いますか。
あてはまるものを1つだけ選んでください。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 十分反映されている | 4. 全く反映されていない |
| 2. まあまあ反映されている | 5. わからない |
| 3. あまり反映されていない | |

問30 政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識 | 5. 女性の活動を支援するネットワークの不足 |
| 2. 男性優位の組織運営 | 6. 女性の積極性が十分でない |
| 3. 家族の支援・協力が得られない | 7. 女性の参画を積極的に進めようとしていない人が少ない |
| 4. 女性の能力開発の機会が不十分 | 8. その他 () |

問31 もし、あなたが（男性の場合は、妻など身近な人）が京丹後市からいろんな委員会等の委員になってほしいと依頼されたらどうしますか。
あてはまるものを1つだけ選んでください。

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1. 積極的に委員になる（委員になることを勧める） | |
| 2. 時間などに余裕があれば委員になる（委員になることを勧める） | |
| 3. 知識や能力がある分野なら委員になる（委員になることを勧める） | |
| 4. 断る（断ることを勧める）（断る理由 | ） |

問32 男女共同参画を推進していくために、京丹後市としてどのようなことが必要だと思いますか。必要だと思うことを5つまで選んでください。

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 男女平等について、女性への啓発・意識改革 | |
| 2. 男女平等について、男性への啓発・意識改革 | |
| 3. 男女平等についての学校教育の充実 | |
| 4. 女性は女性らしく、男性は男性らしく生きるための教育やしつけ | |
| 5. 政治や行政への女性の参画機会の増大 | |
| 6. 法律や制度の見直し・改善 | |
| 7. 保育や介護サービスの充実 | |
| 8. 女性の教育や職業訓練・研修機会の充実 | |
| 9. 男性の料理教室など生活技術の習得機会づくり | |
| 10. 健康で暮らせるための保健、母性保護の推進 | |
| 11. 企業や事業所への平等な雇用への啓発 | |
| 12. 企業や事業所への労働条件や待遇の改善普及 | |
| 13. 企業や事業所への育児・介護・看護のための休業制度等の普及 | |
| 14. 相談事業の充実 | |
| 15. ボランティア活動への支援 | |
| 16. その他（具体的に | ） |

最後に、男女共同参画や女性問題について、ご意見、ご感想がありましたらご自由にご記入ください。

.....
.....
.....
.....

協力ありがとうございました。

男女共同参画社会に向けての意識調査

結果報告書

平成 22 年 7 月

発行 京丹後市役所 市民部 市民課

